

ESMPRO/JMSS Ver7.2

ユーザーズマニュアル

はしがき

本書は、ESMPRO/JMSS の機能と操作方法について説明しています。ESMPRO/JMSS を利用することで、クライアント/サーバ環境上でのジョブの運用をより柔軟かつ簡単に行うことができます。

本書の構成は次のとおりです。

章	タイトル	内 容
1	概要	ESMPRO/JMSS の機能概要について
2	機能・操作説明	ESMPRO/JMSS の使い方について
3	他製品との連携	ESMPRO/JMSS と他の製品の連携について
4	ESMPRO 製品との連携	ESMPRO/JMSS と他の ESMPRO 製品との連携について
5	コマンドリファレンス	ESMPRO/JMSS で提供するコマンドの使用方法について
6	メッセージ形式	ESMPRO/JMSS のメッセージの表示形式について
7	起動エラーコード	ESMPRO/JMSS で設定される起動エラーコードについて
8	諸元	ESMPRO/JMSS の諸元について
9	注意事項	ESMPRO/JMSS の注意事項について
付録 1	関連製品	ESMPRO/JMSS の関連製品について
付録 2	Q&A 集	ESMPRO/JMSS の Q&A 集

セットアップ方法については、製品に添付のセットアップカードを参照してください。

2012年 9月 初版

2012年 12月 2版

備考

- (1) 本書はWindows Server® 2003、Windows Server® 2003 R2、Windows Server® 2008、Windows Server® 2008 R2、Windows® XP、Windows Vista®、Windows® 7に対応しています。
- (2) Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows Serverは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Visual Basic、Visual C#、Visual C++、.NET Framework は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

CA ARCserve® Backupは米国CA Technologiesの米国およびその他の国における登録商標です。

JMSSは、日本電気株式会社の登録商標です。

その他の会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

目 次

はしがき	i
目次	ii

第1章 概要	1
1.1 JMSSとは	1
1.2 JMSSの機能／特徴	2
1.3 JMSSの動作環境	3
1.4 JMSSの基礎知識	4
1.4.1 用語定義	4
1.4.2 JMSSの利用環境	6
1.4.3 業務(ジョブ)の投入／稼働／監視	7
1.4.4 バッチファイル形式のジョブ	9
1.4.5 ジョブキューとは	10
1.4.6 自動負荷分散とは	11
1.4.7 イベントとは	11
1.4.8 JMSSのセキュリティ	12
1.4.9 JMSS/JD とは	15
1.4.10 ジョブの実行ユーザ・実行場所	17
第2章 機能・操作説明	19
2.1 JMSSを使用する前に	19
2.2 ジョブ稼働・監視(JMSS/JLook)	20
2.2.1 JLook を利用するには	20
2.2.2 業務(ジョブ)を投入するには	23
2.2.3 業務(ジョブ)を監視するには	27
2.2.4 業務(ジョブ)を強制終了するには	31
2.2.5 ジョブキューに登録されているジョブを制御するには	32
2.2.6 業務(ジョブ)を再投入するには	33
2.2.7 ジョブネットワークを監視するには	34
2.2.8 ジョブネットワークの一時停止、再開するには	36
2.2.9 異常終了したジョブネットワークを継続実行するには	37
2.2.10 監視したい業務(ジョブ)を見つけるには	38
2.2.11 監視情報を出力するには	39

2.2.12	JLook の環境を設定するには	42
2.2.13	サーバと再接続するには	47
2.3	自動運転・スケジュール管理 (JMSS/JSchedule)	48
2.3.1	JSchedule を利用するには	48
2.3.2	スケジュールを登録するには	50
2.3.3	スケジュールを表示するには	56
2.3.4	スケジュールを変更・削除するには	57
2.3.5	カレンダーを設定するには	59
2.3.6	スケジュールデータの保存・読み込みをするには	61
2.3.7	カレンダーの保存・読み込みをするには	63
2.3.8	イベント起動を登録するには	64
2.3.9	イベント起動ジョブを変更・削除するには	68
2.3.10	イベント起動ジョブの保存・読み込みをするには	69
2.3.11	JSchedule の環境を設定するには	69
2.4	業務運用メニュー (JMSS/JMenu)	70
2.4.1	JMenu を利用するには	70
2.4.2	業務運用メニューを作成するには	74
2.4.3	業務運用メニューを修正するには	78
2.4.4	JMenu の環境を設定するには	79
2.5	業務構築支援 (JMSS/JBuild)	82
2.5.1	JBuild を利用するには	82
2.5.2	ジョブネットワークを作成するには	85
2.5.3	ジョブネットワークを修正するには	110
2.5.4	ジョブネットワークをバッチファイルに変換するには	111
2.5.5	ジョブネットワークを CSV 形式で保存するには	112
2.5.6	CSV 形式ファイルを読み込むには	114
2.5.7	ジョブネットワーク情報を印刷するには	115
2.5.8	JBuild の環境を設定するには	116
2.6	運用環境設定 (JMSS/JEnv)	117
2.6.1	運用環境設定をするには	117
2.6.2	ジョブキュー情報を表示、設定するには	118
2.6.3	ジョブ稼働マシンを表示、設定するには	123
2.6.4	ユーザジョブキューを作成するには	124
2.6.5	ユーザジョブキューを削除するには	124

2.6.6	ジョブ稼働マシンを追加するには.....	125
2.6.7	ジョブ稼働マシンの名前を変更するには.....	126
2.6.8	サービス・JMSS モジュール環境を表示・設定するには.....	127
2.6.9	負荷分散方式を表示・設定するには.....	134
2.6.10	操作ログ環境を設定するには.....	135
2.6.11	JMSS セキュリティを設定するには.....	136
第 3 章	他製品との連携	139
3.1	バックアップジョブとの連携.....	139
3.2	アプリケーション実行環境.....	140
第 4 章	ESMPRO 製品との連携	141
4.1	統合ビューアとの連携.....	141
4.1.1	他の JMSS サーバに接続するための設定.....	142
4.1.2	統合ビューアから JMSS を起動するには.....	143
4.1.3	補助機能.....	145
4.1.4	別セグメントサーバへアクセスするためのネットワーク設定.....	146
4.1.5	統合ビューアおよび ESMPRO/JMSS でのサーバ定義の差異.....	146
4.2	アラート通報.....	147
4.3	マシンの自動電源制御.....	148
4.3.1	安全な電源切断.....	148
4.3.2	強制電源切断.....	148
4.3.3	スタートアッププログラム.....	149
第 5 章	コマンドリファレンス.....	151
JCMD		151
JSEND		154
JERECV		155
JALERT		156
JMAIL		157
JVER		159
JCSVLOG		160
JCSVSCH		161
JCTLBOX		163
JCTLSRV2		165
JDCFG		167
JOFF		168

第 6 章	メッセージ形式	169
第 7 章	起動エラーコード	171
第 8 章	諸元	173
第 9 章	注意事項	175
付録 1	関連製品	177
付録 1-1	ESMPRO/JMSS 開発キット JAPI	177
付録 1-2	ESMPRO/JMSS ユーティリティ	178
付録 1-3	ESMPRO/JMSS クラスタ連携オプション	180
付録 1-4	ESMPRO/JMSS EventManager	181
付録 1-5	ESMPRO/JMSS ジョブ連携オプション	182
付録 2	Q&A 集	183

第1章 概要

1.1 JMSSとは

JMSS(ジョブ運用管理 : Job Management Service System)は、Windows のクライアント/サーバ環境で、高度化する業務運転の自動化/省力化をサポートするミドルウェアです。

JMSS を利用することにより、次の導入効果が期待できます。

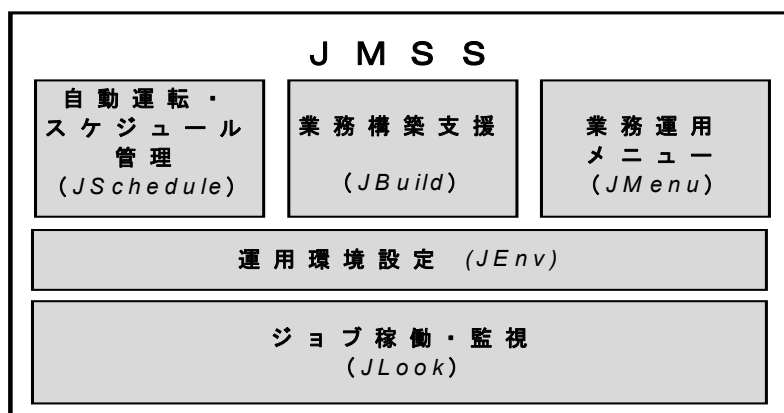
- ・ジョブ運用業務の省力化
- ・システム運用部門の負荷軽減
- ・導入システム規模に合わせた運用業務の構築

1.2 JMSSの機能／特徴

JMSS は、基幹業務や部門業務システムの運用を柔軟に行うために次の機能を備えています。

- ・クライアントからのジョブの投入／稼働監視／強制終了
- ・多種多様化する日次／月次ジョブのスケジューリング
- ・定型化した一連の業務の自動運転

JMSS は次の 5 つの機能で構成されています。



■ジョブ稼働・監視(JMSS/JLook)

サーバで稼働するジョブの起動・監視・強制終了・一時停止・再開を任意のサーバおよびクライアントから行うことができます。さらに、実行多重度制御・自動負荷分散機能を有効に利用することにより、効率的で円滑な業務運用が実現できます。

また、ジョブの稼働状態は様々な条件による監視情報の絞り込みができるとともに、ガントチャート表示、標準出力表示、ジョブネットワークの階層状況表示等、豊富な機能を備えており、システムのジョブ運用監視を的確に行うことができます。

■自動運転・スケジュール管理(JMSS/JSchedule)

ジョブの稼働日時、稼働周期(毎日、毎週、毎月など)、繰り返し実行指定をスケジュール登録することにより、業務の自動運転を行うことができます。

また、稼働日が休止日と重なってしまった場合には、前後シフトや中止など、柔軟な振り替えが可能です。

■業務運用メニュー(JMSS/JMenu)

定型業務をメニュー化することにより、業務アイコンをクリックするか番号入力するだけの簡単な操作で、業務を実行することができます。

■業務構築支援(JMSS/JBuild)

パート図を描くような簡単な操作で、複数ジョブの実行順序(ジョブネットワーク)を設定することができます。また、ジョブネットワークのパート図から JS(BAT ファイル)を簡単に作成することができます。ジョブネットワークは、複数マシンの連携実行や各ジョブの異常終了時リカバリジョブ指定、イベント送信／受信指定が行えます。

■運用環境設定(JMSS/JEnv)

ジョブキュー管理、負荷分散、JMSS セキュリティ等の設定を行うことができます。使用しているマシン環境に合った運用設定を行うことにより、より快適な業務運用が図れます。

1.3 JMSS の動作環境

クライアント／サーバ環境で JMSS を動作させるには、それぞれ適切なハードウェアとソフトウェア、ネットワークの環境条件を満たす必要があります。

動作環境については、セットアップカードを参照してください。

1.4 JMSSの基礎知識

ここでは、JMSS の基礎知識として次の内容について説明します。

- ・用語定義
- ・JMSSの利用環境
- ・業務(ジョブ)の投入/稼働/監視
- ・ジョブキュー
- ・自動負荷分散
- ・イベント
- ・JMSSのセキュリティ
- ・JMSS/JD

1.4.1 用語定義

ここでは、本書によく出てくる用語について説明します。

■業務

JMSS で実行する 1 つ以上のジョブの集まりを業務と呼んでいます。

■ジョブ

人がコンピュータに実行させる作業の単位です。

JMSS では、バッチファイル／ジョブネットワーク／プログラムを指定して実行します。これら複数のジョブを組み合わせ、1つの業務を構築します。

■ジョブキュー

ジョブキューは、投入指示したジョブの実行を制御するための先入れ先出し(FIFO [First In First Out])型の待ち行列です。ジョブキューの多重度を制御することにより同時実行可能な最大ジョブ数を制限できるため、システムの負荷状態を安定させることができます。

■自動負荷分散

JMSS は、ある特定のジョブ稼働マシンへの業務集中を避け、負荷の少ないジョブ稼働マシンへ自動的に業務分散できる自動負荷分散機能を持っています。本機能を有効に利用することにより、効率的で円滑な業務運用が実現できます。

■JMSS サーバ

JMSS サーバは、ジョブ運用を集中管理・制御するマシンです。ジョブ稼働マシン(ジョブを実行するマシン)でもあります。

■ジョブ稼働マシン

JMSS でジョブを実行することができるマシンの総称です。JMSS サーバを含むサーバは、あらかじめジョブ稼働マシンとして設定されています。

■標準出力

通常、アプリケーションはキーボードから入力し、結果やエラーをコンソールに出力します。これらを標準入力、標準出力、標準エラー出力と呼びます。

JMSS では、JMSS から投入したジョブの標準出力をジョブ監視画面から確認することができます。

1.4.2 JMSSの利用環境

ここでは、JMSS を利用するためのネットワーク環境、JMSS の管理対象範囲について説明します。

●ネットワーク環境

JMSS は、Windows のクライアント／サーバ型ネットワーク管理方式である「ドメイン」に対応しています。ワークグループでも動作可能ですが、稼働マシン追加不可、クライアント使用不可等の制限があります。

どちらの場合でも、使用するマシンが Windows によるネットワークで接続され、正常に動作している必要があります。

■JMSS サーバ

JMSS のセットアップ時に JMSS サーバとしてインストールしたもので、ジョブ運用の集中管理／監視を行うサーバです。ジョブ稼働マシン(ジョブを実行するマシン)としても利用することができます。

■ジョブ稼働マシン

各マシンからのジョブ投入指示により、実際にジョブを実行するマシンのことです。ここで実行したジョブの実行状態は各マシンから監視することができます。

●JMSS の管理対象範囲

JMSS サーバで業務運用の管理／監視ができる範囲は、1つのドメイン内です。

同一ドメイン内に複数の JMSS サーバが存在する場合は、それぞれ独立して運用し、次のような設定はしないでください。

- ・あるJMSSサーバを、他のJMSSサーバの稼働マシンとする
- ・ある稼働マシンを、複数のJMSSサーバの稼働マシンとする

他の JMSS サーバとジョブの実行を同期する必要がある場合は、イベント送受信機能を利用してください。

他の JMSS サーバを監視する必要がある場合は、ESMPRO/ServerManager の統合ビューアから接続してください。

1.4.3 業務(ジョブ)の投入／稼働／監視

ここでは、ジョブの投入／稼働／監視の関係とジョブの格納場所について説明します。

■業務(ジョブ)の投入とジョブ稼働マシン

ジョブの投入指示は、クライアント／サーバのどのマシンからでも可能です。

ジョブの投入時は、基本的に「ジョブ名」と「ジョブキュー」を指定することにより、指定したジョブキューに対応したジョブ稼働マシンでジョブを実行できます。

ジョブを投入するには、JMSS/JD が起動されている必要があります。

JMSS/JD については、「1.4.9 JMSS/JD とは」を参照してください。

■業務(ジョブ)の監視

JMSS から投入したジョブ(ジョブストリーム、プログラム、ジョブネットワーク)は、JMSS の監視対象となります。ただし、投入したジョブから派生したジョブ(JS 内のプログラム、プログラムから CALL したプログラムなど)や JMSS 以外から投入したジョブは、監視対象になりません。

これらのジョブを監視対象にするには、JMSS で提供しているコマンド“JCMD”を使用してジョブを起動する必要があります。

ジョブの実行状況を監視できるマシンは、クライアント／サーバのどのマシンからでも可能です。

注意：①コンソールプログラムでありながらウィンドウを表示する特殊なプログラムや、DDEクライアントのアプリケーションの場合は、起動時にエラーとなり実行されないことがあります。その場合は、JMSS/JEnvの「サービス・JMSSモジュール環境」の「設定2」パネルの「ジョブ起動方式」を「ログオンユーザアカウントで起動」に設定、もしくは、ジョブの設定にて起動方式を「ログオンユーザアカウントで起動」にし、JMSS/JD経由で起動してください。

②MS-DOSの内部コマンドを監視対象とするには、
 >JCMD CMD /c DIR (DIRコマンドの場合)
 としてください。

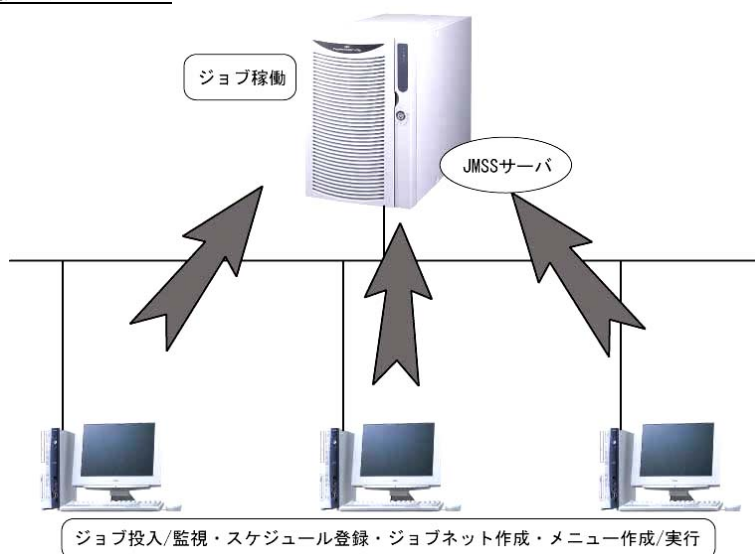
■業務(ジョブ)の格納場所

ジョブの実行要素である次のファイルは、ジョブ稼働マシンに格納しておくか、またはリモートドライブで共有資源として定義し、ジョブ稼働マシンから参照可能にしておく必要があります。

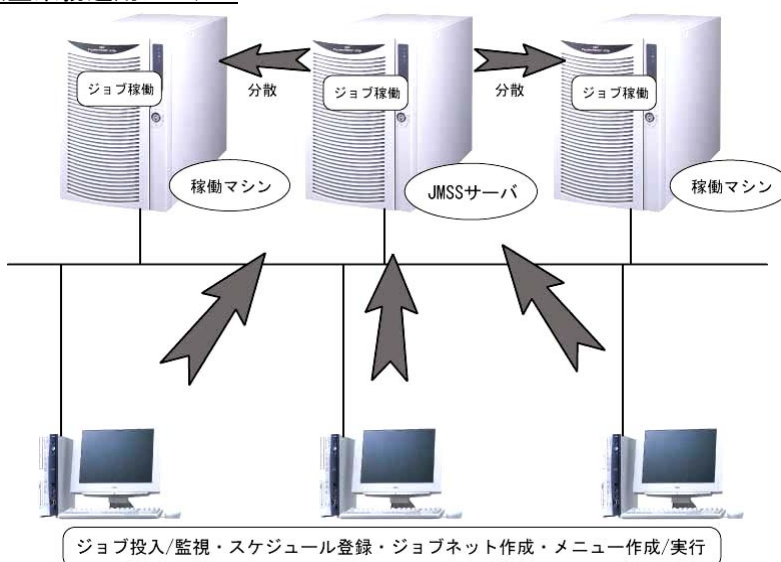
- ・ バッチファイル(.BAT)
- ・ プログラムファイル(.EXE、.COM)
- ・ ジョブネットワークファイル(.JNT)

■利用形態

集中型業務運用システム



負荷分散型業務運用システム



1.4.4 バッチファイル形式のジョブ

■ジョブ監視の指示

バッチファイル内のジョブを JMSS の監視対象にするには、次のように記述します。

```
JCMD ジョブ名[パラメータ1△ ……△パラメータn]
```

ジョブ名には、ジョブネットワークファイル名(.JNT)、プログラム名(.EXE)または JS 名(.BAT、.CMD)を記述します。

JCMDの詳細な内容は「第5章 コマンドリファレンス」を参照してください。

注意：起動するジョブのパスを確立するためには、ジョブ名にフルパスを指定するか、またはサーバのシステム環境変数でパスを設定しておく必要があります。

- ・フルパス指定の場合

```
JCMD C:¥製品¥部品.exe
```

- ・システム環境変数に「C:¥製品」をパス指定している場合

```
JCMD 部品.exe
```

■バッチファイルの例

バッチファイル(受注.BAT)内のプログラム(XCOPY、受注 1.EXE、受注 2.EXE)を JMSS の監視対象にする場合は、各プログラム名の前に“JCMD”を指定します。

・バッチファイル(受注.BAT)の内容

```
@ECHO OFF
IF NOT EXIST C:¥MASTER¥NUL GOTO ERR
JCMD XCOPY /S C:¥MASTER D:¥WORK¥
IF NOT ERRORLEVEL 0 GOTO ERR
JCMD 受注1.EXE
IF NOT ERRORLEVEL 0 GOTO ERR
JCMD 受注2.EXE
GOTO END
:ERR
ECHO エラー
:END
```

注意：バッチファイル内にWindows GUIプログラムを記述する場合には、監視対象にする／しないにかかわらず、必ずプログラムの頭にJCMDを付加してください。付加しなかった場合、正しく実行されない場合があります。

●その他の起動方法

コマンドプロンプト等からジョブを投入する場合は、“JCMD”コマンドを使用するとそのジョブを監視対象にすることができます。

1.4.5 ジョブキューとは

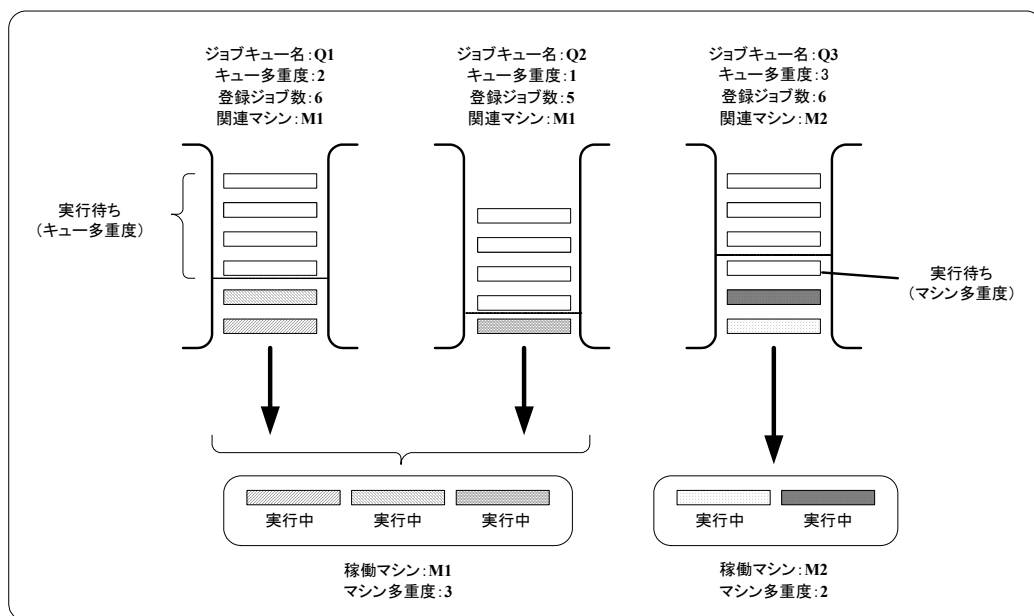
ジョブキューは、投入指示したジョブの実行を制御するための先入れ先出し(FIFO [First In First Out])型の待ち行列です。

投入指示したジョブはジョブキューの待ち行列に一旦登録されます。同一ジョブキュー内で実行中のジョブ数がジョブキュー多重度以下の場合、ジョブが実行されます。

同一ジョブキュー内で実行中のジョブ数がジョブキュー多重度より大きい場合、ジョブキュー内のジョブは実行中のジョブが終了するまで実行待ちのままになります。

稼働マシンで実行中のジョブ数がマシン多重度以上の場合、同一ジョブキュー内で実行中のジョブ数がジョブキュー多重度以下であっても実行待ちのままになります。

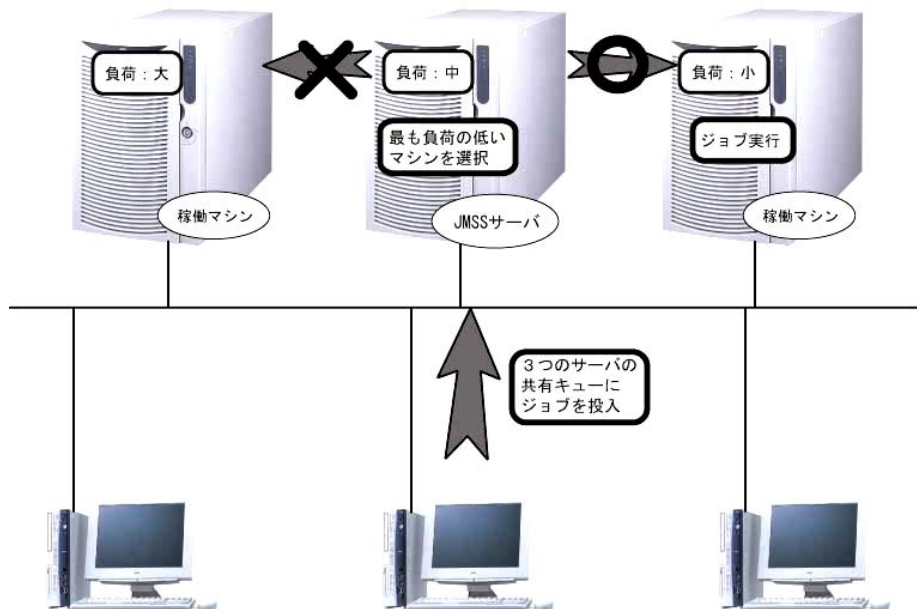
ジョブキューごとに異なる実行制御(優先順位,多重度等)を利用することにより、運用目的にあった形態でシステムを効率よく運用することができます。



1.4.6 自動負荷分散とは

複数のジョブ稼働マシンを1つのジョブキューに関連付けることにより、負荷が最も少ない稼働マシンを自動選択し実行することができます。また、ジョブ稼働マシンが停止している場合は、停止しているジョブ稼働マシン以外のマシンでジョブを実行することができます。

自動負荷分散により業務の高速化、柔軟性をもったジョブ運用管理ができます。



1.4.7 イベントとは

JMSS は、Windows のドメインの範囲で動作しますが、イベントを利用することによりドメインを超えるマシンとの通信が可能になります。イベントを利用すると、複数のジョブネットワークの一斉起動、ドメイン間のジョブネットワークの同期、ドメイン間の小規模なメッセージのやり取りが可能になります。イベント受信、イベント送信はそれぞれコマンドで提供しています。詳細については「第5章 コマンドリファレンス」を参照してください。

1.4.8 JMSSのセキュリティ

●ネットワークセキュリティ

JMSS は、Windows ドメインのユーザ名を利用します。

したがって、システム運用管理者は JMSS の業務運用に先だって、新たにユーザ情報(ユーザ名、グループ名など)を登録する必要はありません。ドメインで管理しているユーザ名をそのまま利用できます。

注意：JMSSから実行したジョブの場合、ジョブ(ジョブストリーム／プログラム／ジョブネットワークなどのファイル)自身、およびそのジョブで使用するファイルに対してアクセス権が設定されていても、アクセス権のチェックはESMPRO/JMSS JLook Serviceの起動ユーザ(Administratorsグループに属している)のアカウントで行われます。ただし、JMSS/JMenuのメニュー定義で“ジョブ監視を行わない”の設定をした場合は、アクセス権のチェックはログオンしたユーザの権限で行われます。

■JMSS の機能／操作に関するセキュリティ

JMSS では、次の表に示す 6 つの機能／操作に対応するセキュリティ種別によってセキュリティ管理を行っています。

セキュリティ種別によるセキュリティ管理の設定方法については、「2.6.11 JMSS セキュリティを設定するには」を参照してください。

JMSS で設定できる権利は次のとおりです。

セキュリティ種別	権利内容	設定単位	インストール直後の設定
セキュリティ設定の権利	次の 5 種類のセキュリティを設定することができます。 ・他ユーザ監視／強制終了の権利 ・メニュー作成／更新の権利 ・スケジュール使用の権利 ・JLook 業務投入の権利 ・JMSS 利用権	ユーザ毎	インストールしたユーザ
他ユーザ監視／強制終了の権利	他のユーザが実行した業務の監視と強制終了をすることができます。	ユーザ毎	インストールしたユーザ
メニュー作成／更新の権利	業務運用メニューを作成・更新することができます。	ユーザ毎	インストールしたユーザ
スケジュール使用の権利	スケジュールの登録・更新をすることができます。	ユーザ毎	インストールしたユーザ
JLook 業務投入の権利	JMSS/JLook での業務投入機能を利用することができます。	ユーザ毎	インストールしたユーザ
JMSS 利用権	JMSS の機能を使えるか否かを設定できます。特定ユーザ以外は JMSS 機能を使わせない場合に使用します。 なお、本権利を保有していても以下の権利は個別に設定する必要があります。 ・他ユーザ監視／強制終了の権利 ・メニュー作成／更新の権利 ・スケジュール使用の権利 ・JLook 業務投入の権利	ユーザ毎	全ドメインユーザ

■セキュリティ設定の考え方

セキュリティ設定の権利

JMSS システムの動作環境設定およびセキュリティを登録／変更できる権利です。

本セキュリティを持つユーザは JMSS のすべての権利を持ちます。JMSS の管理を行う管理者レベルの方に設定することをお勧めします。

他ユーザ監視／強制終了の権利

JMSS/JLook で他ユーザ投入ジョブの監視・強制終了ができる権利です。

JMSS の管理を行う管理者レベルもしくは JMSS による業務全体を監視するレベルの方に設定することをお勧めします。

メニュー作成／更新の権利

JMSS/JMenu でメニューの作成・更新が行える権利です。

JMSS による業務構築を行う開発者レベルの方に設定することをお勧めします。

スケジュール使用の権利

JMSS/JSchedule で自動運転ジョブの登録・更新を行える権利です。

JMSS による業務構築を行う開発/運用者レベルの方に設定することをお勧めします。

JLook業務投入の権利

JMSS/JLook でジョブ稼働マシンに対して業務投入できる権利です。

インストール直後は全ドメインユーザに解放しています。

JMSS による業務を行うオペレータレベルの方に設定することをお勧めしますが、JMSSでの稼働マシンへの投入ジョブは Administrators グループに属した高い権限で実行しますので、本権利はセキュリティを考慮して設定してください。

JMSS利用権

JMSS/JLook における自ユーザ業務の監視・強制終了、JMSS/JMenu による業務メニューの利用が可能な権利です。

JMSS による業務を行うオペレータレベルの方に設定することをお勧めします。

1.4.9 JMSS/JD とは

JMSS/JD は JMSS のジョブ起動デーモンです。JMSS サーバもしくは稼働マシンで GUI アプリケーションをジョブとして実行する場合、JMSS/JD が起動されていないとジョブが正しく起動されません。

JMSS/JD は、ログオン時にスタートアップグループの「JMSS/JDStart JD の起動」より起動されますので、稼働マシンにジョブを起動させたいユーザでログオンしておく必要があります。

(Windows Server 2003、Windows Server 2003 R2 の場合は、コンソールからログオンしておく必要があります)

■ジョブ起動方式

JMSS は、ジョブ投入時にジョブのタイプを判別します。セットアップ直後の設定では、Windows CUI アプリケーションは JLook サービスから起動され、Windows GUI アプリケーションは JMSS/JD から起動されます。

JMSS/JEnv の「サービス・JMSS モジュール環境」の「設定 2」パネルの「ジョブ起動方式」を「ログオンユーザアカウントで起動」に設定することによって、常に JMSS/JD から起動することもできます。

また、ジョブ毎にジョブ起動方式を指定することもできます。その場合は、指定したジョブ起動方式にてジョブが起動されます。

■参照可能な環境変数

JMSS から起動されたジョブは、システム環境変数のみ参照可能です。ユーザ環境変数を参照するジョブを起動すると、起動エラーやアプリケーションエラーになることがあります。その場合には、バッチファイルを作成し、ユーザ環境変数に設定されている変数をバッチファイルの最初で設定するか、システム環境変数に設定してください。

■アクセス権について

ファイルや共有ディレクトリのアクセス権は、JMSS/JD から起動された場合にはログオンユーザのアクセス権になり、JLook サービスから起動された場合には、JLook サービスのアカウントのアクセス権になります。

ファイルが見つからないエラーに遭遇した場合には、ファイルのアクセス権を確認してみてください。

■Windows Server 2008 の場合

Windows Server 2008 のユーザーアカウント制御(User Account Control : UAC)機能とは、アプリケーション自身に権限レベルが設定され、その権限によって、システムを変更するような操作が制限される仕組みです。

JLook サービスから起動されるジョブは JLook サービスの権限レベルを、JMSS/JD

から起動されるジョブは JMSS/JD の権限レベルを引き継ぎます。

JLook サービスは管理者権限にて実行されますが、JMSS/JD は、JMSS/JD を起動するユーザ(ログオンユーザ)の権限レベルにて実行されます。

JMSS/JD から起動されるジョブに管理者権限の必要なジョブが存在する場合は、JMSS/JD を管理者権限にて起動してください。

JMSS/JD を管理者権限にて起動する設定は、JMSS/JEnv の「サービス・JMSS モジュール環境」の「JD (JDAdmin)」にて行います。

管理者権限にて起動する設定を行った場合、管理者でログオンした後、JMSS/JD 起動時にユーザーアカウント制御ダイアログが表示されますので、[続行]ボタンを押下してください。(ビルトイン Administrator でログオンした場合はユーザーアカウント制御ダイアログは表示されません)

JMSS/JD は、管理者権限にて起動する設定を行っていない場合は JD.exe として起動され、管理者権限にて起動する設定を行った場合には JDAdmin.exe として起動されます。

JMSS/JD は、デフォルトではジョブ稼働マシンに最初にログオンしたユーザにて起動されますが、Windows Server 2008 では、指定したユーザでログオンした場合にのみ JMSS/JD が起動されるように設定できます。

JMSS/JD を起動するユーザの設定は、JMSS/JEnv の「サービス・JMSS モジュール環境」の「JD (JDAdmin)」にて行います。

1.4.10 ジョブの実行ユーザ・実行場所

JMSS から起動されるジョブの実行ユーザ・実行場所は、以下によって場合分けされます。

- ・ジョブに起動方式が設定されているか
- ・Windows にログオンしているか
- ・実行するプログラムのタイプが GUI か CUI か
- ・JEnv でのジョブ起動方式の設定

●ジョブに起動方式が設定されていない場合

■Windows ログオフ時

JLook サービスのアカウントで、バックグラウンドでジョブが起動されます。

■Windows ログオン時

- ・JEnv のジョブ起動方式が「サービスアカウントで起動」でかつ CUI プログラムの場合、JLook サービスのアカウントでバックグラウンドでジョブが起動されます。
- ・JEnv のジョブ起動方式が「サービスアカウントで起動」でかつ GUI プログラムの場合、JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザのアカウントでデスクトップでジョブが起動されます。
- ・JEnv のジョブ起動方式が「ログオンユーザアカウントで起動」の場合、JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザのアカウントでデスクトップでジョブが起動されます。

※Windows にログオンしているにも関わらず、JMSS/JD が起動していない場合は、JLook サービスのアカウントでバックグラウンドでジョブが起動されます。

●ジョブに起動方式が設定されている場合

■Windows ログオフ時

- ・ジョブに設定されている起動方式が「サービスアカウントで起動」の場合、JLook サービスのアカウントでバックグラウンドでジョブが起動されます。
- ・ジョブに設定されている起動方式が「ログオンユーザアカウントで起動」の場合、起動エラーとなります。

■Windows ログオン時

- ・ジョブに設定されている起動方式が「サービスアカウントで起動」の場合、JLook サービスのアカウントでバックグラウンドでジョブが起動されます。
- ・ジョブに設定されている起動方式が「ログオンユーザアカウントで起動」の場合、JMSS/JD（JDAdmin）を起動したユーザのアカウントでデスクトップでジョブが起動されます。
JMSS/JD が起動していない場合は、起動エラーとなります。

注意： Windows Server 2008以降にて対話型サービス検出サービス「Interactive Services Detection」を起動し、デスクトップと対話をするプログラムを「サービスアカウントで起動」した際、「対話型サービス ダイアログの検出」ダイアログが表示される場合があります。
その場合は、プログラムの終了を待つか強制終了し、次回以降は「ログオンユーザアカウントで起動」するようにしてください。

第2章 機能・操作説明

2.1 JMSSを使用する前に

JMSS の各機能では、次の 2 つの JMSS サービスを利用します。
JMSS を利用する際にはサービスの起動が必要です。

■[ESMPRO/JMSS JLook Service]

JMSS を利用する上で必要なサービスです。JMSS サーバおよびジョブ稼働マシンには必須です。

■[ESMPRO/JMSS JSchedule Service]

自動運転・スケジュール管理機能を利用する上で必要なサービスです。JMSS サーバには必須です。

注意： JMSSサービスを停止する場合は、やむを得ない場合以外、事前にすべての業務(ジョブ)を終了してから行ってください。

2.2 ジョブ稼働・監視(JMSS/JLook)

ここでは、JMSS の稼働・監視(JLook)を利用して、業務(ジョブ)の投入、強制終了、監視する方法について説明します。

2.2.1 JLook を利用するには

■稼働・監視メイン画面([JMSS/JLook]メインウィンドウ)

- ①[スタート]メニューから[すべてのプログラム]－[ESMPRO/JMSS]－[JLook]を選択します。
- ②[JMSS/JLook]メインウィンドウ(稼働・監視メイン画面)と[ジョブ情報]サブウィンドウ、[ジョブキュー情報]サブウィンドウが表示されます。



業務名	日付	開始	終了	経過時間	状態	終了コード	起動	ユーザ名	ジョブキュー	稼働/ジョブ
収支計算	11/14	13:58	13:59	00:01:25	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
注文書発行	11/14	14:00	14:50	48:50:06	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
入金確認	11/14	14:00	14:50	48:49:36	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
販売計画作成	11/14	14:06	14:06	00:00:09	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
見積書発行	11/14	14:08	14:08	00:00:00	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
売り上げ集計	11/14	14:11	14:50	48:38:30	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
取引先一覧	11/14	14:13	14:13	00:00:00	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
在庫問合せ	11/16	17:32	17:32	00:00:02	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
受注一覧	11/16	17:32	17:32	00:00:01	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER

ジョブキュー情報を受信しました。

ジョブ 115件 | キュー 0件 | 2008年11月16日 17:32

■機能一覧表

[JMSS/JLook]メインウィンドウで実行できる主な機能は次のとおりです。

メニュー名	機能(コマンド)名	機能説明
ファイル	C S V形式で保存	ジョブ監視情報をC S V形式で保存します。
	プリンタ設定	使用するプリンタの設定を行います。
	印刷	現在アクティブになっている監視画面上の全てのジョブ情報、あるいは現在選択しているジョブのジョブ情報をプリンタに印刷します。
	終了	「JLook」を終了します。
ジョブ制御 ([ジョブ情報] サブウィンドウを アクティブにす ると使用で きます)	投入	新たなジョブを指定して実行します。
	強制終了	現在実行中のジョブ(監視画面で選択しているもの)を強制的に終了させます。選択したジョブ配下に派生ジョブがある場合は、これらの派生ジョブ全てが強制終了されます。
	一時停止	現在実行中のジョブの終了を待って、ジョブネットワーク(監視画面で選択しているもの)を一時的に停止させます。
	再開	一時停止しているジョブネットワーク(監視画面で選択しているもの)の実行を再開します。
	停止	現在実行中の繰り返しジョブ(監視画面で選択されているもの)を実行ジョブの終了を待って停止させます。
	継続	停止している繰り返しジョブ(監視画面で選択されているもの)の実行を続きから再開させます。
ジョブキュー 制御 ([ジョブキュー 情報]サブウィ ンドウをアクティ ブにすると使用 できます)	投入	新たなジョブを指定して実行します。
	強制終了	現在実行中のジョブ(監視画面で選択しているもの)を強制的に終了させます。選択したジョブ配下に派生ジョブがある場合は、これらの派生ジョブ全てが強制終了されます。
	登録削除	実行待ちまたは保留ジョブ(監視画面で選択しているもの)の登録を削除します。
	保留	ジョブキュー監視画面上の実行待ちジョブ(監視画面で選択されているもの)の実行を保留します。
	保留解除	保留ジョブ(監視画面で選択しているもの)を実行待ち状態または実行できる状態に変更します。
	最優先	実行待ちジョブ(監視画面で選択しているもの)を最優先で実行できるように優先順位を変更します。
ジョブ表示	再表示	監視画面の情報を最新の状態に更新します(自動更新モードでも使用可能です)。
	詳細表示	ジョブ監視画面で選択されているジョブの詳細(派生ジョブ)を表示します。表示方法は一括表示かネスト表示かの2通りがあり、動作環境設定で選択可能になっています。
	ジョブネットワーク表示	ジョブ監視画面で選択しているジョブネットワークの詳細(実行監視)を表示します。
	標準出力表示	監視画面で選択されているジョブの標準出力内容を表示します。

メニュー名	機能(コマンド)名	機能説明
ジョブ表示 (つづき)	ガントチャート表示	現在アクティブなジョブ監視画面上の全ジョブを日単位による時系列でガントチャート表示します。なお、ジョブ監視画面でジョブを選択していても選択ジョブだけの表示はできません。
	ジョブ詳細情報	監視画面で選択されているジョブの詳細情報を表示します。なお、監視画面で複数のジョブを選択している状態では使用できません。
	ジョブキュー一括検索	検索条件設定を行わずにジョブキュー毎に画面を開き、検索結果を画面に表示します。
	検索	指定された条件に該当するジョブを現在アクティブな監視画面(ただし、ガントチャート監視画面は除く)から検索して表示します。監視画面でジョブを選択している場合は、その情報をデフォルト検索条件に設定できます(ただし、複数のジョブを選択している場合は設定されません)。
環境設定	動作環境設定	「JLook」の動作環境を設定します。
	表示項目設定	監視画面上の表示情報のカスタマイズ(表示項目の選択と表示順、表示桁数の設定)を行います。
接続		サーバとクライアントを再接続します。何らかの障害で接続が切断されたときに使用します。

2.2.2 業務(ジョブ)を投入するには

「JLook」から業務(ジョブ)を投入する手順は次のとおりです。

「JLook」から業務(ジョブ)を投入するには、「JLook 業務投入の権利」が必要です。

「JLook 業務投入の権利」などのセキュリティの設定については、「2.6.11 JMSS セキュリティを設定するには」を参照してください。

- ①[J MSS/JLook]メインウィンドウより[ジョブ制御]または[ジョブキュー制御]メニューの[投入]コマンドを選択します。[ジョブ投入]ダイアログボックスが表示されます。

設定項目	説 明
業務名	業務名を指定します。 業務名を指定せずにジョブ名を指定した場合は、ジョブ名(ディレクトリパス、拡張子をとった名前)がデフォルト業務名として割り当てられます。 (32 バイト以内)
ジョブ名	実行したいジョブ名をフルパスで指定します。 本項目は省略できません。ジョブの存在するマシンと異なるマシンで実行したい場合は、ジョブは共有ディレクトリ上になければなりません。この時は"¥¥マシン名¥共有名¥パス名"で指定してください。また、本指定は[参照]ボタンを利用してファイル一覧から選択することもできます。一覧からの選択時は、マシン名、共有名を意識する必要はありません(自動的に変換します)。この時、指定したジョブが存在するディレクトリ名が実行ディレクトリの指定領域にデフォルトで設定されます。なお、[参照]ボタンを使用しない場合は指定ジョブの存在確認は行われませんので、正しく指定するようにしてください。 (255 バイト以内)

設定項目	説 明
パラメータ	指定ジョブに引き渡すパラメータを指定します。 指定ジョブがパラメータ不要の場合は、この項目は省略してください。パラメータにファイル名などを指定する場合は、一般的なパスの記述形式で指定してください。ただし、この場合は必ず稼働(実行)マシンから見えるディレクトリになければなりません。実行ディレクトリを指定する場合は、実行ディレクトリ相対パスが使用できます。パスは稼働マシンにおけるパス(ドライブ番号含む)になりますので注意してください。 (255 バイト以内)
実行ディレクトリ	指定ジョブを実行するディレクトリを指定します(255 バイト以内)。指定を省略した場合は稼働マシン上でのインストールディレクトリとなります。他マシン上のディレクトリを実行ディレクトリにしたい場合は、ジョブ名指定と同様、そのディレクトリが共有ディレクトリとなっていなければなりません。この時は"¥¥マシン名¥共有名¥パス名"で指定します。また、本指定は[参照]ボタンを利用してディレクトリ一覧から選択することもできます。一覧からの選択時は、ジョブ名指定と同様、マシン名、共有名を意識する必要はありません(自動的に変換します)。 実行時ディレクトリに"¥¥マシン名¥共有名"を指定した場合は、その"¥¥マシン名¥共有名"がルートディレクトリになります。例えば、マシン名"マシンA"の"C:¥SHARE"を"共有 1"として共有し、実行時ディレクトリに"¥¥マシンA¥共有 1"と指定して BAT ジョブを投入した場合、その投入した BAT 内で"CD ¥"を実行するとカレントディレクトリは"¥¥マシンA¥共有 1"となり、"C:¥"ディレクトリではなく"C:¥SHARE"ディレクトリを指定したことになります。
ジョブキュー名	指定ジョブを登録するジョブキュー名を指定します。 (15 バイト以内)

②投入する業務の業務名、ジョブ名、パラメータ、実行ディレクトリ、ジョブキュー名を設定した後で[実行]ボタンを選択すると、指定したジョブがキューに登録されます。

[詳細設定]ボタンを選択して[詳細設定]ダイアログボックスを表示し、投入するジョブの優先順位の変更、標準出力の監視の有無、実行経過時間タイムアウト、ジョブ起動方式を指定することができます。

設定項目	説 明
優先順位	ジョブ実行の優先順位を指定します。指定内容は投入ジョブの配下で実行する派生ジョブに対してもそのまま引き継がれます。指定できる優先順位は次の4つです。この中から1つを選択指定してください。なお、デフォルトはNORMALです。 ☐REALTIME 最高の優先順位でジョブを実行します。オペレーティングシステムを含む他のプロセスよりも優先して実行されますので、処理時間の長いジョブではストールしたような状態になることがあります。一般のジョブでの使用は避けて運用してください。 ☐HIGH 他のジョブより優先して速やかに実行します。CPUを多く使用するジョブではアプリケーションを含む他のジョブが全く動作しなくなる場合がありますので、使用には細心の注意が必要です。 ☐NORMAL システム標準の優先順位でジョブを実行します。通常はこの順位で実行してください。 ☐IDLE システムがアイドル状態の時だけジョブを実行します(スクリーンセーバーと同じと考えてください)。
標準出力の監視	ジョブの標準出力内容を記録し、JMSS/JLook(稼働・監視)の監視画面から参照できる機能を使用したい場合に指定します。 ファイル名： 標準出力を任意のファイルに出力したい場合に指定します。省略した場合は JMSS/JEnv(運用環境設定)のサービス・JMSS モジュール環境で指定しているディレクトリに JMSS 固有の名称で自動的に作成されます。 上書き/追加： 標準出力の出力モードを上書きまたは追加で指定します。 本指定を行って投入したジョブは、JMSS/JLook(稼働・監視)の監視画面上のジョブタイプアイコンで判断できます。標準出力監視タイプのアイコンを持つジョブでは、このジョブタイプアイコンのダブルクリックで標準出力内容が参照できるようになります。標準出力内容はファイルに保存していますので、ジョブが終了した後で参照することも可能です。なお、監視内容が不要になった場合は必ず JMSS/JLook(稼働・監視)の標準出力表示画面からデータ破棄するようにしてください(不要なままに残しておきますと資源を浪費することになります)。ただし、破棄されてもジョブタイプアイコンは標準出力監視タイプのままですので注意してください。
実行経過時間タイムアウト	投入したジョブの実行時間を制限したい場合に指定します。指定できる時間は0分～1000時間59分です。 指定した時間が経過してもジョブが終了しなかった場合は強制終了し、終了コードはFFFFFFFBになります。

設定項目	説 明
ジョブ起動方式	ジョブの起動方式を指定します。指定内容は投入ジョブの配下で実行する派生ジョブに対してもそのまま引き継がれます。指定できる起動方式は次の3つです。この中から1つを選択指定してください。なお、デフォルトは指定なしです。 ☐ 指定なし JMSS/JEnv の「ジョブ起動方式」の設定にてジョブが起動されます。 ☐ サービスアカウントで起動 JLook サービスのアカウントでジョブが起動されます。 ☐ ログオンユーザアカウントで起動 JMSS/JD(JDAdmin)を起動したユーザでジョブが起動されます。 JMSS/JD(JDAdmin)が起動されていない場合は、起動エラーとなります。

2.2.3 業務(ジョブ)を監視するには

[JMSS/JLook]メインウィンドウ(稼働・監視メイン画面)の[ジョブ情報]サブウィンドウには、業務(ジョブ)の稼働状況が一覧表示されます。

表示される業務(ジョブ)は「JLook」で監視しているユーザと同一名のユーザから実行したジョブのみです。

他のユーザが実行した業務(ジョブ)を監視する場合は、セキュリティの設定で「他ユーザ監視／強制終了の権利」を設定していなければなりません。セキュリティについては「2.6.11 JMSS セキュリティを設定するには」を参照してください。

業務名	日付	開始	終了	経過時間	状態	終了コード	起動	ユーザ名	ジョブキー	稼働マシン
収支計算	11/14	13:58	13:59	00:01:25	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
注文書発行	11/14	14:00	14:50	48:50:06	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
入金確認	11/14	14:00	14:50	48:49:36	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
販売計画作成	11/14	14:06	14:06	00:00:09	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
見積書発行	11/14	14:08	14:08	00:00:00	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
売り上げ集計	11/14	14:11	14:50	48:38:30	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
取引先一覧	11/14	14:13	14:13	00:00:00	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
在庫問合せ	11/16	17:32	17:32	00:00:02	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER
受注一覧	11/16	17:32	17:32	00:00:01	終了	00000000	サビス	ADMIN	CENTER1	SERVER

ジョブキュー情報を受信しました。

ジョブ: 115件 | キュー: 0件 | 2008年11月16日 17:32

[ジョブ情報]サブウィンドウに表示されるジョブタイプアイコンはジョブの種類を表しています。内容は次のとおりです。

アイコン (表示色)	内 容
 (緑)	派生ジョブをもつジョブ このタイプのアイコンをもつジョブをマウスでダブルクリックするか、選択して詳細表示することで、新たな詳細監視ウィンドウを作成表示できます。既にそのジョブの詳細監視ウィンドウが画面内に存在している場合は、そのウィンドウをトップウィンドウにしてアクティブ化します。
 (赤)	継続実行していないジョブネットワークのジョブ このタイプのジョブは必ず派生ジョブをもっています。このアイコンをダブルクリックするか、選択してジョブネットワーク表示することで、ジョブネットワークの詳細実行状態がグラフィカルに表示できます(実行中、終了時とも)。また、アイコン部分以外をダブルクリックするか、選択して詳細表示することで、新たな詳細監視ウィンドウの作成表示が行えます。詳細については「派生ジョブをもつジョブ」の説明を参照してください。なお、標準出力の監視指定を行って実行したジョブネットワークでは、標準出力は各派生ジョブからの参照となります。
 (マゼンタ)	継続実行したジョブネットワークのジョブ このタイプのジョブは必ず派生ジョブをもっています。このアイコンをダブルクリックするか、選択してジョブネットワーク表示することで、ジョブネットワークの詳細な実行状態がグラフィカルに表示できます(実行中、終了時とも)。また、アイコン部分以外をダブルクリックするか、選択して詳細表示することで、新たな詳細監視ウィンドウの作成表示が行えます。詳細については「派生ジョブをもつジョブ」の説明を参照してください。なお、標準出力の監視指定を行って実行したジョブネットワークでは、標準出力は各派生ジョブからの参照となります。
 (シアン)	標準出力の監視を行っているジョブ このアイコンをダブルクリックするか、選択して標準出力表示することで、標準出力内容を参照できます。なお、標準出力内容記録ファイルを破棄した後もこのアイコンのままで表現します。
 (黄)	JMSS/JScheduleにより周期指定なしで自動運転したジョブ 派生ジョブが存在していれば派生ジョブの詳細監視ウィンドウが参照できます。
 (青)	JMSS/JScheduleにより周期指定ありで自動運転したジョブ 派生ジョブが存在していれば派生ジョブの詳細監視ウィンドウが参照できます。
 (マゼンタ)	JMSS/JScheduleにより周期指定ありで継続実行したジョブ 派生ジョブが存在していれば派生ジョブの詳細監視ウィンドウが参照できます。
 (灰)	上記以外のジョブ

●最新情報の監視

自動更新を設定していない場合に最新情報を表示する方法は、次のとおりです。

[JMSS/JLook]メインウィンドウより、[ジョブ表示]メニューの[再表示]コマンドを選択します。[ジョブ情報]サブウィンドウに表示されている業務(ジョブ)の表示情報が最新の情報に更新されます。

●派生ジョブの監視

選択したジョブに配下のジョブ(派生ジョブ)がある場合は、業務の詳細表示を行うことができます。

- ①[ジョブ情報]サブウィンドウから詳細表示する業務を1つだけ選択します。
- ②[ジョブ表示]メニューの[詳細表示]コマンドを選択するか、[ジョブ情報]サブウィンドウのジョブタイプアイコン(派生ジョブあり)以外の領域をダブルクリックすると、配下のジョブが表示されます。

●ガントチャート表示

ジョブの実行状態を、日単位の時系列でガントチャート表示することができます。

- ①ガントチャート表示したいウィンドウをアクティブにします。
- ②[ジョブ表示]メニューの[ガントチャート表示]コマンドを選択します。



ガントチャートに表示されるバーの色の意味は次のとおりです。

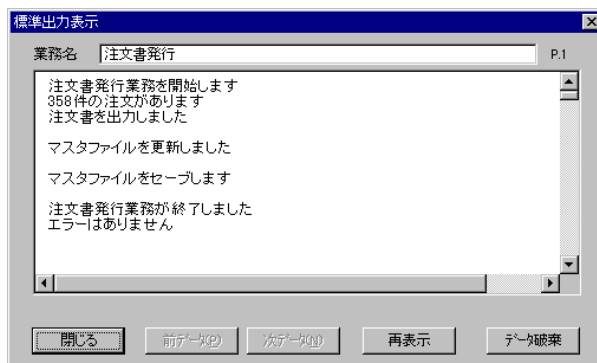
バーの色	説 明
 (青)	ジョブは終了しているか、停止しています。
 (黄)	ジョブは実行中です。
 (赤)	ジョブが強制終了されたか、起動エラーとなっています。
 (緑)	ジョブはイベント待ちとなっているか、一時停止しているか、イベント送信を行っているか、排他待ちになっているか、リトライしているか、停止しています。

●標準出力の確認

標準出力の表示は、業務投入時の設定で「標準出力を監視する」を設定している業務についてのみに表示します。標準出力表示の設定については「2.2.2 業務(ジョブ)を投入するには」を参照してください。

標準出力を表示するようにする手順は次のとおりです。

- ①[ジョブ情報]サブウィンドウに表示されているジョブタイプアイコン(標準出力の監視をしているジョブ)を1つだけ選択してダブルクリックするか、[ジョブ表示]メニューの[標準出力表示]コマンドを選択します。[標準出力表示]ダイアログボックスが表示されます。



- ②標準出力を最新の状態で表示したい場合は[再表示]ボタンを、標準出力の内容をすべて破棄したい場合は[データ破棄]ボタンを選択してください。

備考：「動作環境設定」コマンドにおいて標準出力エディタを使用するよう設定することにより、指定されたエディタが「標準出力ダイアログ」の代わりに起動され、内容の確認や印刷をすることができます。

2.2.4 業務(ジョブ)を強制終了するには

[JMSS/JLook]メインウィンドウでは、[ジョブ情報]サブウィンドウ、または[ジョブキュー情報]サブウィンドウで選択した業務(ジョブ)を強制終了することができます。配下に派生ジョブがある場合は、その派生ジョブも強制終了します。「JLook」で業務(ジョブ)を強制終了する手順は次のとおりです。

- ①[ジョブ情報]サブウィンドウ、または[ジョブキュー情報]サブウィンドウから強制終了する業務(ジョブ)をクリックして選択します。複数業務を選択することもできます(SHIFT キーを押しながら ↑・↓ キーで選択するか、CTRL キーを押しながらクリックします)。
- ②[ジョブ制御]、または[ジョブキュー制御]メニューの[強制終了]コマンドを選択します。[ジョブ強制終了]ダイアログボックスが表示されます。
- ③強制終了する場合は、[はい]ボタンを選択します。選択した業務(ジョブ)が強制終了されます。

注意：業務を強制終了する場合は次の点にご注意ください。

- ・ プログラムで使用していたリソースがシステムに残る場合があります。
- ・ 強制終了後のジョブストリームは、正常に動作しない場合があります。

2.2.5 ジョブキューに登録されているジョブを制御するには

[JMSS/JLook]メインウィンドウでは、[ジョブキュー情報]サブウィンドウで選択した業務を制御することができます。

●投入するには

業務を投入します。操作手順は「2.2.2 業務(ジョブ)を投入するには」と同様です。

●強制終了するには

「実行中」の業務を強制終了することができます。操作手順は「2.2.4 業務(ジョブ)を強制終了するには」と同様です。

●登録を削除するには

ジョブキューに登録された業務を削除することができます。

- ①「実行待ち」または「保留」の業務を選択します。
- ②「ジョブキュー制御」メニューの「登録削除」を選択します。

●保留にするには

ジョブキューに登録された業務の実行を保留にすることができます。

- ①「実行待ち」の業務を選択します。
- ②「ジョブキュー制御」メニューの「保留」を選択します。
保留解除されるまで、実行されません。

●保留解除するには

ジョブキューに登録された保留されている業務の保留を解除することができます。

- ①「保留」の業務を選択します。
- ②「ジョブキュー制御」メニューの「保留解除」を選択します。

●最優先にするには

ジョブキューに登録された業務をジョブキューの先頭に移動することができます。

- ①「実行待ち」の業務を選択します。
- ②「ジョブキュー制御」メニューの「最優先」を選択します。

2.2.6 業務(ジョブ)を再投入するには

「JLook」から業務(ジョブ)を再投入することができます。

- ①[ジョブ情報]サブウィンドウの一覧から再投入したいジョブを選択します。
- ②[JMESS/JLook]メインウィンドウより[ジョブ制御]メニューの[投入]コマンドを選択します。
- ③[ジョブ投入]ダイアログボックスが表示されます。選択したジョブの詳細が設定されていますので、[実行]ボタンを選択します。



ジョブ投入

業務名(I): 文書DB/バックアップ

ジョブ名(J): ##SERVER02#db0030.jnt 参照

パラメータ(P):

実行ディレクトリ(D): ##SERVER02 参照

ジョブキュー名(A): SERVER02 参照

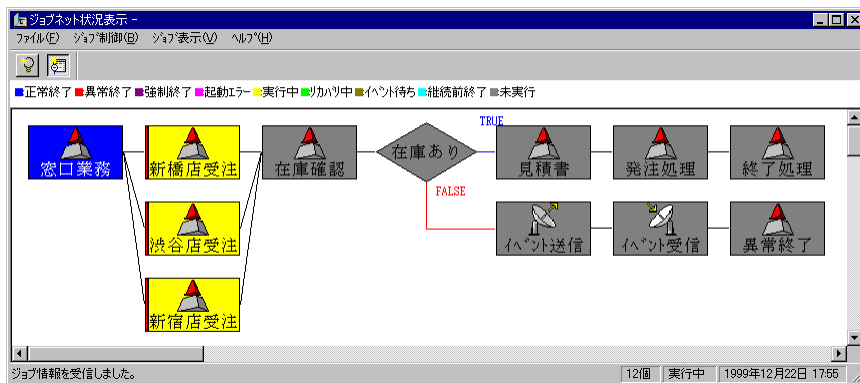
実行 キャンセル クリア 詳細設定...

2.2.7 ジョブネットワークを監視するには

[JMSS/JLook]メインウィンドウでは、[ジョブ情報]サブウィンドウで選択した業務のジョブネットワークを監視することができます。

「JLook」でジョブネットワークを監視する手順は次のとおりです。

- ①[ジョブ情報]サブウィンドウに表示されているジョブタイプアイコン(ジョブネットワーク)を1つだけクリックして選択します。
- ②[ジョブ表示]メニューの[ジョブネットワーク表示]コマンドを選択するか、ジョブタイプアイコン(ジョブネットワーク)をダブルクリックします。[ジョブネットワーク状況表示]ウィンドウが表示されます。



ジョブボックスの表示色によって、その業務のジョブの状況が分かります。ジョブボックスの表示色と実行状況の関係は次のとおりです。

表示色(状況)	実行状況
青(正常終了)	ジョブボックスの業務は正常に終了したか、条件分岐で“真”と判定されました。
赤(異常終了)	ジョブボックスの業務は異常終了したか、条件分岐で“偽”と判定されました。
紫(強制終了)	ジョブボックスの業務は強制終了しました。
マゼンタ(起動エラー)	ジョブボックスの業務は起動できませんでした。
黄(実行中)	ジョブボックスの業務は実行中です。
緑(リカバー中)	ジョブボックスの業務のリカバージョブを実行中です。
灰緑(イベント待ち)	現在イベント受信待ちとなっているジョブボックスです。
シアン(継続前実行)	継続実行前に終了しているジョブボックスです。
灰(未実行)	ジョブボックスの業務は未実行、または起動処理中です。

[ジョブネット状況表示]ウィンドウで実行できる機能は、次のとおりです。

メニュー名	機能(コマンド)名	機能説明
ファイル	閉じる	[ジョブネットワーク状況表示]ウィンドウを閉じます。
ジョブ制御	異常終了したジョブから実行	異常終了したジョブから再度実行します。このコマンドは、ジョブネットワークが終了状態であり、異常終了時動作に"継続"以外の設定をしているジョブが異常終了している場合でなければ利用できません。
	異常終了した次のジョブから実行	異常終了した次のジョブから再度実行します。このコマンドは、ジョブネットワークが終了状態であり、異常終了時動作に"継続"以外の設定をしているジョブが異常終了している場合でなければ利用できません。
	強制終了	現在実行中のジョブネットワークを強制終了します。このコマンドは、実行中のジョブネットワークを表示しているときでなければ利用できません。
	一時停止	実行中のジョブの終了を待って、現在実行中のジョブネットワークを一時停止させます。このコマンドは、実行中のジョブネットワークを表示している時でなければ利用できません。
	再開	一時停止されたジョブネットワークの実行を再開します。このコマンドは、一時停止中のジョブネットワークを表示しているときでなければ利用できません。
ジョブ表示	再表示	ジョブネットワークの情報を最新の状態に更新します(自動更新モードでも使用可能です)。このコマンドは、動作環境設定のツールバー表示の設定により、ツールバー機能も利用できるようになっています。また、更新モードの設定値による自動更新も行われます。ただし、終了状態のジョブネットワークでは使用できません。
	レイアウト表示	ジョブネットワーク内のすべてのジョブのレイアウトを[レイアウト表示]ウィンドウに表示します。
	レイアウト倍率設定	レイアウト画面のジョブネットワークの表示倍率を設定します。
	業務名表示	ジョブボックス内の表示を業務名表示とジョブ名表示に切り替えます。チェックが付いていれば業務名表示となっています。
	アイコン表示	ジョブボックス内の表示をアイコン表示または通常表示に切り替えます。アイコン表示は、通常、アイコンのみ、アイコン/業務名表示のいずれかを設定できます。
	ボックス表示操作	ボックスをダブルクリックしたときの処理方法を指定します。ボックス表示操作は 3 種類(詳細情報表示、ネスト表示、ネスト表示(優先))の中から選択・設定します。

2.2.8 ジョブネットワークの一時停止、再開するには

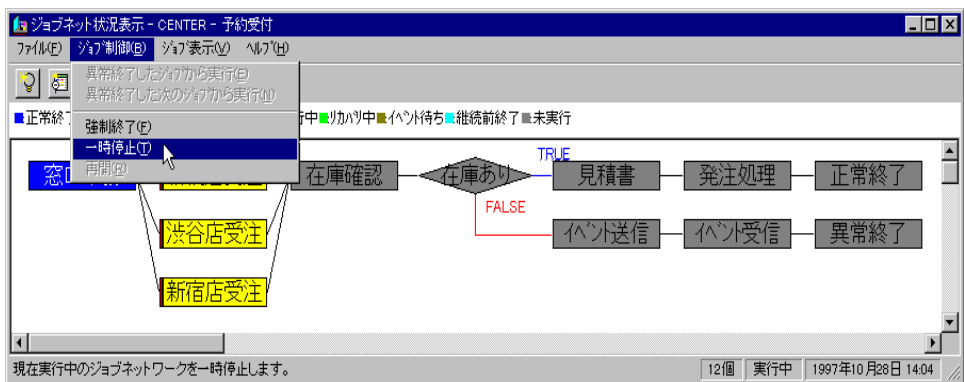
ジョブネットワークを一時停止する手順は以下の通りです。

- ①[ジョブ情報]サブウィンドウに表示されている実行中のジョブネットワークのジョブタイプアイコン(ジョブネットワーク)を1つだけクリックして選択します。
- ②[ジョブ制御]メニューの[一時停止]コマンドを選択します。
ジョブネットワークは現在実行中のジョブボックスを終了後、後続のジョブボックスの実行が一時停止されます。

ジョブネットワークを再開する手順は以下の通りです。

- ①ジョブネットワークのジョブタイプアイコン(ジョブネットワーク)を1つだけクリックして選択します。
- ②[ジョブ制御]メニューの[再開]コマンドを選択します。
一時停止していたジョブボックスから実行が再開されます。

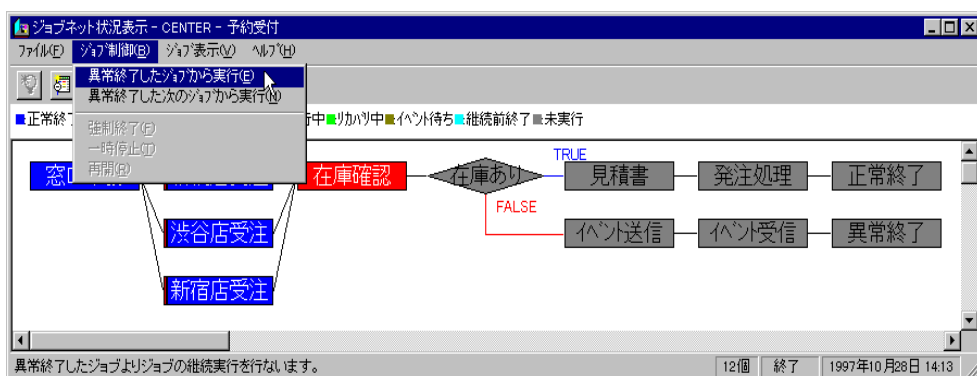
ジョブタイプアイコンをダブルクリックして表示した[ジョブネット状況表示]ウィンドウのジョブ制御メニューからでも、ジョブネットワークの実行の一時停止や再開をすることができます。



2.2.9 異常終了したジョブネットワークを継続実行するには

異常終了業務の原因を取り除き、ジョブネットワークを継続実行する手順は以下の通りです

- ①[ジョブ情報]サブウィンドウに表示されている異常終了したジョブネットワークのジョブタイプアイコン(ジョブネットワーク)を1つだけクリックして選択します。
- ②[ジョブ表示]メニューの[ジョブネットワーク表示]コマンドを選択するか、ジョブタイプアイコン(ジョブネットワーク)をダブルクリックします。[ジョブネットワーク状況表示]ウィンドウが表示されます。



下記の2通りの継続実行が可能です。

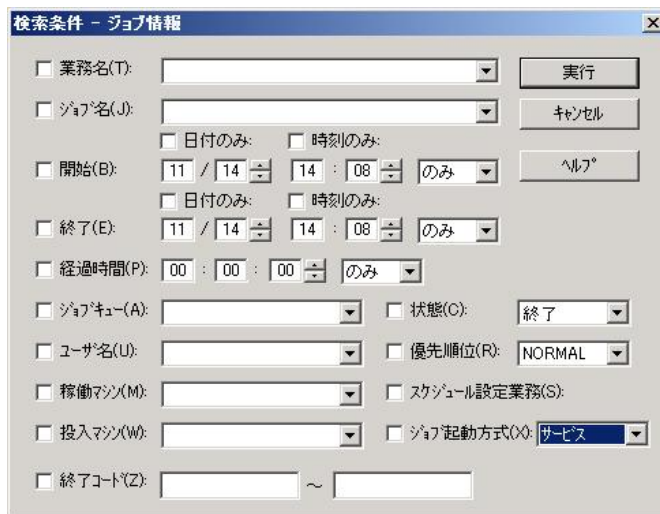
継続の種類	説明
異常終了したジョブから実行	異常終了したジョブから再度実行します。このコマンドは、ジョブネットワークが終了状態であり、異常終了時動作に"継続"以外の設定をしているジョブが異常終了している場合でなければ利用できません。起動エラー、強制終了のジョブに関しても同様に指定できます。
異常終了した次のジョブから実行	異常終了した次のジョブから再度実行します。このコマンドは、ジョブネットワークが終了状態であり、異常終了時動作に"継続"以外の設定をしているジョブが異常終了している場合でなければ利用できません。起動エラー、強制終了のジョブに関しても同様に指定できます。

2.2.10 監視したい業務(ジョブ)を見つけるには

[JMSS/JLook]メインウィンドウでは、[ジョブ情報]サブウィンドウに表示されている業務(ジョブ)の中から特定の業務(ジョブ)を検索することができます。

「JLook」で監視したい業務(ジョブ)を検索する手順は次のとおりです。

- ①監視したい業務(ジョブ)を検索する[ジョブ情報]ウィンドウをアクティブにして、[ジョブ表示]メニューの[検索]コマンドを選択します。[検索条件]ダイアログボックスが表示されます。



検索条件 - ジョブ情報

☐ 業務名(T):

☐ ジョブ名(J):

☐ 開始(B): / : : のみ

☐ 終了(E): / : : のみ

☐ 経過時間(P): : : のみ

☐ ジョブキュー(A): ☐ 状態(C):

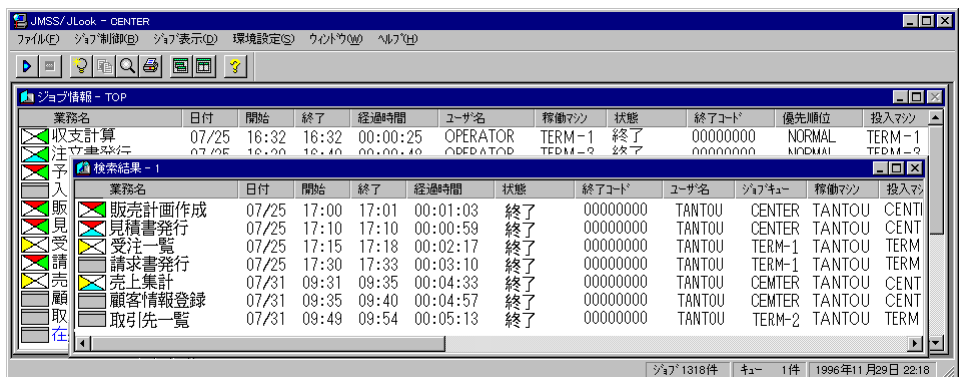
☐ ユーザ名(U): ☐ 優先順位(R):

☐ 稼働マシン(M): ☐ スケジュール設定業務(S):

☐ 投入マシン(W): ☐ ジョブ起動方式(X):

☐ 終了コード(Z): ~

- ②検索する業務(ジョブ)の検索条件(業務名、日付、ジョブキュー、ユーザ名、稼働マシン、投入マシン、状態、優先順位など)を設定し、[実行]ボタンを選択します。[検索結果]ウィンドウに検索結果が表示されます。



JMSS/JLook - CENTER

ファイル(F) ジョブ制御(B) ジョブ表示(D) 環境設定(S) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

ジョブ情報 - TOP

業務名	日付	開始	終了	経過時間	ユーザ名	稼働マシン	状態	終了コード	優先順位	投入マシン
収支計算	07/25	16:32	16:32	00:00:25	OPERATOR	TERM-1	終了	00000000	NORMAL	TERM-1
注文書発行	07/25	16:30	16:40	00:00:40	OPERATOR	TERM-2	終了	00000000	NORMAL	TERM-2
検索結果 - 1										
販売計画作成	07/25	17:00	17:01	00:01:03	TANTOU	CENTER	終了	00000000	TANTOU	CENTI
見積書発行	07/25	17:10	17:10	00:00:59	TANTOU	CENTER	終了	00000000	TANTOU	CENT
受注一覧	07/25	17:15	17:18	00:02:17	TANTOU	TERM-1	終了	00000000	TANTOU	TERM
請求書発行	07/25	17:30	17:33	00:03:10	TANTOU	TERM-1	終了	00000000	TANTOU	TERM
売上集計	07/31	09:31	09:35	00:04:33	TANTOU	CENTER	終了	00000000	TANTOU	CENT
顧客情報登録	07/31	09:35	09:40	00:04:57	TANTOU	CENTER	終了	00000000	TANTOU	CENT
取引先一覧	07/31	09:49	09:54	00:05:13	TANTOU	TERM-2	終了	00000000	TANTOU	TERM

ジョブ 1318件 キュー 1件 1996年11月29日 22:18

備考：[ジョブ表示]メニューの[ジョブキュー一括検索]コマンドを使用することにより、検索条件設定をせずにジョブキュー毎の画面を開き、検索結果を表示することができます。

2.2.11 監視情報を出力するには

●監視情報を印刷するには

[JMSS/JLook]メインウィンドウでは、[ジョブ情報]サブウィンドウに表示されている業務の情報を印刷することができます。[ジョブ情報]サブウィンドウに表示されている業務の情報を印刷する手順は次のとおりです。

- ①[ジョブ情報]サブウィンドウ内のすべての業務の情報を印刷する場合は、タイトルバーなどを選択してサブウィンドウをアクティブにします。
- ②[ファイル]メニューの[印刷]コマンドを選択すると、アクティブな[ジョブ情報]サブウィンドウ内のすべての業務情報が印刷されます。検索条件を設定している[ジョブ情報]サブウィンドウの場合は、その条件に合ったものだけが印刷されます。

●監視情報をCSV形式で出力するには

[JMSS/JLook]メインウィンドウでは、[ジョブ情報]サブウィンドウに表示されている業務の情報を CSV 形式(Comma Separated Value)のファイル(*.CSV)として出力することができます。[ジョブ情報]サブウィンドウに表示されている業務の情報を CSV 形式で出力する方法は、次のとおりです。

- ①[ジョブ情報]サブウィンドウ内のすべての業務の情報を CSV 形式で出力する場合は、タイトルバーなどを選択してサブウィンドウをアクティブにします。
- ②[ファイル]メニューの[CSV 形式で保存]コマンドを選択すると、アクティブな[ジョブ情報]サブウィンドウ内のすべての業務情報が CSV 形式で出力されます。検索条件を設定している[ジョブ情報]サブウィンドウの場合は、その条件に合ったものだけが出力されます。

CSV 形式で出力した例

```
業務名,日付,開始,終了,経過時間,状態,終了コード,ユーザ名,ジョブキュー,稼働マシン,投入マシン,  
優先順位,ジョブ名,ジョブ No,ジョブ 起動方式  
"窓口予約","02/26","12:58","14:50","01:08:20","終了","00000000","OPERATOR",  
"CENTER1","CENTER1","CENTER","NORMAL","窓口予約",16262,"サービス"  
"新橋店受注","02/26","13:58","14:10","00:12:21","終了","00000000","OPERATOR",  
"CENTER2","CENTER2","CENTER","NORMAL","新橋店受注",16263,"ログオン"  
"渋谷店受注","02/26","13:58","14:15","00:17:03","終了","00000000","OPERATOR",  
"CENTER2","CENTER2","CENTER","NORMAL","渋谷店受注",16264,"ログオン"  
"新宿店受注","02/26","13:58","14:22","00:24:00","終了","00000000","OPERATOR",  
"CENTER2","CENTER2","CENTER","NORMAL","新宿店受注",16265,"ログオン"  
"在庫照合","02/26","14:22","14:28","00:06:00","終了","00000000","OPERATOR",  
"CENTER1","CENTER1","CENTER","NORMAL","在庫照合",16266,"サービス"  
"新橋店納品","02/26","14:28","14:48","00:20:00","終了","00000000","OPERATOR",  
"CENTER2","CENTER2","CENTER","NORMAL","新橋店納品",16267,"サービス"  
"渋谷店納品","02/26","14:28","14:36","00:08:00","終了","00000000","OPERATOR",  
"CENTER2","CENTER2","CENTER","NORMAL","渋谷店納品",16268,"サービス"  
"新宿店納品","02/26","14:28","14:57","00:29:00","終了","00000000","OPERATOR",  
"CENTER2","CENTER2","CENTER","NORMAL","新宿店納品",16269,"ログオン"  
"日次集計","02/26","14:57","15:38","00:41:00","終了","00000000","OPERATOR",  
"CENTER","CENTER","CENTER","NORMAL","日次集計",16270,"サービス"
```


●監視情報をデータベースに出力するには

ESMPRO/JMSS EnterpriseEdition では、業務の情報をデータベースに出力することができます。

データベースへの出力設定は、JEnv の[サービス・JMSS モジュール環境]－[JLook]で設定します。

設定方法は「2.6.8 サービス・JMSS モジュール環境を表示・設定するには」を参照してください。

データベースの設定については、ESMPRO/JMSS EnterpriseEdition のセットアップカードを参照してください。

2.2.12 JLook の環境を設定するには

「JLook」の環境設定は次の 2 つがあります。

- ・動作環境設定
- ・表示項目設定

「ESMPRO/JMSS JLook サービス」の設定は運用環境設定(JMSS/JEnv)で行います。
サービスの運用環境設定については「2.6 運用環境設定」を参照してください。

●動作環境設定

- ①[環境設定]メニューの[動作環境設定]コマンドを選択します。[動作環境設定]ダイアログボックスの[表示]パネルが表示されます。



動作環境	項 目	内 容
表示	更新モード	最新の業務(ジョブ)情報の自動更新時間を指定します。(10～3600[秒])
	表示開始日付	業務(ジョブ)情報の表示を開始する日付を指定します。(0～100[日])
	実行ディレクトリ指定	ジョブ投入時に実行時ディレクトリの指定を行うか否かを予め設定します。
	ジョブキュー固定	固定のジョブキュー名でジョブ投入する場合に指定します。本設定を行った場合、ジョブ投入時に表示のみします。
	ツールバー表示	ツールバーを表示するか否かを指定します。
	ステータスバー表示	ステータスバーを表示するか否かを指定します。
	表示色	JMSS/JLook での更新行(前回表示のジョブ状態と状態が変わった行)の表示色を指定します。
	表示形式	JMSS/JLook ジョブ監視モードの更新行(前回表示のジョブ状態と状態が変わった行)の表示形式を指定します。
	ジョブ情報をネスト	監視画面で表示する派生ジョブの表示方法を、一括表示(派生ジョブ全てを1つのウィンドウ内で表示)するか、ネスト表示(派生ジョブから派生したジョブは別ウィンドウでネスト表示)するかを設定します。
	詳細情報をネスト	派生ジョブを別ウィンドウ表示するか否かを指定します。
	標準出力エディタ	標準出力された結果を開くエディタを設定します。
	フォント	監視画面での表示フォントを設定します。

注意：標準出力エディタで標準出力を表示する場合、同時に複数のジョブの標準出力を表示すると、エディタの種類により、標準出力の内容が正しく表示されない場合がありますので、同時に複数のジョブの標準出力を表示することは避けてください。

- ②[JMSS/JLook] ウィンドウの終了時以降も設定した動作環境で実行したい場合は[登録]ボタンを、[JMSS/JLook] ウィンドウの終了時まで設定した環境を利用したい場合は[OK]ボタンを、既定値で利用する場合は[既定値]ボタンを選択します。

③[ガントチャート]タブをクリックすると、[ガントチャート]パネルが表示されます。



動作環境	項 目	内 容
ガントチャート	基準時刻	ガントチャートを表示するときに基準とする時刻を指定します。指定できる時刻は0～23時です。
	ルーラーの間隔	ガントチャートを表示するときの時間軸の幅を狭くするか、広くするかを指定します。マウスをガントチャートの時間軸に移動し、左ボタンをダブルクリックしても間隔を切り替えることができます。

④[JMSS/JLook] ウィンドウの終了時以降も設定した動作環境で実行したい場合は[登録]ボタンを、[JMSS/JLook] ウィンドウの終了時まで設定した環境を利用したい場合は[OK]ボタンを、既定値で利用する場合は[既定値]ボタンを選択します。

●表示項目設定

[ジョブ情報]、[ジョブキュー情報]サブウィンドウに表示する項目と順番を設定します。

- ①[環境設定]メニューの[表示項目設定]コマンドを選択します。[表示項目設定]ダイアログボックスが表示されます。



- ②[項目]にある項目を[表示項目]に追加する場合は、[項目]に表示されている項目を1つ選択してから[追加]ボタンを選択します。

[表示項目]にある項目を削除する場合は、[表示項目]に表示されている項目を1つ選択してから[削除]ボタンを選択します。

- ③[表示項目]に表示されている項目の桁数を変更する場合は、[表示項目]に表示されている項目を1つだけクリックして選択し、[桁数変更]ボタンを選択します。[桁数変更]ダイアログボックスが表示されるので、[桁数]を変更した後で[OK]ボタンを選択します。

- ④表示項目の指定が終了したら、[設定]ボタンを選択します。[ジョブ情報]、[ジョブキュー情報]サブウィンドウには表示項目で指定した情報が表示されます。

[ジョブ情報]サブウィンドウに表示することができる項目は次のとおりです。

項目名	内容
業務名	業務(ジョブ)名を表示します。表示桁数は6字～32字の範囲で指定してください。
日付	ジョブ投入日付を表示します。表示桁数の変更はできません。必ず、MM/DD形式の表示になります。
開始	ジョブ投入開始時刻を表示します。表示桁数の変更はできません。必ず、HH:MM形式の表示になります。
終了	ジョブ終了時刻を表示します。表示桁数の変更はできません。必ず、HH:MM形式の表示になります。
経過時間	経過時間を表示します。表示桁数の変更はできません。必ず、HH:MM:SS形式の表示になります。
状態	現在のジョブの状態("実行中"、"終了"、"強制終了"、"起動エラー"、"一時停止"、"イベント待ち"、"イベント受信"、"排他待ち"、"リトライ"、"停止"、"停止中"、"*****")を表示します。表示桁数の変更はできません。
終了コード	業務(ジョブ)の終了状態をコード化して表示します(XXXXXXXX[16進表示])。表示桁数の変更はできません。
起動	ジョブ起動方式を表示します。表示桁数の変更はできません。
ユーザ名	ユーザ名を表示します。表示桁数は6字～20字の範囲で指定してください。
ジョブキュー	ジョブを投入したジョブキュー名を表示します。表示桁数は8～15字の範囲で指定してください。
稼働マシン	稼働マシン名を表示します。表示桁数は7～15字の範囲で指定してください。
投入マシン	投入マシン名を表示します。表示桁数は7～15字の範囲で指定してください。
優先順位	優先順位("REALTIME"、"HIGH"、"NORMAL"、"IDLE")を表示します。表示桁数の変更はできません。
ジョブ名	ジョブ名を表示します。表示桁数は7～32字の範囲で指定してください。
CPU 時間	CPUの使用時間を表示します。表示桁数の変更はできません。必ず、HH:MM:SS.TTT(時:分:秒.ミリ秒)形式の表示になります。
user CPU	CPU使用時間内のユーザモードの割合を百分率(%)で表示します。表示桁数の変更はできません。
min MEM	ジョブが使用したメモリの最小値(ワーキングセットサイズ)をキロバイト単位で表示します。表示桁数の変更はできません。
max MEM	ジョブが使用したメモリ(ワーキングセットサイズ)の最大値をキロバイト単位で表示します。表示桁数の変更はできません。
ジョブ NO	ジョブに付加した一意の番号を表示します。表示桁数の変更はできません。

注意：min MEMとmax MEMを表示する場合は、JEnvの[サービス・JMSSモジュール環境]－[JLook]の「パフォーマンスデータを採取する」を設定してください。この設定がされていない場合、min MEMとmax MEMは正しく表示されません。

[ジョブキュー情報]サブウィンドウに表示することができる項目は次のとおりです。

項目名	内容
ジョブキュー	ジョブを投入したジョブキュー名を表示します。表示桁数は8～15字の範囲で指定してください。
業務名	業務(ジョブ)名を表示します。表示桁数は6字～32字の範囲で指定してください。
状態	現在のジョブの状態("実行待ち"、"起動中"、"実行中"、"保留"、"一時停止"、"イベント待ち"、"イベント受信"、"排他待ち"、"リトライ"、"停止"、"停止中"、"起動リトライ")を表示します。表示桁数の変更はできません。
ユーザ名	ユーザ名を表示します。表示桁数は6字～20字の範囲で指定してください。
投入マシン	投入マシン名を表示します。表示桁数は7～15字の範囲で指定してください。
ジョブ名	ジョブ名を表示します。表示桁数は7～32字の範囲で指定してください。
ジョブ NO	ジョブに付加した一意の番号を表示します。表示桁数の変更はできません。

2.2.13 サーバと再接続するには

[接続]メニューをクリックするとサーバに再接続できます。ただし、通常はクライアント側から「JLook」を起動すると自動的にサーバに接続する設定になっています。したがって何かの原因で JLook サービスとの接続が切れた場合にのみ、[接続]メニューをクリックしてサーバと再接続してください([接続]メニューは JMSS サーバとの回線が切れた場合にのみ表示されます)。

注意:サーバとの接続が頻繁に切断されてしまう場合は、ネットワークに問題がありますので、システム管理者に適切な処置を要請してください。

2.3 自動運転・スケジュール管理(JMSS/JSchedule)

ここでは、JMSS の自動運転・スケジュール管理(JSchedule)を利用して業務(ジョブ)の実行をスケジュール管理する方法について説明します。

注意：「JSchedule」を利用する前にサーバとクライアントの各マシンの時計を合わせておいてください。

2.3.1 JSchedule を利用するには

■自動運転・スケジュール管理メイン画面([JMSS/JSchedule]メインウィンドウ)

[スタート]メニューから[すべてのプログラム]－[ESMPRO/JMSS]－[JSchedule]を選択します。

[JMSS/JSchedule]メインウィンドウ(自動運転・スケジュール管理メイン画面)が表示されます。[スケジュール一覧]サブウィンドウには、今日(起動日当日)の登録業務のスケジュールが表示されます。

「JSchedule」を使用するには「スケジュール使用の権利」の設定が必要です。セキュリティについては「2.6.11 JMSS セキュリティを設定するには」を参照してください。



■機能一覧表

[JMSS/JSchedule]メインウィンドウで実行できる機能は次のとおりです。

メニュー名	機能(コマンド)名	機能説明
ファイル	C S V形式で保存	現在登録されているスケジュール情報、または設定されているカレンダー情報(休止日情報)をC S V形式で保存します。
	C S V形式の読み込み	C S V形式のスケジュールデータ、またはカレンダーデータ(休止日データ)を読み込み、現在の設定情報と置換したり追加したりします。
	プリンタ設定	組み込まれているプリンタの一覧表示を行い、使用するプリンタを設定したり、選択したプリンタの印刷オプションを設定したりします。
	印刷	[スケジュール一覧]サブウィンドウに表示されている登録業務のスケジュール情報を印刷します。
	終了	「JSchedule」を終了します。
編集	登録	業務のスケジュール登録やイベント起動登録を行います。
	変更	登録済み業務のスケジュールやイベント起動の設定内容を変更します。
	一時変更	登録済み業務のスケジュールを一時的に変更またはキャンセルしたり、イベント起動を即実行に一時的に変更します。
	削除	登録済み業務のスケジュール削除やイベント起動削除を行います。
	参照	登録済み業務のスケジュール情報やイベント起動情報の詳細を表示します。
	カレンダー設定	新規のカレンダーを作成したり、既存のカレンダーを編集したりします。
環境設定	動作環境設定	「JSchedule」の動作環境を設定します。
ウィンドウ	全登録一覧	クライアントウィンドウ上の全登録一覧をトップウィンドウにしてアクティブ化します。
	指定日一覧	クライアントウィンドウ上の指定日一覧をトップウィンドウにしてアクティブ化します。
	イベント起動一覧	クライアントウィンドウ上のイベント起動一覧をトップウィンドウにしてアクティブ化します。
接続		サーバとクライアントを再接続します。何らかの障害で接続が切断されたときに使用します。

2.3.2 スケジュールを登録するには

[JMSS/JSchedule]メインウィンドウでは、自動運転したい業務をスケジュールに登録することができます。

「JSchedule」で業務をスケジュールする方法は次のとおりです。

●業務のスケジュールを登録

- ①[編集]メニューの[登録]コマンドを選択すると、[スケジュール登録]ダイアログボックスが表示されます。初期状態では[業務]パネルの方が表示されます。このときスケジュール一覧に表示されているスケジュールを選択していた場合は、その内容が初期値として表示されます。

スケジュール登録

業務 | スケジュール | 排他制御 | カレンダー | 通知 | オプション

業務名(T):

ジョブ名(J): 参照

パラメータ(P):

実行ディレクトリ(D): 参照

ジョブキュー名(A): SERVER 参照

優先順位(R): NORMAL

☐ 標準出力の監視(O):

ファイル名 参照

☒ 上書き ☐ 追加

☐ 実行経過時間タイムアウト(K): 00 時間 00 分

ジョブ起動方式(X): 指定なし

登録 終了 クリア ヘルプ

- ②[業務]パネルから、業務名、ジョブ名、パラメータ、実行ディレクトリ、ジョブキュー名、優先順位、標準出力監視の有無、実行経過時間タイムアウト、ジョブ起動方式を設定します。

- ③ “スケジュール” タブをクリックすると[スケジュール]パネルが入れ替わって表示され、今日(起動日当日)の日付が表示されます。

スケジュール登録

業務 スケジュール 排他制御 カレンダー 通知 オプション

1997 年(Y): 02 月(M): 1997年02月04日 火曜日 20:06

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

☐ 期間設定(Q): 1997 / 02 / 04 から 1998 / 02 / 03 まで

休止日振替(H) 実行しない

日付 時刻 周期

登録 終了 別ア ヘルプ

- ④[スケジュール]パネルから業務(ジョブ)のスケジュールを設定します。年、月を設定してカレンダーの日付(数字)をクリックすると、[日設定]ダイアログボックスが表示されます。その日のみ、毎年を選択した日、毎月の選択した日、毎日の4種類から選択します(選択日が月末の場合は毎月の月末を設定することができます)。また、±n日設定(スケジュール日の前後n日に実行させたい場合)、時刻設定(スケジュール実行させたい時刻)および時間周期も必要に応じて指定します。±n日設定の[稼働日のみ]をチェックすると、休止日はカウントされません。設定が終わったら[OK]ボタンを選択します。[日設定]ダイアログボックスが閉じ、[スケジュール]パネルのカレンダーの日付に青い運転日マークが付きます。

日設定

4日設定

☒ 1997年2月4日のみ

☐ 毎年2月4日

☐ 毎月4日

☐ 毎月月末

☐ 毎日

±n日設定:

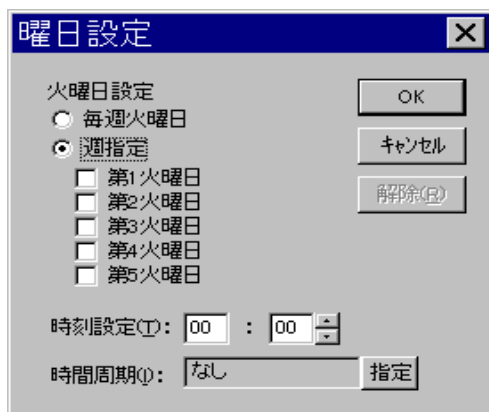
☐ + ☐ - 0 日 ☐ 稼働日のみ

時刻設定(T): 00 : 00

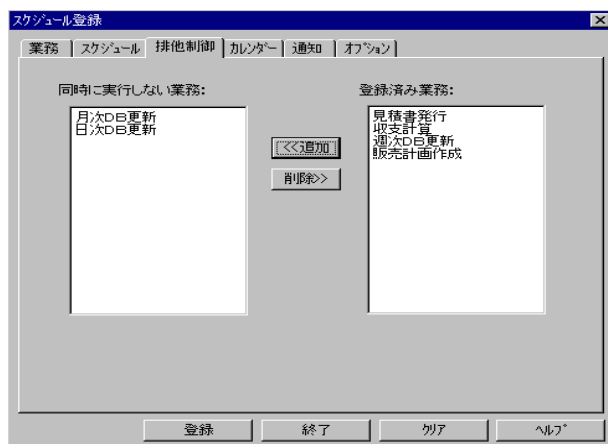
時間周期(Q): なし 指定

OK キャンセル

- ⑤日設定ではなく、曜日指定による週周期指定をしたい場合はカレンダーの曜日をクリックすると[曜日設定]ダイアログボックスが表示されます。毎週、週指定のいずれかを設定し、時刻指定と時間周期指定をした後で[OK]ボタンを選択します。[曜日設定]ダイアログボックスが閉じ、[スケジュール]パネルのカレンダーの日付に青い運転日マークが付きます。



- ⑥現在登録しようとしている業務と既に登録済みの業務を同時に実行させないで動作させたい場合は、“排他制御”タブをクリックします。排他制御の設定は、右側に表示されている登録済み業務一覧から排他としたい業務を選択し、[追加]ボタンを選択するか選択業務をマウスでダブルクリックすることで行います。また、逆に既に設定している業務との排他を解除したい場合は、同時に実行しない業務一覧から解除したい業務を選択し、[削除]ボタンを選択するか選択業務をマウスでダブルクリックすることで行います。排他設定できる業務は10個までです。



- ⑦現在のカレンダーと異なるカレンダーを使用してスケジュール登録したい場合や、複数のカレンダーを組み合わせ(結合させて)スケジュール登録したい場合、“カレンダー”タブをクリックします。カレンダー名一覧で★印が付いているのが現在のカレンダーです。カレンダーの設定方法は、カレンダー名一覧から利用したいカレンダー名を単一選択(マウスでクリックするかスペースキーを押下)するか、または複数選択(単一選択を連続して実行)するだけです。解除は、逆に選択されたカレンダー名を再度選択することで行えます。



複数選択された場合は、次の複合(結合)条件の指定が可能になります。

条件	説明
選択した任意のカレンダーの休止日は全て休止日とする。 (OR 条件)	選択した全てのカレンダーのうち、いずれかのカレンダーで休止日となっている日を全て休止日として扱います。
選択した全てのカレンダーで共通な休止日のみを休止日とする。 (AND 条件)	選択した全てのカレンダーで共通して休止日となっている日だけを休止日として扱います。

- ⑧スケジュールジョブの起動状況をイベントログに通知したい場合は、“通知”タブをクリックします。

通知条件には以下の4つがあり、各々複数の条件を設定することもできます。

通知条件	説明
正常起動時	スケジュールジョブが正常に投入されたときに通知されます。
終了時	実行したスケジュールジョブが終了したときに通知されます。
起動エラー時	実行したスケジュールジョブが起動エラーとなったときに通知されます。
未起動時	スケジュールジョブが指定のスケジュール通り実行されず、積み残しジョブとなったときに通知されます。この条件設定時には、イベントログへの通知と同時にここで指定したジョブを実行することも可能です。ジョブの指定で設定できる項目は[業務]パネルで指定できる項目と同じです。

イベントログへの通知タイミングは、正常起動時、終了時、起動エラー時は発生と同時に、未起動時(未起動時のジョブ実行も含む)は、運用環境設定(JMSS/JEnv)のサービス・JMSS モジュール環境コマンドで定義したタイミングとなります。

スケジュール登録

業務 | スケジュール | 排他制御 | カレンダー | 通知 | オプション

通知条件

☐ 正常起動時 ☐ 終了時 ☐ 起動エラー時

☒ 未起動時 (積み残しジョブとなった場合)

☐ 未起動時に実行するジョブを指定

業務名(T):

ジョブ名(J): 参照

パラメータ(P):

実行ディレクトリ(D): 参照

ジョブキュー名(A): 参照

優先順位(R):

☐ 標準出力の監視(O):

ファイル名 参照

☒ 上書き ☐ 追加

☐ 実行経過時間タイムアウト(K): 時間 分

ジョブ起動方式(X):

登録 終了 クリア ヘルプ

- ⑨スケジュール実行に関するオプション(休止日振替により実行日が重なった場合の実行条件)指定をする場合は、“オプション”タブをクリックします。

振替重複実行指定	説明
1回のみ実行	休止日振替により実行日が重なった場合でもジョブの実行は1回しか行いません。
全て実行	休止日振替により実行が重なった場合は、ジョブの実行は重なった日数分の回数行います。



- ⑩業務、スケジュール、排他制御、カレンダー、通知、オプションの各パネルの設定をした後で[登録]ボタンを選択すると、スケジュールに業務(ジョブ)が登録されます。

2.3.3 スケジュールを表示するには

「JSchedule」で登録業務のスケジュールを表示するには、次の2つの方法があります。

- ・ 指定日の登録業務を表示
- ・ 全登録業務のスケジュールを表示

●指定日の登録業務を表示

[スケジュール一覧]サブウィンドウに特定の日の登録業務を表示する場合は、次の操作を行ってください。

- ①カレンダーの[指定日一覧]チェックボックスをクリックします。
- ②カレンダー上で指定日(年、月、日)を設定すると、その指定日に登録してある全業務が[スケジュール一覧]サブウィンドウに表示されます。なお、「JSchedule」を起動すると今日(起動日当日)の登録業務スケジュールが[スケジュール一覧]サブウィンドウに自動的に表示されます。

注意： 指定日一覧ではスケジュール保存期間(JMSS/JEnvの「サービス・JMSSモジュール環境」で設定)以前のスケジュールは表示できません。

●全登録業務のスケジュールを表示

[スケジュール一覧]サブウィンドウに全登録業務のスケジュールを表示する場合は、次の操作を行ってください。

カレンダーの[指定日一覧]チェックボックスをクリックし、解除します。全登録業務のスケジュールが表示されます。

2.3.4 スケジュールを変更・削除するには

「JSchedule」で登録業務のスケジュールを変更・削除するには、次の3つの方法があります。

- ・登録されている業務(ジョブ)の内容／スケジュールを変更
- ・登録されている業務(ジョブ)のスケジュールを一時変更
- ・登録されている業務(ジョブ)を削除

●登録されている業務の内容／スケジュールを変更

[スケジュール一覧]サブウィンドウに表示されている登録業務の内容を変更します。
[スケジュール一覧]サブウィンドウには“全登録一覧”が表示されている必要があります。全登録一覧を表示する方法については「2.3.3 スケジュールを表示するには」を参照してください。

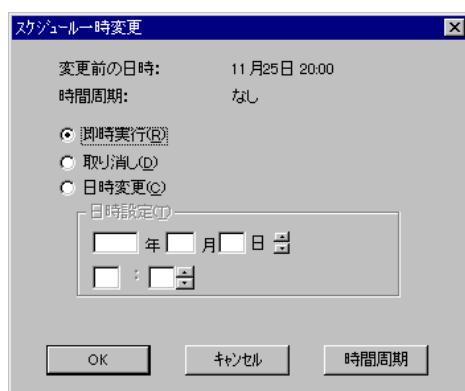
- ①[スケジュール一覧]サブウィンドウに表示されている業務(ジョブ)から、内容を変更したい業務(ジョブ)をクリックして反転表示させます。
- ②[編集]メニューの[変更]コマンドを選択します。[スケジュール変更]ダイアログボックスが表示されます。
- ③[業務]パネル、[スケジュール]パネル、[排他制御]パネルなどで業務内容およびスケジュールを変更した後で[変更]ボタンを選択すると、スケジュールに登録されている業務内容／スケジュールが変更されます。

●登録されている業務(ジョブ)のスケジュールを一時変更

スケジュールの一時変更は、一時的に業務スケジュールを変更するときに使用します。例えば、「毎日 9:00 に実行する業務を今日だけ 10:00 から実行する」場合などに使用します。

①[スケジュール一覧]サブウィンドウ(指定日一覧)に表示されている業務(ジョブ)から、スケジュールを一時変更したい業務(ジョブ)をクリックして反転表示させます。

②[編集]メニューの[一時変更]コマンドを選択します。[スケジュール一時変更]ダイアログボックスには、変更前のスケジュール登録日時と時間周期が表示されます。



③即時実行、取り消し、日時変更(変更日付、変更時刻)のいずれかを設定します。一時変更する業務の実行周期を変更する場合は、[時間周期]ボタンを選択し変更します。[OK]ボタンを選択すると、業務のスケジュールが一時的に変更されます。

●登録されている業務(ジョブ)を削除

[スケジュール一覧]サブウィンドウに表示されている登録業務を削除します。

[スケジュール一覧]サブウィンドウには“全登録一覧”が表示されている必要があります。全登録一覧を表示する方法については「2.3.3 スケジュールを表示するには」を参照してください。

①[スケジュール一覧]サブウィンドウに表示されている業務(ジョブ)から、削除したい業務(ジョブ)をクリックして反転表示させます。

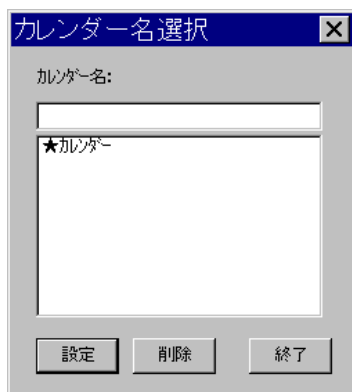
②[編集]メニューの[削除]コマンドを選択します。削除してもよいかどうかを聞いてきますので、[はい]ボタンを選択するとスケジュールに登録されている業務(ジョブ)が削除されます。

2.3.5 カレンダーを設定するには

自動運転を行わない日(休止日)を設定します。

JMSS のカレンダーを設定する場合の操作は次のとおりです。

- ①[編集]メニューの[カレンダー設定]コマンドを選択します。[カレンダー名選択]ダイアログボックスが表示されます。



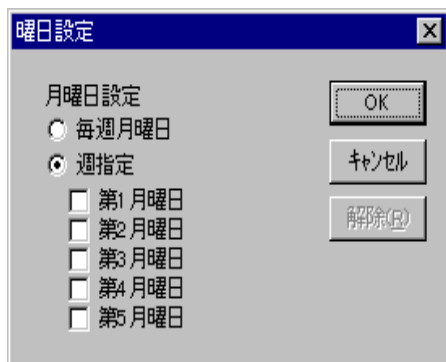
- ②設定(編集)したいカレンダーを一覧より選択して[設定]ボタンを選択すると、[カレンダー設定]ダイアログボックスが表示されます。



休止日は、年、月を選択してカレンダーに表示されている日付をクリックすると、その日付に赤い休止日マークが付きます。[祝日を休止日とする]をチェックすると、すべての祝日(国民の休日)が休止日になります。[振替休日を休止日とする]をチェックすると、国民の祝日が日曜日と重なった場合等で定義されている振替休日が休止日になります。

特定の祝日や振替休日を休止日にしたくない場合は、特定日をクリックして赤い休止日マークを解除してください。

- ③毎週またはある週の決まった曜日に休止日を設定する場合は、曜日が表示されている部分をクリックします。[曜日設定]ダイアログボックスが表示されるので、設定したい週を選択します。



- ④毎週またはある週を設定した後、[OK]ボタンを選択します。[休止日設定]ダイアログボックスのカレンダーの日付に赤い休止日マークが付きます。
- ⑤休止日(年、月、日)を指定した後、設定した休止日を保存する場合は[OK]ボタンを選択してください。

2.3.6 スケジュールデータの保存・読み込みをするには

●スケジュールデータの保存

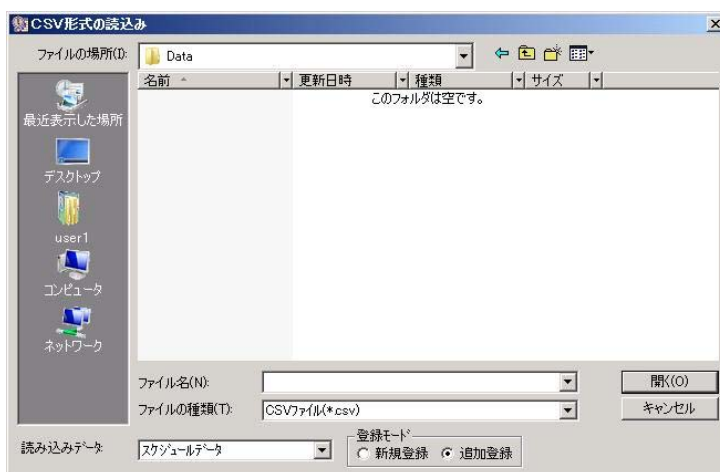
[JMSS/JSchedule]では、現在登録されているスケジュール情報を CSV 形式(Comma Separated Value)のファイル(*.CSV)として出力することができます。スケジュールデータを CSV 形式で出力するには、保存したいスケジュールのウィンドウ(全登録一覧ウィンドウまたは指定日一覧ウィンドウ)をアクティブにして、[ファイル]メニューの[CSV形式で保存]コマンドを選択し、保存データの種類の「スケジュールデータ」を指定します。

●スケジュールデータの読み込み

CSV 形式のスケジュールデータファイルを読み込むには[ファイル]メニューの[CSV形式の読み込み]コマンドを選択し、読み込みデータの種類の「スケジュールデータ」を指定します。

スケジュールデータの読み込みは次の2つの登録モードが選択できます。デフォルトは追加登録です。

登録モード	説明
新規登録	現在登録してある全スケジュール情報を破棄し、指定したCSV形式スケジュールデータでスケジュール登録を行います(保存期間内の実行済みスケジュール情報は破棄されずに残ります)。
追加登録	現在の登録情報はそのままにして、指定のCSV形式スケジュールデータを追加登録します。



CSV 形式の例

[Version=5.0]

スケジュール NO,スケジュール,日付,時間,業務名,シフト名,パラメータ,ディレクトリ,シフトキュー,開始日,終了日,ユーザ名,標準出力,優先順位,マシン名,振替,周期,標準出力ファイル名,標準出力モード,タイムアウト,±n 日設定,排他業務名,カレンダー名,カレンダーフラグ,通知条件,シフト起動方式,未起動時業務名,未起動時シフト名,未起動時パラメータ,未起動時ディレクトリ,未起動時シフトキュー,未起動時優先順位,未起動時標準出力,未起動時標準出力ファイル名,未起動時標準出力モード,未起動時タイムアウト,振替実行オプション,未起動時シフト起動方式

"1","毎日","", "22:00", "一時変更毎日

","CYCLE.BAT",,, "CENTER", "2007/02/04", "OPERATOR", "NO", "NORMAL", "CENTER", "NO", "NO",,, "+0 日", "", "カレンダー", "OR", "", "サービス",,,,,,,,,, "1 回のみ", ""

"2","毎月;特定日", "4;2007/2/4", "22:00;22:00", "一時変更毎月

","CYCLE2BAT",,, "CENTER", "2007/02/04", "OPERATOR", "NO", "NORMAL", "CENTER", "NO", "NO;0 時間 3 分 0 秒毎 22:00:00迄 ON",,, "+0 日;+0 日", "", "カレンダー", "OR", "", "ロケオン",,,,,,,,,, "1 回のみ", ""

"3","週", "1,2,3,4,5 火曜", "22:00", "一時変更毎週

","WEEKLY.BAT",,, "CENTER", "2007/02/04", "OPERATOR", "NO", "NORMAL", "CENTER", "NO", "NO",,, "+0 日", "", "カレンダー", "OR", "", "ロケオン",,,,,,,,,, "1 回のみ", ""

"4","毎月", "4", "22:00", "即実行毎月

","MONTH.BAT",,, "CENTER", "2007/02/04", "OPERATOR", "YES", "NORMAL", "CENTER", "NO", "NO", "上書き", "+1 日", "", "カレンダー", "OR", "", "サービス",,,,,,,,,, "1 回のみ", ""

注意：スケジュールデータの新規登録により破棄された既存のスケジュール情報は元に戻せません。

2.3.7 カレンダーの保存・読み込みをするには

現在のカレントカレンダーとなっているカレンダー情報(休止日情報)を CSV 形式 (Comma Separated Value)のファイル(*.CSV)に保存することができます。カレンダーデータを CSV 形式で保存するには、[ファイル]メニューの[CSV 形式で保存]コマンドを選択し、保存データの種類の「カレンダーデータ」を指定します。

また、カレンダーデータを読み込むには、[ファイル]メニューの[CSV 形式の読み込み]コマンドを選択し、読み込みデータの種類の「カレンダーデータ」を指定します。

CSV 形式の例

```
[Version=4.0]
カレンダー名:カレンダー
休止日振替:なし

種別,開始年,月日,終了年,曜日
"週",,,, "毎週 日曜"
"週",,,, "1,3,5 木曜"
"週",,,, "毎週 土曜"
"不定期","2007","1/31",,
"不定期","2007","2/7",,
"不定期","2007","3/21",,
```

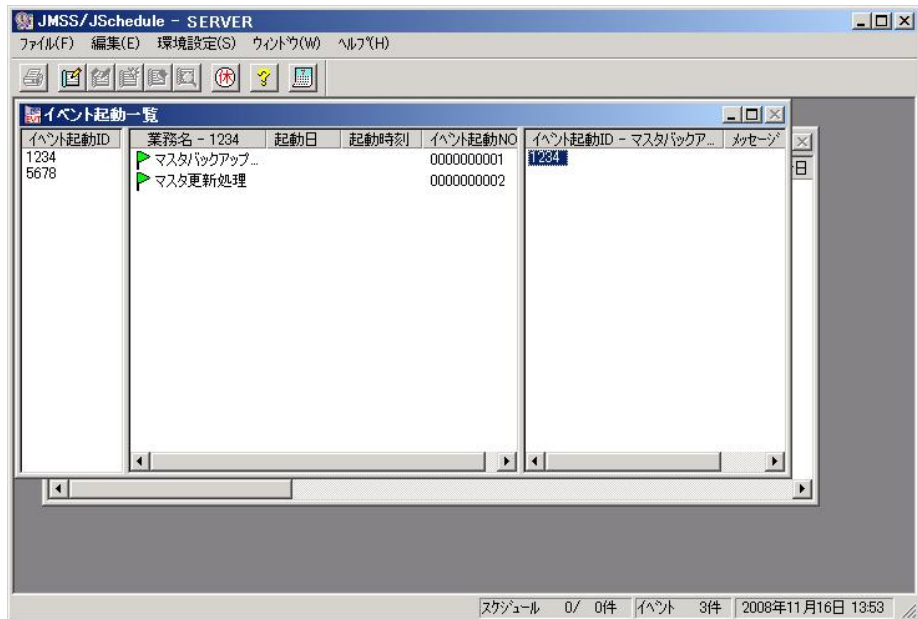
注意：カレンダーデータの新規登録により破棄された既存のカレンダー情報は元に戻せません。

2.3.8 イベント起動を登録するには

イベント起動とは、設定された日時にジョブを起動するスケジュール起動方式とは異なり、任意のタイミングで発生したイベントの通知によってジョブを起動するイベント駆動型の起動方式のことです。いつも決められた時間にできるとは限らない一連の業務の中で、前ジョブの終了時にイベント送信を行うことによって任意のタイミングでイベント起動として登録されたジョブを起動することができます。

「JSchedule」でイベント起動を登録する方法は次のとおりです。

- ①[ウィンドウ]メニューの[イベント起動一覧]コマンドを選択します。[イベント起動一覧]サブウィンドウが表示されます。既にイベント起動ジョブが登録されている場合は、ここにその内容が表示されます。



[イベント起動一覧]サブウィンドウには、以下の項目が表示されます。

ウィンドウ	表示項目	説明
左側	イベント起動 ID	イベント起動 ID の一覧を表示します。
中央	業務名	イベント起動ジョブの業務名を表示します。業務名やアイコンをダブルクリックすると、イベント起動の有効／無効を切り替えることができます。アイコンの色が緑のときは有効、赤のときは無効です。
	起動日	イベント起動ジョブが起動された日を表示します。最後に起動された日が表示されます。
	起動時刻	イベント起動ジョブが起動された時刻を表示します。最後に起動された時間が表示されます。
	イベント起動 NO	イベント起動 NO を表示します。
右側	イベント起動 ID	選択された業務に設定されているイベント起動 ID の一覧を表示します。イベント起動 ID をダブルクリックし、メッセージを設定すると(省略可)選択イベント ID を送信することができます。
	メッセージ	イベント送信時のメッセージを表示(設定してあれば)します。

- ②[編集]メニューの[登録]コマンドを選択すると、[イベント起動登録]ダイアログボックスが表示されます。初期状態では[業務]パネルの方が表示されます。このときイベント起動一覧に表示されているイベント起動ジョブを選択していた場合は、その内容が初期値として表示されます。

The screenshot shows the 'イベント起動登録' (Event Start Registration) dialog box. It has three tabs: '業務' (Business), 'イベント起動' (Event Start), and '排他制御' (Queue Control). The 'イベント起動' tab is selected. The dialog contains the following fields and controls:

- 業務名(T): Text input field.
- ジョブ名(J): Text input field with a '参照' (Reference) button.
- パラメータ(P): Text input field.
- 実行ディレクトリ(D): Text input field with a '参照' (Reference) button.
- ジョブキュー名(A): Text input field with a '参照' (Reference) button.
- 優先順位(R): Dropdown menu showing 'NORMAL'.
- ☐ 標準出力の監視(O): Check box.
- ファイル名: Text input field with a '参照' (Reference) button.
- ☒ 上書き (Save) and ☐ 追加 (Add): Radio buttons.
- ☐ 実行経過時間タイムアウト(K): Check box.
- 時間: Time input field showing '00' minutes and '00' seconds.
- ジョブ起動方式(X): Dropdown menu showing '指定なし' (None).

At the bottom, there are four buttons: '登録' (Register), '終了' (End), 'クリア' (Clear), and 'ヘルプ' (Help).

- ③[業務]パネルで、業務名、ジョブ名、パラメータ、実行ディレクトリ、ジョブキュー名、優先順位、標準出力監視の有無、実行経過時間タイムアウト、ジョブ起動方式を設定します。

業務名、パラメータには、置換文字列(\$変数\$)を指定することができます。置換文字列を指定すると、イベント受信時に「\$変数\$」が送信されてきた値に置換され、ジョブが実行されます。変数は半角英数字で指定してください。

- ④ “イベント起動” タブをクリックすると[イベント起動]パネルが入れ替わって表示されます。



- ⑤業務パネルで指定したイベント起動ジョブに設定するイベント起動ID(4文字以内の半角英数字で、大文字小文字区別)を指定します。イベント起動IDは最大5つ(ID1～ID5)まで指定することができます。ただし、少なくとも1つのイベント起動IDは指定しなければなりません。

複数のイベント起動IDが指定された場合は、指定されたいずれかのイベントが通知されるとイベント起動ジョブの起動が行われます。

- ⑥イベント起動ジョブ登録時に業務パネルで指定した業務のイベント起動を有効として登録するか、無効として登録(保留)するかを指定します。イベント起動を有効とするとき指定してください。なお、デフォルトでは有効となっています。

⑦指定したイベント起動ジョブの有効期間を設定します。期間設定を行わない場合、登録日から無期限(2037年12月31日)までとなります。期間設定を行うと、設定された期間内でのみイベント起動が可能となり、期間を過ぎたイベント起動ジョブは一定期間(スケジュール保存期間)をおいて削除されます。なお、期間には登録日より前の年月日を指定することはできません。また指定できる年月日の限界は2037年12月31日までとなっています。

⑧現在登録しようとしている業務と既に登録済みの業務を同時に実行させないで動作させたい場合は、“排他制御”タブをクリックします。排他制御の設定は、右側に表示されている登録済み業務一覧から排他としたい業務を選択し、[追加]ボタンを選択するか選択業務をマウスでダブルクリックすることで行います。また、逆に既に設定している業務との排他を解除したい場合は、同時に実行しない業務一覧から解除したい業務を選択し、[削除]ボタンを選択するか選択業務をマウスでダブルクリックすることで行います。



2.3.9 イベント起動ジョブを変更・削除するには

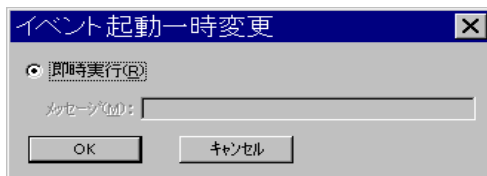
「JSchedule」で登録済みのイベント起動ジョブを変更・削除するには、次の2つの方法があります。

- ・登録されているイベント起動ジョブを即実行
- ・登録されているイベント起動ジョブを削除

●登録されているイベント起動ジョブを一時変更

イベント起動ジョブを即実行するときに使用します。

- ①[イベント起動一覧]サブウィンドウの中央の領域に表示されている業務名から、即実行したいイベント起動ジョブをクリックして反転表示させます。
- ②[編集]メニューの[一時変更]コマンドを選択します。[イベント起動一時変更]ダイアログボックスが表示されます。



- ③[OK]ボタンを選択すると、選択業務(ジョブ)が即実行されます。

●登録されているイベント起動ジョブを削除

[イベント起動一覧]サブウィンドウに表示されているイベント起動ジョブを削除します。

- ①[イベント起動一覧]サブウィンドウの中央の領域に表示されている業務名から、削除したいイベント起動ジョブをクリックして反転表示させます。
- ②[編集]メニューの[削除]コマンドを選択します。削除してもよいかどうかを聞いてきますので、[はい]ボタンを選択すると登録されているイベント起動ジョブが削除されます。

2.3.10 イベント起動ジョブの保存・読み込みをするには

現在設定されているイベント起動ジョブの情報を CSV 形式(Comma Separated Value)のファイル(*.CSV)に保存することができます。イベント起動ジョブデータを CSV 形式で保存するには、[ファイル]メニューの[CSV 形式で保存]コマンドを選択し、保存データの種類の「イベント起動ジョブデータ」を指定します。

また、イベント起動ジョブデータを読み込むには、[ファイル]メニューの[CSV 形式の読み込み]コマンドを選択し、読み込みデータの種類の「イベント起動ジョブデータ」を指定します。

CSV 形式の例

[Version=5.0]

イベント起動 NO, イベント ID, 状態, 業務名, ジョブ名, パラメータ, 実行時ディレクトリ, ジョブキュー, 開始日, 終了日, 優先順位, 標準出力監視, 標準出力ファイル名, 標準出力モード, 実行時間タイムアウト, 排他業務名, ジョブ起動方式

"1","0001","ON","jesend\$JOBNAME\$", "E:¥WIN32APP¥JMSS¥200006.jnt", "/s:SERVER20002", "E:¥WIN32APP¥JMSS", "SERVER1", "", "", "NORMAL", "YES", "", "上書き", "", ""
"2","0002","ON","test\$job\$", "E:¥WIN32APP¥JMSS¥200106.jnt", "\$ed\$", "", "SERVER1", "", "", "NORMAL", "NO", "", "", "", "ログオン"

2.3.11 JSchedule の環境を設定するには

[JMSS/JSchedule]の動作環境を設定する場合の操作は次のとおりです。

[環境設定]メニューの[動作環境設定]コマンドを選択します。[動作環境設定]ダイアログボックスが表示されます。

設定できる項目は次のとおりです。

項	目	内 容
ユーザインタフェース	ツールバー表示	ツールバーを表示するか否かを指定します。 (既定値は表示する)
	ステータスバー表示	ステータスバーを表示するか否かを指定します。 (既定値は表示する)

「ESMPRO/JMSS JSchedule サービス」の設定は運用環境設定(JMSS/JEnv)で行います。サービスの運用環境設定については「2.6 運用環境設定」を参照してください。

2.4 業務運用メニュー(JMSS/JMenu)

ここでは、JMSS の業務運用メニュー(JMenu)を利用して業務運用メニューの新規作成から保存までを行う方法について説明します。

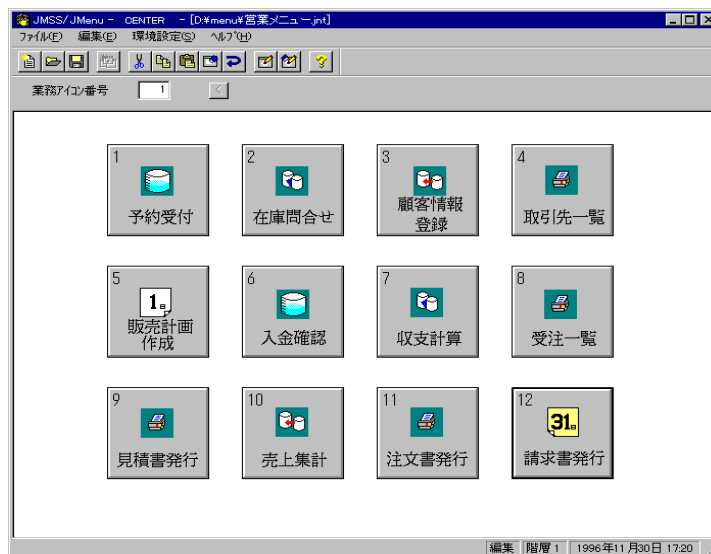
2.4.1 JMenu を利用するには

■業務運用メニューメイン画面([JMSS/JMenu]メインウィンドウ)

[スタート]メニューから[すべてのプログラム]－[ESMPRO/JMSS]－[JMenu]を選択します。

[JMSS/JMenu]メインウィンドウ(業務運用メニューメイン画面)が表示されます。

メニューを利用するには[JMenu]の環境設定であらかじめユーザ初期メニューを登録しておく必要があります。詳細については「2.4.2 業務運用メニューを作成するには」と「2.4.4 JMenu の環境を設定するには」を参照してください。



■業務運用メニューからの業務実行

[JMSS/JMenu]メインウィンドウ(業務運用メニューメイン画面)に表示されている業務運用メニュー内の業務アイコンを選択すると、業務が実行されます。業務アイコンに業務運用メニューを指定している場合は、その業務運用メニューが表示されます。業務運用メニューからの業務実行は、「実行モード」のときのみ行えます。

業務運用メニューの移動、業務アイコンの実行の操作方法は次のとおりです。

操作	操作内容
業務運用メニューの移動	[<]ボタンを選択すると、前のメニュー画面に戻ります。戻る対象がない場合は、[<]ボタンはグレー表示になっています。
業務アイコンの実行	[業務アイコン番号]ボックスにアイコンの左上部に表示されている通し番号を入力して、リターンキーを押します。
	アイコンをクリックして選択した後、再度クリックします。

■機能一覧表

[JMSS/JMenu]メインウィンドウで実行できる機能は次のとおりです。

メニュー名	機能(コマンド)名	機能説明
ファイル	新規作成	業務運用メニューファイルを新規に作成します。
	開く	保存してある業務運用メニューファイルを開きます。
	上書き保存	現在、[JMSS/JMenu]メインウィンドウで開いて作成している業務運用メニューファイルを上書き保存します。
	名前を付けて保存	現在、[JMSS/JMenu]メインウィンドウで開いて作成している業務運用メニューファイルに新たに名前を付けて保存します。
	初期メニューに戻る	表示中の業務運用メニューを初期メニューに戻します。
	終了	「JMenu」を終了します。
編集	元に戻す	直前に加えた変更を取り消して元の状態に戻します。
	切り取り	選択したアイコンや文字などを業務運用メニューから削除し、一時的にクリップボードに保管します。
	コピー	選択したアイコンや文字などを一時的にクリップボードに保管します。
	貼り付け	クリップボードに保管しているアイコンや文字などを業務運用メニューに貼り付けます。
	削除	指定した業務アイコンを削除します。
	業務アイコンの追加	業務運用メニューにアイコンを追加します。
	業務アイコンの修正	業務運用メニューのアイコンを修正・削除します。
	拡張情報設定	業務運用メニューのアイコン表示/非表示、壁紙について設定します。
環境設定	動作環境設定	「JMenu」の動作環境を設定します。
	ユーザ情報登録	ユーザ初期メニューを登録します。
	編集モード	[JMSS/JMenu]メインウィンドウの動作モードを変更します。
接続		サーバとクライアントを再接続します。何らかの障害で接続が切断されたときに使用します。

■ユーザ初期メニューの登録と表示

「JMenu」を起動すると、ログオンしているユーザのユーザ初期メニューが[JMESS/JMenu]メインウィンドウに表示されます。ユーザ初期メニューの登録については「2.4.4 JMenu の環境を設定するには」を参照してください。

■動作モードの切り替え(実行モード ⇄ 編集モード)

[JMenu]には次の2つの動作モードがあります。

動作モード	内 容
実行モード	メニューを実行します。
編集モード	メニューの内容を登録／修正します。

「JMenu」を編集モードで使用するには、「メニュー作成／更新」の権利が必要です。「メニュー作成／更新」の権利などのセキュリティの設定については「2.6.11 JMSS セキュリティの設定」を参照してください。

「メニューの作成／更新」の権限があるユーザが動作モードを「編集モード」に切り替える場合は、次の操作を行ってください。

[環境設定]メニューの[編集モード]コマンドを選択します。[編集モード]コマンドの左にチェックマークが付いて“編集モード”になります。

動作モードを“実行モード”に戻すには、再度[編集モード]コマンドを選択します。[編集モード]コマンドの左のチェックマークが消え、“実行モード”に戻ります。

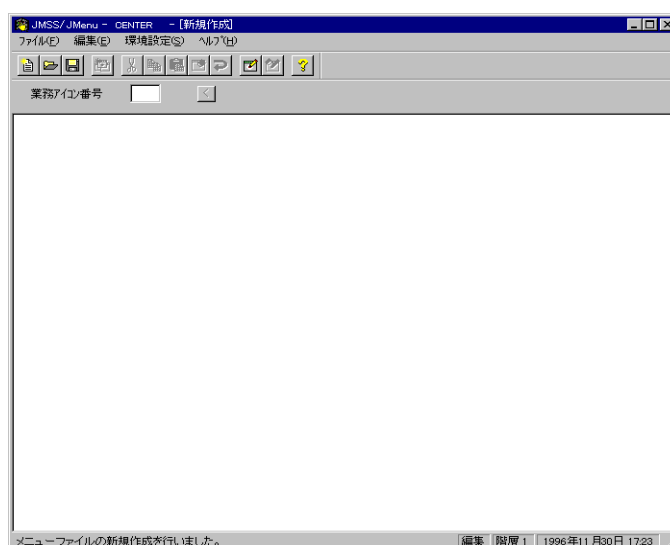
2.4.2 業務運用メニューを作成するには

業務運用メニューを作成するには、次の順序に従って作成してください。

1. 編集モードに切り替える
2. 業務運用メニュー作成ウィンドウの表示
3. 業務運用メニューにアイコン(メニュー項目)を登録
4. 業務運用メニューを新規に保存

(1) 業務運用メニュー作成ウィンドウの表示

[ファイル]メニューの[新規作成]コマンドを選択します。[業務運用メニュー作成]ウィンドウが表示されます。



(2) 業務運用メニューにアイコン(メニュー項目)を登録

- ①[業務運用メニュー作成]ウィンドウでマウスの左ボタンをダブルクリックするか、[編集]メニューの[業務アイコンの追加]コマンドを選択します。[業務アイコン登録]ダイアログボックスが表示されます。

- ②業務名、ジョブ名、パラメータ、実行ディレクトリ、ジョブキュー名、ジョブ説明、アイコンファイル名、アイコン、優先順位、ジョブの監視の有無、ジョブ起動確認の有無、標準出力の監視の有無、ジョブ終了通知の有無、実行経過時間タイムアウトの有無、ジョブ起動方式を指定した後、[OK]ボタンを選択します。業務運用メニューにアイコンが登録されます。

設定項目	説 明
業務名	業務アイコンに付加する業務名を指定します(最大 80 バイト、全角文字で 40 文字までです)。指定した業務名は業務アイコンボタンの上にセンタリング表示されます。業務アイコンが未選択状態の時にはこの業務名はボタンのサイズにより前後部分や下部が欠けて表示される場合もありますが、選択された時は指定された内容を全て表示できるようになっています。なお、業務名を指定せずジョブ名を指定した場合は、ジョブ名(ディレクトリパス、拡張子をとった名前)がデフォルト業務名として割り当てられます。

設定項目	説 明
ジョブ名	業務アイコン登録したいジョブ名をフルパスで指定します(最大 255 バイトです)。本項目は省略できません。ジョブの存在するマシンと異なるマシンで実行したい場合は、ジョブは共有ディレクトリ上になければなりません。この時には" ¥¥ マシン名¥共有名¥パス名"で指定します。ジョブ名が指定されるとジョブが持つデフォルトアイコンがアイコン領域に、業務名が未指定状態であればジョブ名(ディレクトリパス、拡張子をとった名前)が業務名領域にそれぞれデフォルト設定されます。本指定は[参照]ボタンを利用してファイル一覧から選択することもできます。一覧からの選択時にはマシン名、共有名を意識する必要はありません(自動的に変換します)。また、この時には指定したジョブの存在するディレクトリ名が実行ディレクトリ指定領域にデフォルト設定されます。なお、[参照]ボタンを使用しない場合は指定ジョブの存在確認は行われませんので、正しく指定するようにしてください。
パラメータ	業務アイコン登録ジョブに引き渡すパラメータを指定します(最大 255 バイトです)。指定ジョブがパラメータ不要の場合はこの項目は省略してください。パラメータにファイル名などを指定する場合は、一般的なパスの記述形式で指定してください。ただし、この場合は必ず稼働(実行)マシンから見えるディレクトリになければなりません。実行ディレクトリを指定した場合は実行ディレクトリ相対パスが使用できます。パスは稼働マシンにおけるパス(ドライブ番号を含む)になりますので注意してください。
実行ディレクトリ	指定ジョブを実行するディレクトリを指定します(最大 255 バイトです)。指定を省略した場合は、稼働マシンにおけるインストールディレクトリとなります。他マシン上のディレクトリを実行ディレクトリにしたい場合は、ジョブ名指定と同様、共有ディレクトリでなければならないため、" ¥¥ マシン名¥共有名¥パス名"で指定してください。
ジョブキュー名	業務アイコン登録ジョブを投入するジョブキュー名を指定します(最大 15 バイトです)。本項目を省略すると、自マシン(実行操作を行うマシン)がサーバの場合はデフォルトジョブキュー名(ジョブキュー名の有無に関わらず)が割り当てられ、それ以外の場合は監視対象としない自マシン実行となります。
ジョブ説明	業務アイコン登録したジョブについての詳細説明を記述します(最大 80 バイト、全角文字で 40 文字までです)。記述内容は業務アイコンが選択状態の時にステータスバーに表示されます。
アイコンファイル名	業務アイコンとしてアイコン表示させたいアイコンファイルを指定します(最大 255 バイトです)。ジョブ名指定時にアイコンを持つファイルを指定した場合はそのジョブが持つアイコンが割り当てられますが、ジョブがアイコンを持たない場合(この時は JMSS/JMenu のデフォルトアイコンがデフォルトとなります)や、ジョブが持つアイコンと異なるアイコンを付けたい場合は本項目を指定してください。ファイルの指定方法はジョブ名指定と同じです。

設定項目	説 明
アイコン	指定されたジョブまたはアイコン指定ファイルが複数のアイコンを持つ場合、複数アイコンの中から任意のアイコンを選択することができます(ただし、選択できるのは先頭のアイコンから 100 個までです)。
優先順位	業務アイコン実行の際の優先順位を指定します。
ジョブの監視	業務アイコン登録ジョブを実行する時にジョブの実行監視をするかどうかを指定します。本項目はジョブキュー名を省略した場合にのみ指定できるようになります(ジョブキュー名を指定した場合は指定できませんが、このときは必ず監視対象になります)。
ジョブ起動確認	ジョブの投入時にジョブ起動の確認を行う必要がある場合に指定します。本項目を指定したときは、動作環境設定の"ジョブ起動確認"の指定有無に関わらず、ジョブ起動時に起動確認のメッセージが表示されます。
標準出力の監視	ジョブの標準出力内容を記録し、JMSS/JLook(稼働・監視)の監視画面から参照できる機能を使用したい場合に指定します。
ジョブ終了通知	「JMenu」から投入したジョブの終了を、投入元マシンに通知する場合に指定します。本項目を指定すると、投入ジョブの終了時に投入ジョブ のジョブ番号、業務名、終了状態、終了コードを投入元マシンに通知します。 ルータを越えて通知することはできません。
実行経過時間タイムアウト	「JMenu」から投入したジョブの実行時間を制限したい場合に指定します。指定できる時間は 0 分～1000 時間 59 分です。指定した時間が経過してもジョブが終了しなかった場合は強制終了します(終了コードは FFFFFFFB)。
ジョブ起動方式	登録したジョブの起動方式を設定したい場合に使用します。

[業務アイコン登録]ダイアログボックスへサブメニューを登録することも可能です。サブメニュー登録時はジョブ名フィールドにメニューファイル名を指定してください。なお、パラメータ、実行ディレクトリ、ジョブキュー名フィールドを指定しても無視されます(サブメニューへのネストは最大 8 階層までです)。

備考： 作成したアイコンの位置を移動する場合は、クリックして選択した後、移動させたい場所までドラッグしてからボタンを離します。

(3) 業務運用メニューを新規に保存

[ファイル]メニューの[名前を付けて保存]コマンドを選択し、業務運用メニューを保存します。

2.4.3 業務運用メニューを修正するには

業務運用メニューを修正・削除するには、次の順序で操作してください。

1. 編集モードに切り替える
2. 業務運用メニューを開く
3. 業務運用メニューの修正・削除
4. 業務運用メニューの上書き保存

(1) 業務運用メニューを開く

- ①すでに作成してファイルとして保存してある業務運用メニューを開きます。
- ②[ファイル]メニューの[開く]コマンドを選択し、修正するメニューファイル名を入力します。指定したファイルの業務運用メニューが表示されます。

(2) 業務運用メニューの修正・削除

業務運用メニューに登録してあるアイコンを修正または削除する場合は、次の操作を行ってください。

- ①業務運用メニュー上の修正したいアイコンを選択した後で左ボタンクリックするか、[編集]メニューの[業務アイコンの修正]コマンドを選択します。[業務アイコン登録]ダイアログボックスが表示されます。
- ②業務名、ジョブ名、パラメータ、実行ディレクトリ、ジョブキュー名、ジョブ説明、アイコンファイル名、アイコン、優先順位、ジョブの監視の有無、ジョブ起動確認の有無、標準出力の監視の有無、ジョブ終了通知の有無、実行時間タイムアウトの有無、ジョブ起動方式を変更した後、[OK]ボタンを選択するとアイコンが変更されます。アイコンを削除する場合は[削除]ボタンを選択します。

(3) 業務運用メニューの上書き保存

アイコンに登録した業務運用メニューを保存する場合の操作は、次のとおりです。

[ファイル]メニューの[上書き保存]コマンドを選択し、業務運用メニューを保存します。上書き保存すると修正前の内容がバックアップファイル(*.BAK)として出力されます。

2.4.4 JMenu の環境を設定するには

「JMenu」の環境設定は次の 3 つがあります。

- ・動作環境設定
- ・拡張情報設定
- ・ユーザ情報登録

●動作環境設定

①[環境設定]メニューの[動作環境設定]コマンドを選択します。[動作環境設定]ダイアログボックスが表示されます。

The dialog box titled "動作環境設定" (Action Environment Settings) has a close button (X) in the top right corner. It is divided into four main sections:

- ボタン間隔 (Button Intervals):** Contains two spinners for "縦(O):" (Vertical) and "横(O):" (Horizontal), both set to 32 dots.
- ボタンサイズ (Button Size):** Contains two spinners for "高さ(H):" (Height) and "幅(W):" (Width), both set to 100 dots. There is a checked checkbox for "タイトルの改行(C)" (Wrap title).
- ユーザインタフェース (User Interface):** Contains three checked checkboxes: "ツールバー表示(T)" (Show toolbar), "ステータスバー表示(S)" (Show status bar), and "ジョブ起動確認(E)" (Job start confirmation).
- 背景色 (Background Color):** Contains three sliders for "赤(R):" (Red), "緑(G):" (Green), and "青(B):" (Blue), all set to 255. Below them is a "背景色" (Background color) text box.

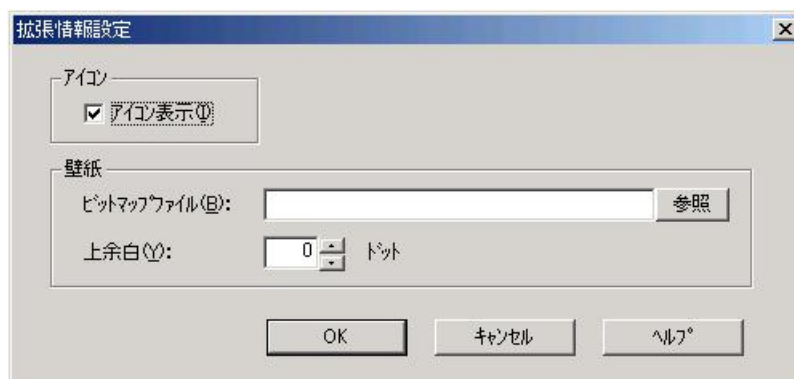
At the bottom, there are four buttons: "OK", "キャンセル" (Cancel), "既定値" (Default), and "ヘルプ" (Help).

項 目		内 容
ボタン間隔		アイコンとアイコンとの間隔(縦・横)を指定します。 (0～400 ドット、既定値は縦・横とも 32 ドット)
ボタンサイズ	ボタンサイズ	アイコンの外枠の大きさ(高さ・幅)を指定します。 (34～200 ドット、既定値は高さ・幅とも 100 ドット)
	タイトルの改行	アイコンの長い業務名を改行して表示するか否かを指定します(改行を行う場合は、業務名中の半角スペース毎の位置で改行します)。(既定値は改行する)
ユーザインタフェース	ツールバー表示	ツールバーを表示するか否かを指定します。 (既定値は表示する)
	ステータスバー表示	ステータスバーを表示するか否かを指定します。 (既定値は表示する)
	ジョブ起動確認	ジョブ起動時に起動確認メッセージを表示するか否かを指定します。(既定値は確認する)
背景色		メニュー画面の背景色を設定します。 (既定値は赤・緑・青とも 255 の白)

②「JMenu」を設定した動作環境で実行する場合は[OK]ボタンを、「JMenu」を既定値の環境で利用する場合は[既定値]ボタンを選択してください。

●拡張情報設定

[編集]－[拡張情報設定]を選択すると、ダイアログボックスが表示されます。



項 目		内 容
アイコン表示		業務アイコンボタンのアイコン表示有無を設定します。既定値は"表示する"です。
壁紙	ビットマップファイル	壁紙表示したいビットマップファイルをフルパスで指定します(パスは最大 256 バイトまでです)。
	上余白	業務アイコンボタンの上余白間隔をドット単位で設定します(0～400 ドット)。既定値は"0"ドットです。

●ユーザ情報登録

ユーザ初期表示メニューを登録する場合は、次の操作を行ってください。なお、ユーザ初期メニューの登録は編集モードにする必要があります。[JMenu]を編集モードで使用するには「メニュー作成／更新」の権利が必要です。「メニュー作成／更新」の権利などのセキュリティの設定については、「2.6.11 JMSS セキュリティを設定するには」を参照してください。エンドユーザの初期メニューは、メニュー作成権を持つメニュー作成者が設定してください。

- ①[環境設定]メニューの[ユーザ情報設定]コマンドを選択します。[ユーザ情報登録]ダイアログボックスが表示されます。

- ②ダイアログボックス内に、ユーザ名およびユーザ初期メニューファイル名を入力します。入力後[登録]ボタンを選択すると、ユーザ初期メニューが登録されます。

2.5 業務構築支援 (JMSS/JBuild)

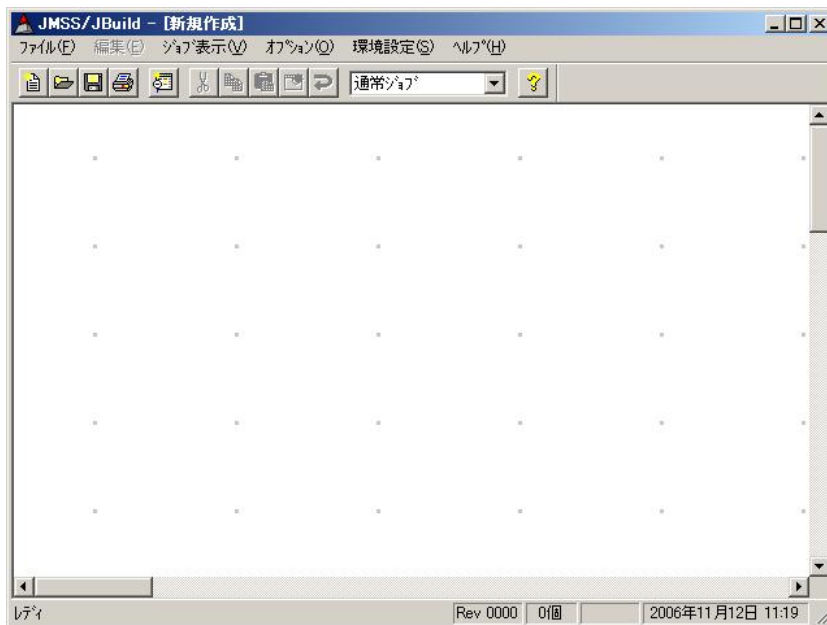
ここでは、JMSS の業務構築支援 (JBuild) を利用して業務 (ジョブ) の構築から保存までを行う方法について説明します。

2.5.1 JBuild を利用するには

■業務構築支援メイン画面([JMSS/JBuild]メインウィンドウ)

[スタート]メニューから[すべてのプログラム]－[ESMPRO/JMSS]－[JBuild]を選択します。

[JMSS/JBuild]メインウィンドウ(業務構築支援メイン画面)が表示されます。



■機能一覧表

[JMSS/JBuild]メインウィンドウで実行できる機能は次のとおりです。

メニュー名	機能(コマンド)名	機能説明
ファイル	新規作成	ジョブネットワークファイルを新規に作成します。
	開く	保存してあるジョブネットワークファイル(拡張子が .JNT)を開きます。
	上書き保存	現在、[JBuild]メインウィンドウで開いているジョブネットワークファイルを上書き保存します。
	名前を付けて保存	現在、[JBuild]メインウィンドウで開いているジョブネットワークファイルに新たに名前を付けて保存します。
	JS 形式で保存	ジョブネットワークファイルを JS 形式(拡張子が .BAT)で保存します。
	CSV 形式で保存	ジョブネットワークファイルを CSV 形式(拡張子が .CSV)で保存します。
	CSV 形式の読み込み	保存してある CSV 形式のファイル(拡張子が .CSV)を読み込みます。
	プリンタの設定	組み込まれているプリンタの一覧表示を行い、使用するプリンタを設定したり、選択したプリンタの印刷オプションを設定したりします。
	印刷プレビュー	印刷イメージを画面に表示します。
	印刷	ジョブネットワーク情報を印刷します。
	終了	「JBuild」を終了します。
編集	元に戻す	直前に加えた変更を取り消して元の状態に戻します。
	切り取り	選択したジョブボックスや文字などをジョブネットワークから削除し、一時的にクリップボードに保管します。
	コピー	選択したジョブボックスや文字などを一時的にクリップボードに保管します。
	貼り付け	クリップボードに保管しているジョブボックスや文字などをジョブネットワークに貼り付けます。
	削除	選択したジョブボックスや文字をジョブネットワークから削除します。
	移動	選択した範囲の情報を任意の位置に移動します。
ジョブ表示	レイアウト表示	ジョブネットワーク全体をレイアウト倍率設定で指定した倍率で縮小表示(レイアウト表示)します。再び選択すると 100% 固定の等倍表示に戻ります。
	レイアウト倍率設定	レイアウト画面におけるジョブネットワークの表示倍率を設定します。
	業務名表示	ジョブボックス内の表示を業務名表示またはジョブ名表示に切り替えます。チェックが付いていれば業務名表示になります。
	アイコン表示	ジョブボックス内の表示をアイコン表示または通常表示に切り替えます。アイコン表示は、アイコンのみ、アイコン/業務名表示のどちらかを設定できます。

メニュー名	機能(コマンド)名	機能説明
オプション	ジョブネットワーク環境の定義	ジョブネットワーク動作時の環境変数を設定します。
	詳細情報	指定ジョブボックスのジョブ詳細情報設定ダイアログボックスを表示します。
環境設定	動作環境設定	ツールバー、ステータスバーの表示/非表示、ドラッグ&ドロップ操作、ARCserve 連携メニュー表示を設定します。
	通常ジョブ	一般的なジョブを設定します。
	イベント送信ジョブ	イベント送信ジョブを設定します。
	イベント受信ジョブ	イベント受信ジョブを設定します。
	条件分岐	条件分岐の判断情報を設定します。
	文字列検索	文字列検索ジョブを設定します。
	結合子 FROM	結合子 FROM 番号を設定します。
	結合子 TO	結合子 TO 番号を設定します。
	メール送信	メール送信ジョブを設定します。
	アラート送信	アラート送信ジョブを設定します。
	サービス制御ジョブ	サービス制御ジョブを設定します。
	ARCserve バックアップ(cabatch)	ARCserve の cabatch コマンドによるバックアップジョブを設定します。[動作環境設定]にて[ARCserve 連携メニュー表示]が有効になっているときに表示されます。
	ARCserve バックアップ(ca_backup)	ARCserve の ca_backup コマンドによるバックアップジョブを設定します。[ARCserve 連携メニュー表示]が有効になっているときに表示されます。

2.5.2 ジョブネットワークを作成するには

ジョブネットワークは、次の順序で作成します。

1. ボックスの作成
2. ボックスの関連付け(論理線作成)
3. ジョブネットワークファイルを保存

■ジョブネットワークファイルの格納場所

ジョブネットワークファイルは、共有ディレクトリに保存し、すべてのジョブ稼働マシンから参照が可能な状態にしてください。

■コマンドの格納場所

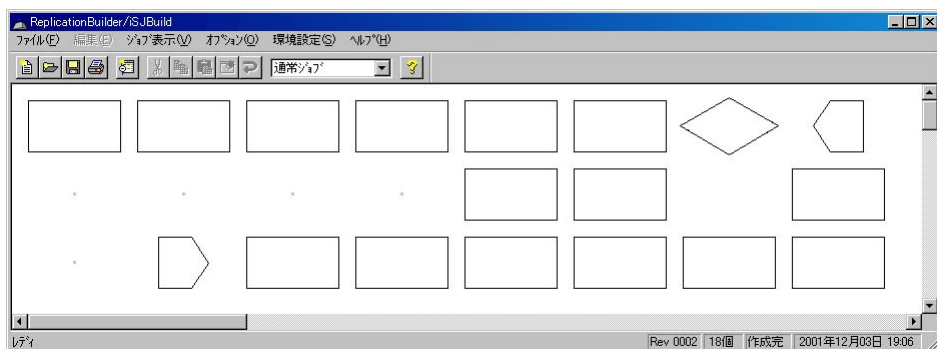
ジョブネットワークで定義したコマンドは、コマンドを起動する各マシンのパスが通っているディレクトリに格納してください。

(1) ボックスの作成

- ① ツールバーの[ボックス種別]ドロップダウンリストボックスからボックス種別を選択します。

種別	説 明
通常ジョブ	バッチファイル/プログラム/ジョブネットワークを実行させる時に指定するジョブボックスです。
イベント送信ジョブ	イベント送信を行う時に指定するジョブボックスです。
イベント受信ジョブ	イベント受信を行う時に指定するジョブボックスです。
条件分岐	条件分岐を行う時に指定するジョブボックスです。
文字列検索	文字列検索を行う時に指定するジョブボックスです。
結合子	長いジョブネットワークを作成するときに使用するジョブボックスです。
メール送信	メール送信ジョブを設定します。
アラート送信	アラート送信ジョブを設定します。
サービス制御ジョブ	サービス制御ジョブを設定します。
ARCserve バックアップ (cabatch)	ARCserve Backup の cabatch コマンドによるバックアップジョブを設定します。[動作環境設定]にて[ARCserve 連携メニュー表示]が有効になっているときに表示されます。
ARCserve バックアップ (ca_backup)	ARCserve Backup の ca_backup コマンドによるバックアップジョブを設定します。[動作環境設定]にて[ARCserve 連携メニュー表示]が有効になっているときに表示されます。

- ②ボックスを作成する場所をダブルクリックします。実線で囲まれた矩形の枠が表示され、[ボックス種別]ドロップダウンリストボックスで指定したボックスが作成されます。ボックス内は空白になっています。



- ③ボックスでさらにダブルクリックすると、詳細情報ダイアログボックスが表示されます。詳細情報を入力し[OK]ボタンを選択すると、ボックスに詳細情報が設定されます。



ボックスの表示には次の種類があります。

ボックスの形	説 明
	リカバリジョブを持たないジョブのボックスです。
	リカバリジョブを持つジョブのボックスです。
	条件分岐のボックスです。
	結合子のボックスです。

■通常ジョブ

ジョブ詳細情報設定

業務名(I): OK

ジョブ名(J): 参照 キャンセル

パラメータ(P): ヘルプ

実行ディレクトリ(D): 参照 アイコン(I):

ジョブキュー名(A): 参照

アイコンファイル名(E): 参照

☐ 標準出力の監視(O):

ファイル名(L): 参照 ☒ 上書き(U) ☐ 追加(W)

☐ 実行経過時間タイムアウト(K): 時間 分 ...

ジョブ起動方式(X):

☐ 正常終了値(N): 正常終了値指定

~ ☐ 10進入力(E) ☒ 16進入力(H)

異常終了時動作(B): リカバリ...

設定項目	説 明
業務名	業務名を指定します。 業務名を指定せずにジョブ名を指定した場合は、ジョブ名(パス、拡張子をとった名前)がデフォルト業務名となります。 (32 バイト以内)
ジョブ名	実行したいジョブ名をフルパスで指定します。 本項目は省略できません。ジョブの存在するマシンと異なるマシンで実行したい場合は、ジョブは共有ディレクトリ上になければなりません。この時は"¥¥マシン名¥共有名¥パス名"で指定してください。また、本指定は[参照]ボタンを利用してファイル一覧から選択することもできます。一覧からの選択時にはマシン名、共有名を意識する必要はありません(自動的に変換します)。この時、指定したジョブの存在するディレクトリ名が実行ディレクトリの指定領域にデフォルトで設定されます。なお、[参照]ボタンを使用しない場合は指定ジョブの存在確認は行われませんので、正しく指定するようにしてください。 (255 バイト以内)

設定項目	説 明								
パラメータ	指定ジョブに引き渡すパラメータを指定します。 指定ジョブがパラメータ不要の場合はこの項目は省略してください。パラメータにファイル名などを指定する場合は、一般的なパスの記述形式で指定してください。ただし、この場合は必ず稼働(実行)マシンから見えるディレクトリになければなりません。実行ディレクトリが指定されている場合は、実行ディレクトリ相対パスが使用できます。パスは稼働マシンにおけるパス(ドライブ文字を含む)になりますので注意してください。 (255 バイト以内) ジョブネットワークでは次の投入パラメータおよび置換パラメータの指定も可能です。								
	<table> <tr> <th>パラメータ</th><th>説 明</th></tr> <tr> <td>%1～%9</td><td>実行時に指定されたパラメータと置換し(指定パラメータ順で%1～%9 となります)、指定ジョブに渡します。例えば"%2"とだけ設定している場合、ジョブネットワークを実行する際のパラメータに"10△20"を指定すると、このジョブボックスのジョブにはパラメータとして"20"が渡されます。</td></tr> <tr> <td>%環境変数名%</td><td>このジョブネットワーク自身が実行されるマシン(ユーザ)に定義されているシステム環境変数値と置換し、指定ジョブに渡します。例えば"%kankyou%"と指定した場合、このジョブネットワークが実行されるマシン(ユーザ)のシステム環境変数に"kankyou =JMSS"が定義されていれば、このジョブにはパラメータとして"JMSS"が渡されます。</td></tr> <tr> <td>\$環境変数名\$</td><td>個々のジョブが実行されるマシンに定義されているシステム環境変数と置換し、指定ジョブに渡します。例えば"\$kankyou\$"と指定した場合、このジョブ自身が実行されるマシンのシステム環境変数に"kankyou=Workstation"が定義されていれば、このジョブにはパラメータとして"Workstation"が渡されます。</td></tr> </table>	パラメータ	説 明	%1～%9	実行時に指定されたパラメータと置換し(指定パラメータ順で%1～%9 となります)、指定ジョブに渡します。例えば"%2"とだけ設定している場合、ジョブネットワークを実行する際のパラメータに"10△20"を指定すると、このジョブボックスのジョブにはパラメータとして"20"が渡されます。	%環境変数名%	このジョブネットワーク自身が実行されるマシン(ユーザ)に定義されているシステム環境変数値と置換し、指定ジョブに渡します。例えば"%kankyou%"と指定した場合、このジョブネットワークが実行されるマシン(ユーザ)のシステム環境変数に"kankyou =JMSS"が定義されていれば、このジョブにはパラメータとして"JMSS"が渡されます。	\$環境変数名\$	個々のジョブが実行されるマシンに定義されているシステム環境変数と置換し、指定ジョブに渡します。例えば"\$kankyou\$"と指定した場合、このジョブ自身が実行されるマシンのシステム環境変数に"kankyou=Workstation"が定義されていれば、このジョブにはパラメータとして"Workstation"が渡されます。
パラメータ	説 明								
%1～%9	実行時に指定されたパラメータと置換し(指定パラメータ順で%1～%9 となります)、指定ジョブに渡します。例えば"%2"とだけ設定している場合、ジョブネットワークを実行する際のパラメータに"10△20"を指定すると、このジョブボックスのジョブにはパラメータとして"20"が渡されます。								
%環境変数名%	このジョブネットワーク自身が実行されるマシン(ユーザ)に定義されているシステム環境変数値と置換し、指定ジョブに渡します。例えば"%kankyou%"と指定した場合、このジョブネットワークが実行されるマシン(ユーザ)のシステム環境変数に"kankyou =JMSS"が定義されていれば、このジョブにはパラメータとして"JMSS"が渡されます。								
\$環境変数名\$	個々のジョブが実行されるマシンに定義されているシステム環境変数と置換し、指定ジョブに渡します。例えば"\$kankyou\$"と指定した場合、このジョブ自身が実行されるマシンのシステム環境変数に"kankyou=Workstation"が定義されていれば、このジョブにはパラメータとして"Workstation"が渡されます。								
実行ディレクトリ	指定ジョブを実行するディレクトリを 255 バイト以内で指定します。指定を省略した場合は稼働マシン上の JMSS インストールディレクトリとなります。他マシン上のディレクトリを実行ディレクトリにしたい場合は、ジョブ名指定と同様、そのディレクトリが共有ディレクトリとなっていなければなりません。この時は"¥¥マシン名¥共有名¥パス名"で指定します。また、本指定は[参照]ボタンを利用してディレクトリ一覧から選択することもできます。一覧からの選択時は、ジョブ名指定と同様、マシン名、共有名を意識する必要はありません(自動的に変換します)。								

設定項目	説 明	
ジョブキュー名	指定ジョブを登録するジョブキュー名を指定します。(15 バイト以内)省略すると、実行時に指定するジョブキュー(子ジョブとなる場合は親ジョブのジョブキュー)が割り当てられます。	
標準出力の監視	ジョブの標準出力内容を記録し、JMSS/JLook(稼働・監視)の監視画面から参照できる機能を使用したい場合に指定します。 ファイル名： 標準出力を任意のファイルに出力したい場合に指定します。省略した場合は JMSS/JEnv(運用環境設定)のサービス・JMSS モジュール環境で指定しているディレクトリに JMSS 固有の名称で自動的に作成されます。 上書き/追加：標準出力の出力モードを上書きまたは追加で指定します。 本指定を行って投入したジョブは、JMSS/JLook(稼働・監視)の監視画面上のジョブタイプアイコンで判断できます。標準出力監視タイプのアイコンを持つジョブでは、このジョブタイプアイコンのダブルクリックで標準出力内容が参照できるようになります。標準出力内容はファイルに保存していますので、ジョブが終了した後で参照することも可能です。なお、ファイルが不要になった場合は JMSS/JLook(稼働・監視)の標準出力表示画面からデータ破棄するようにしてください。ただし、破棄されてもジョブタイプアイコンは変わりませんので(標準出力監視タイプのままです)、注意してください。	
実行経過時間タイムアウト	投入したジョブの実行時間を制限したい場合に指定します。指定できる時間は 0 分～1000 時間 59 分です。 指定した時間が経過してもジョブが終了しなかった場合は強制終了し、終了コードは FFFFFFFB になります。	
ジョブ起動方式	指定ジョブの起動方式を指定します。 ジョブ起動方式には次が用意されています。既定値は"指定なし"です。	
	ジョブ起動方式	説 明
	指定なし	JMSS/JEnv の「ジョブ起動方式」の設定にてジョブが起動されます。
	サービスアカウントで起動	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されます。
	ログオンユーザアカウントで起動	JMSS/JD(JDAdmin)を起動したユーザでジョブが起動されます。 JMSS/JD(JDAdmin)が起動されていない場合は、起動エラーとなります。

設定項目	説明																
正常終了値	ジョブの正常終了値範囲を指定します。 正常終了値のチェックボックスをチェックすると値が入力できるようになりますので、10 進数で 10 桁以内(0～2147483647)、16 進数で 8 桁以内(00000000～7FFFFFFF)の値を指定してください(デフォルトは 16 進入力です)。16 進数で入力した時、入力値が最大桁数に満たない場合は自動的に前に 0 を付加します。範囲の大小を逆転させた指定はできません。 本項目は省略可能です。省略した場合は、ジョブの終了コードに依存せず全て正常終了として扱います(正常終了値チェックボックスをチェックし、正常終了値範囲の設定がない場合も全て正常終了として扱います)。																
異常終了時動作	ジョブが異常終了した場合のジョブネットワークの制御方法を指定します。本項目は"正常終了値"のチェックボックスをチェックした場合にのみ有効です。 制御方法には次が用意されています。既定値は"継続"です。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>制御方法</th><th>説明</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>継続</td><td>ジョブネットワークの実行を継続します。</td></tr> <tr> <td>他のジョブの終了を待って終了</td><td>現在動作中の他のジョブが全て終了してから、ジョブネットワークの実行を終了させます。</td></tr> <tr> <td>全強制終了</td><td>現在動作中の他のジョブを全て強制終了させてから、ジョブネットワークの実行を終了させます。</td></tr> <tr> <td>他のジョブの終了を待ってリカバリジョブを実行</td><td>現在動作中の他のジョブが全て終了してから、リカバリジョブを実行します。リカバリジョブの実行後は、ジョブネットワークは異常終了した終了コードを持って異常終了します。リカバリジョブの設定は[リカバリ]ボタンを選択し、[リカバリジョブ設定]ダイアログで入力します。</td></tr> <tr> <td>全強制終了後リカバリジョブを実行</td><td>現在動作中の他のジョブを全て強制終了させてから、リカバリジョブを実行します。リカバリジョブの実行後は、ジョブネットワークは異常終了した終了コードを持って異常終了します。リカバリジョブの設定は[リカバリ]ボタンを選択し、[リカバリジョブ設定]ダイアログで入力します。</td></tr> <tr> <td>メールを送信</td><td>現在動作中の他のジョブが全て終了してから、メール送信ジョブを実行します。</td></tr> <tr> <td>アラートを送信</td><td>現在動作中の他のジョブが全て終了してから、アラート送信ジョブを実行します。</td></tr> </tbody> </table>	制御方法	説明	継続	ジョブネットワークの実行を継続します。	他のジョブの終了を待って終了	現在動作中の他のジョブが全て終了してから、ジョブネットワークの実行を終了させます。	全強制終了	現在動作中の他のジョブを全て強制終了させてから、ジョブネットワークの実行を終了させます。	他のジョブの終了を待ってリカバリジョブを実行	現在動作中の他のジョブが全て終了してから、リカバリジョブを実行します。リカバリジョブの実行後は、ジョブネットワークは異常終了した終了コードを持って異常終了します。リカバリジョブの設定は[リカバリ]ボタンを選択し、[リカバリジョブ設定]ダイアログで入力します。	全強制終了後リカバリジョブを実行	現在動作中の他のジョブを全て強制終了させてから、リカバリジョブを実行します。リカバリジョブの実行後は、ジョブネットワークは異常終了した終了コードを持って異常終了します。リカバリジョブの設定は[リカバリ]ボタンを選択し、[リカバリジョブ設定]ダイアログで入力します。	メールを送信	現在動作中の他のジョブが全て終了してから、メール送信ジョブを実行します。	アラートを送信	現在動作中の他のジョブが全て終了してから、アラート送信ジョブを実行します。
制御方法	説明																
継続	ジョブネットワークの実行を継続します。																
他のジョブの終了を待って終了	現在動作中の他のジョブが全て終了してから、ジョブネットワークの実行を終了させます。																
全強制終了	現在動作中の他のジョブを全て強制終了させてから、ジョブネットワークの実行を終了させます。																
他のジョブの終了を待ってリカバリジョブを実行	現在動作中の他のジョブが全て終了してから、リカバリジョブを実行します。リカバリジョブの実行後は、ジョブネットワークは異常終了した終了コードを持って異常終了します。リカバリジョブの設定は[リカバリ]ボタンを選択し、[リカバリジョブ設定]ダイアログで入力します。																
全強制終了後リカバリジョブを実行	現在動作中の他のジョブを全て強制終了させてから、リカバリジョブを実行します。リカバリジョブの実行後は、ジョブネットワークは異常終了した終了コードを持って異常終了します。リカバリジョブの設定は[リカバリ]ボタンを選択し、[リカバリジョブ設定]ダイアログで入力します。																
メールを送信	現在動作中の他のジョブが全て終了してから、メール送信ジョブを実行します。																
アラートを送信	現在動作中の他のジョブが全て終了してから、アラート送信ジョブを実行します。																

■イベント送信ジョブ

設定項目	説 明
業務名	業務名を指定します。デフォルト業務名は"イベント送信"です。 (32 バイト以内)
送信先 JMSS サーバ	送信する JMSS サーバ名を指定します。 本項目を省略すると、ローカルドメインにおける JMSS サーバ名となります。本イベント送信ジョブでは、本指定の JMSS サーバに接続できなかった場合は 1 を、正常に接続し JMSS サーバに送信できた場合は 0 を返却します。 (15 バイト以内)
送信先ジョブキュー名	送信先のジョブキュー名を指定します。(15 バイト以内) ここでは、イベント受信待ちになっているジョブが実行されているジョブキュー名を指定します。 本項目を省略すると、"送信先 JMSS サーバ"で指定した JMSS サーバ内の全てのジョブキュー名が割り当てられます。
イベント ID	送信するイベント ID を指定します。本項目は省略できません。 (4 バイト以内の英数字)。
メッセージ	標準出力に表示させるメッセージを指定します。 (64 バイト以内)
標準出力の監視	イベント送信ジョブの標準出力内容を記録し、JMSS/JLook(稼働・監視)の監視画面から参照できる機能を使用したい場合に指定します。 (詳細は通常ジョブの標準出力の監視を参照してください)
ジョブ起動方式	(通常ジョブのジョブ起動方式を参照してください)
異常終了時動作	(通常ジョブの異常終了時動作を参照してください)

■イベント受信ジョブ

設定項目	説明
業務名	業務名を指定します。デフォルト業務名は"イベント受信"です。 (32 バイト以内)
イベント ID	受信するイベント ID を指定します。本項目は省略できません。'*'を指定した場合は、全てのイベント ID が対象となります。 (4 バイト以内の英数字)
タイムアウト時間	イベント受信状態になってから、イベントを受信するまでの最大待ち時間を秒単位で指定します(0～4294967 秒[約 50 日])。本イベント受信ジョブでは、本指定の時間までにイベントが受信できなかった場合はタイムアウトステータスとして 1 が、正常にイベントが受信できた場合は 0 が返却されます。本項目を省略すると、待ち時間の制限なしでイベントを待ち続けます。また、0 秒を指定すると待ち時間なし=待たないため、必ずタイムアウトステータスが返却されます。
ジョブキュー名	受信先のジョブキュー名を指定します(15 バイト以内)。 省略すると、実行時に指定するジョブキュー(子ジョブとなる場合は親ジョブのジョブキュー)が割り当てられます。
標準出力の監視	イベント受信ジョブの標準出力内容を記録し、JMSS/JLook(稼働・監視)の監視画面から参照できる機能を使用したい場合に指定します。 (詳細は通常ジョブの標準出力の監視を参照してください)
ジョブ起動方式	(通常ジョブのジョブ起動方式を参照してください)
異常終了時動作	(通常ジョブの異常終了時動作を参照してください)

■条件分岐

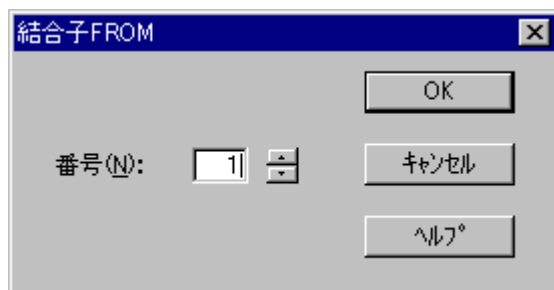
設定項目	説 明	
条件名	条件分岐名を指定します(最大 32 バイト、全角文字で 16 文字までです)。デフォルト条件名は"条件分岐"です。	
条件指定	真偽の判断(評価)を行う条件を指定します。ここで設定した内容が成立すると"真"となります。条件内容には以下の 3 種類があります。	
	条件内容	説明
	先行ジョブの終了コードで指定	先行ジョブの終了コードで条件を判断します。終了コードは、10 進数で 10 桁以内(0～2147483647)、16 進数で 8 桁以内(00000000～7FFFFFFF)の値を指定してください。
	投入パラメータ・置換パラメータで指定	投入パラメータ・置換パラメータの内容により条件を判断します。使用できる投入パラメータ・置換パラメータについては、通常ジョブ設定項目を参照してください。
	ファイルの存在で指定	指定したファイルの存在有無により、条件を判断します。ファイル名は必ず指定しなければなりません。なお、"サイズが 0 の時は存在しないとみなす"にチェックしているときは、指定したファイルが存在していても、そのサイズが 0 なら"偽"と判断します。

■文字列検索

設定項目	説 明
業務名	業務名を指定します。 デフォルト業務名は"文字列検索"です。 (32 バイト以内)
オプション	- 指定文字列を含まない行をすべて表示 指定した文字列を含まない行をすべて表示します。 - 指定文字列を含む行の数を表示 指定した文字列を含む行の数だけを表示します。 - 行番号表示 行番号を表示します。 - 大文字小文字区別しない 大文字と小文字の区別をしないで検索します。
検索文字列	検索する文字列を指定します。
検索ファイル名	文字列を検索するファイルを指定します。
ジョブキュー名	文字列検索ジョブを登録するジョブキュー名を指定します。(15 バイト以内) 省略すると、実行時に指定するジョブキュー(子ジョブとなる場合は親ジョブのジョブキュー)が割り当てられます。
標準出力の監視	文字列検索ジョブの標準出力内容を記録し、JMSS/JLook(稼働・監視)の監視画面から参照できる機能を使用したい場合に指定します。 (詳細は通常ジョブの標準出力の監視を参照してください)
実行経過時間タイムアウト	文字列検索ジョブの実行時間を制限したい場合に指定します。 (詳細は通常ジョブの実行経過時間タイムアウトを参照してください)
ジョブ起動方式	(通常ジョブのジョブ起動方式を参照してください)
正常終了値	(通常ジョブの正常終了値を参照してください)
異常終了時動作	(通常ジョブの異常終了時動作を参照してください)

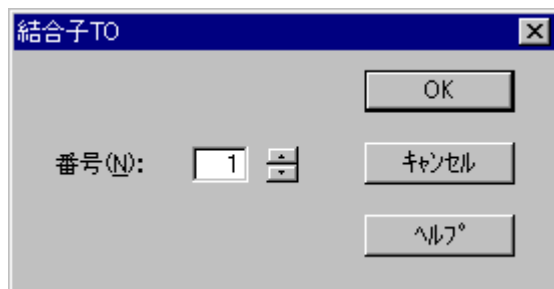
■結合子 FROM

結合子の番号を1～16の間で設定します。



■結合子 TO

結合子の番号を1～16の間で設定します。



■メール送信ジョブ

設定項目	説明	
業務名	業務名を指定します。デフォルト業務名は"メール送信"です。 (32 バイト以内)	
メール	メール送信時の設定を行います。送信先等の情報をファイルで指定する場合は「メッセージファイルの指定」をチェックします。	
	To	メールの送付先アドレスを指定します。
	Cc	メールの写しを送信するアドレスを指定します。
	Bcc	隠し写しとして送付するアドレスを指定します。
	From	送信元のアドレスを指定します。
	Subject	メールの題名を指定します。
	メッセージ本文	メールの本文を指定します。
メッセージファイル名	メールの送信先等が記述されているファイル名を指定します。	
ジョブキュー名	指定ジョブを登録するジョブキュー名を指定します。(15 バイト以内) 省略すると、実行時に指定するジョブキュー(子ジョブとなる場合は親ジョブのジョブキュー)が割り当てられます。	
標準出力の監視	メール送信ジョブの標準出力内容を記録し、JMSS/JLook(稼働・監視)の監視画面から参照する機能を使用したい場合に指定します。 (詳細は通常ジョブの標準出力の監視を参照してください)	
実行経過時間タイムアウト	メール送信ジョブの実行時間を制限したい場合に指定します。 (詳細は通常ジョブの実行経過時間タイムアウトを参照してください)	
ジョブ起動方式	(通常ジョブのジョブ起動方式を参照してください)	

注意: ①このジョブを利用するには、事前にJMSSインストールフォルダのJMailCfgにてメールサーバに関する設定を行ってください。

②メッセージファイルのフォーマットは次の通りです。

To: <送信先メールアドレス>
Cc: <写し送信先メールアドレス> #この行は省略可
Bcc: <隠し写し送信先メールアドレス> #この行は省略可
From: <送信元メールアドレス>
Subject: <題名>
(一行空ける)
<メッセージ本文>

■アラート送信ジョブ

設定項目	説 明	
業務名	業務名を指定します。デフォルト業務名は"アラート送信"です。 (32 バイト以内)	
メッセージ	送信するメッセージを指定します。	
メッセージレベル	メッセージの種類を「情報」「警告」「エラー」のなかから指定します。	
オプション	次のオプションを指定することができます。	
	ESMPRO/ServerManager に通知	ESMPRO の統合ビューアにも通知する場合に指定します。
	ページャに通知	ページャにも通知する場合に指定します。
ジョブキュー名	指定ジョブを登録するジョブキュー名を指定します。(15 バイト以内) 省略すると、実行時に指定するジョブキュー(子ジョブとなる場合は親 ジョブのジョブキュー)が割り当てられます。	
標準出力の監視	アラート送信ジョブの標準出力内容を記録し、JMSS/JLook(稼働・監視) の監視画面から参照する機能を使用したい場合に指定します。 (詳細は通常ジョブの標準出力の監視を参照してください)	
実行経過時間タイムアウト	アラート送信ジョブの実行時間を制限したい場合に指定します。 (詳細は通常ジョブの実行経過時間タイムアウトを参照してください)	
ジョブ起動方式	(通常ジョブのジョブ起動方式を参照してください)	

■サービス制御ジョブ

設定項目	説 明	
業務名	業務名を指定します。デフォルト業務名は"サービス制御"です。(32 バイト以内)	
制御マシン名	制御を行うサービスのマシン名を指定します。 省略時はローカルマシンのサービスを制御します。 参照ボタンを押すとネットワーク上で参照可能なマシン名が一覧表示されます。	
サービス指定方法	サービス指定方法	説 明
	表示名で指定	サービス名を、コントロールパネルの [サービス] アプリケーションで表示される、「表示名」で指定します。
	サービス名で指定	サービス名を、コントロールパネルの [サービス] アプリケーションで表示される、「サービス名」で指定します。
表示名／サービス名	制御を行うサービス名を指定します。 参照ボタンを押すと制御マシンのサービス名が一覧表示されます。	

設定項目	説 明	
依存サービス制御	サービス名で指定したサービスに依存しているサービスの制御方法を選択します。既定値は"このサービスに依存するサービスを制御しない"です。	
	依存サービス制御	説 明
	このサービスに依存するサービスを制御しない	依存サービスに対して制御を行いません。
	このサービスに依存する全てのサービスを制御する	全ての依存サービスに対して同じ制御を行います。
	このサービスに依存するサービスを制御する	依存サービスに対して同じ制御を行います。このオプションは要求制御に"再起動"を指定した時のみ有効です。(他の制御の場合は"このサービスに依存する全てのサービスを制御する"と同等です)停止に成功したサービスのみ開始処理を行います。既に停止済みのサービスは開始されません。
要求制御	サービスへ要求する制御種別を選択します。既定値は"サービスを開始する"です。	
	要求制御	説 明
	サービスを開始する	サービスを開始します。
	サービスを停止する	サービスを停止します。
	サービスを一時停止する	サービスを一時停止します。
	サービスを再開する	サービスを再開(一時停止状態から開始状態)します。
	サービスを再起動する	サービスを停止後、開始します。
	サービス状態を取得する	サービスの現在状態を取得します。
	スタートアップを「自動」にする	サービスのスタートアップ種類を「自動」に設定します。
	スタートアップを「手動」にする	サービスのスタートアップ種類を「手動」に設定します。
	スタートアップを「無効」にする	サービスのスタートアップ種類を「無効」に設定します。
応答タイムアウト	サービス制御の応答時間を制限したい場合に指定します。指定できる時間は10秒～999秒です。指定しない場合にはサービス制御から応答が返ってくるまで(開始中、停止中、再開中でなくなるまで)待ち合わせます。依存サービスも制御するよう指定した場合、それぞれのサービス毎にこの応答タイムアウトが適用されます。	
既に要求状態のときは異常終了する	サービスが既に要求制御状態であれば異常終了としたい場合に指定します。指定しない場合には、要求状態であっても正常終了となります。	

設定項目	説 明																						
正常終了時に現在状態を戻り値とする	正常終了時に現在状態を戻り値とする場合に指定します。指定しない場合には、正常終了値は0となります。 <table> <tr> <th>戻り値</th><th>説 明</th></tr> <tr> <td>戻り値 1</td><td>サービスは停止しています。</td></tr> <tr> <td>戻り値 2</td><td>サービスは開始しています。</td></tr> <tr> <td>戻り値 3</td><td>サービスは一時停止しています。</td></tr> <tr> <td>戻り値 4</td><td>サービスは停止中です。</td></tr> <tr> <td>戻り値 5</td><td>サービスは開始中です。</td></tr> <tr> <td>戻り値 6</td><td>サービスは再開中です。</td></tr> <tr> <td>戻り値 7</td><td>サービスは一時停止中です。</td></tr> <tr> <td>戻り値 8</td><td>サービスのスタートアップ種類は「自動」です。</td></tr> <tr> <td>戻り値 9</td><td>サービスのスタートアップ種類は「手動」です。</td></tr> <tr> <td>戻り値 10</td><td>サービスのスタートアップ種類は「無効」です。</td></tr> </table>	戻り値	説 明	戻り値 1	サービスは停止しています。	戻り値 2	サービスは開始しています。	戻り値 3	サービスは一時停止しています。	戻り値 4	サービスは停止中です。	戻り値 5	サービスは開始中です。	戻り値 6	サービスは再開中です。	戻り値 7	サービスは一時停止中です。	戻り値 8	サービスのスタートアップ種類は「自動」です。	戻り値 9	サービスのスタートアップ種類は「手動」です。	戻り値 10	サービスのスタートアップ種類は「無効」です。
戻り値	説 明																						
戻り値 1	サービスは停止しています。																						
戻り値 2	サービスは開始しています。																						
戻り値 3	サービスは一時停止しています。																						
戻り値 4	サービスは停止中です。																						
戻り値 5	サービスは開始中です。																						
戻り値 6	サービスは再開中です。																						
戻り値 7	サービスは一時停止中です。																						
戻り値 8	サービスのスタートアップ種類は「自動」です。																						
戻り値 9	サービスのスタートアップ種類は「手動」です。																						
戻り値 10	サービスのスタートアップ種類は「無効」です。																						
ジョブキュー名	サービス制御ジョブを登録するジョブキュー名を指定します。(15 バイト以内) 省略すると、実行時に指定するジョブキュー(子ジョブとなる場合は親ジョブのジョブキュー)が割り当てられます。																						
標準出力の監視	サービス制御ジョブの標準出力内容を記録し、JMSS/JLook(稼働・監視)の監視画面から参照できる機能を使用したい場合に指定します。 (詳細は通常ジョブの標準出力の監視を参照してください)																						
実行経過時間タイムアウト	サービス制御ジョブの実行時間を制限したい場合に指定します。指定できる時間は0分～1000時間59分です。 指定した時間が経過してもジョブが終了しなかった場合は強制終了し、終了コードはFFFFFFFBになります。																						
ジョブ起動方式	サービス制御ジョブの起動方式を指定します。 既定値は”サービスアカウントで起動”です。 他の詳細は通常ジョブのジョブ起動方式を参照してください。 サービスを制御するためには、サービス制御ジョブが管理者権限を持つユーザのアカウントで起動される必要があります。																						
異常終了時動作	(通常ジョブの異常終了時動作を参照してください)																						

注意：①リモートコンピュータのサービス一覧を取得して表示するためには、管理者権限が必要です。

②サービスの表示名とサービス名の対応を対で表示するためには、コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行してください。

wmic service

③OSのバージョンが異なる場合、サービスの表示名が異なる場合があります。

■ARCserve バックアップ(cabatch)ジョブ

ARCserveバックアップ(cabatch)

業務名(J): バックアップ(cabatch) OK

サブミット先サーバ名(H): 参照 キャンセル

スクリプトファイル名(S): 参照 ヘルプ

☐ ソースコンピュータ名の置換(P): 参照

☐ デスティネーションコンピュータ名の置換(Q): 参照

☐ ARCserveジョブの完了まで待機しない(N)

☐ 他オプションの指定(M):

ジョブキュー名(A): 参照

☐ 標準出力の監視(O):

ファイル名(I): 参照 上書き(U) 追加(W)

☐ 実行経過時間タイムアウト(K): 0 時間 0 分

ジョブ起動方式(O): 指定なし

☐ 異常終了した場合の動作を指定する(E):

異常終了時動作(P): 継続 リカバリ...

ARCserve Backupのバッチコマンド(cabatch)により、外部スクリプト ファイルを使用して、バックアップジョブをローカルまたはリモートのARCserve Backup ジョブキューに登録します。バッチコマンドを使用してジョブに登録するには、バックアップマネージャを使用してジョブスクリプトを作成しておく必要があります。

設定項目	説 明
業務名	業務名を指定します。デフォルト業務名は"バックアップ (cabatch)"です。(32バイト以内)
サブミット先サーバ名	ARCserve バックアップジョブの登録先のサーバ名を指定します。省略した場合は、ローカルコンピュータに登録されます。
スクリプトファイル名	ARCserve バックアップマネージャで作成したスクリプトファイル(*.asx)を指定します。この項目は省略できません。
ソースコンピュータ名の置換	スクリプトファイル内のソースコンピュータの文字列を置換します。参照ボタンを押すとネットワーク上で参照可能なマシン名が一覧表示されます。
ディスティネーションコンピュータ名の置換	スクリプトファイル内のディスティネーションコンピュータの文字列を置換します。参照ボタンを押すとネットワーク上で参照可能なマシン名が一覧表示されます。
ARCserve ジョブの完了まで待機しない	ARCserve バックアップジョブの終了待ちをせずに、バッチコマンドを終了させます。
他オプションの指定	ARCserve バッチコマンドで利用できる任意のオプションを指定します。
ジョブキュー名	ARCserve バッチコマンドに登録するジョブキュー名を指定します。(15バイト以内) 省略すると、実行時に指定するジョブキュー(子ジョブとなる場合は親ジョブのジョブキュー)が割り当てられます。
標準出力の監視	ARCserve バッチコマンドの標準出力内容を記録し、JMSS/JLook(稼働・監視)の監視画面から参照できる機能を使用したい場合に指定します。(詳細は通常ジョブの標準出力の監視を参照してください)
実行経過時間タイムアウト	ARCserve バッチコマンドの実行時間を制限したい場合に指定します。指定できる時間は0分～1000時間59分です。 指定した時間が経過してもジョブが終了しなかった場合は強制終了し、終了コードはFFFFFFFBになります。 (ARCserve バックアップジョブは強制終了されません (注意①))
ジョブ起動方式	ARCserve バッチコマンドの起動方式を指定します。 (通常ジョブのジョブ起動方式を参照してください)
異常終了時動作	(通常ジョブの異常終了時動作を参照してください)

注意：①ARCserveバックアップジョブを強制終了したい場合は、ARCserve BackupマネージャよりGUIにて停止してください。JMSS/JLookクライアント等よりARCserve Backupバッチコマンドを強制終了した場合も、ARCserve側のバックアップジョブは動作し続けます。

②本書はCA ARCserve Backup r16 for Windows に対応しています。

③JMSSサーバ・稼働マシンにおいてcabatchコマンドの格納フォルダが、環境変数PATHに登録されていない場合は、手動にて登録を行ってください。

④バッチコマンドのパラメータの詳細については、ARCserve Backup のマニュアルを参照してください。

⑤「他オプションの指定」にてパラメータを指定した場合、ARCserveバックアップジョブの動作は、ARCserve Backup の仕様に依存します。

⑥「他オプションの指定」により設定項目と同一のオプションが指定された場合、「他オプションの指定」で指定されたオプションは削除されます。

■ARCserve バックアップ(ca_backup)ジョブ

ARCserveバックアップ(ca_backup)

業務名(I): バックアップ(ca_backup) OK

リモートホスト名(H): 参照 キャンセル

ソースマシンの指定(S): ユーザ指定(U): パスワード指定(P): ヘルプ

バックアップ対象フォルダの指定(B):

☐ メディアグループの指定(W): ☐ メディア名の指定(Q): ☐ メディアプールの指定(D):

☐ 定義ファイル名を使用する(E): 参照

☐ ARCserveジョブの完了まで待機しない(N)

☐ 他オプションの指定(M):

ジョブキュー名(A): 参照

☐ 標準出力の監視(Q):

ファイル名(L): 参照 上書き(W) 追加(W)

☐ 実行経過時間タイムアウト(Q): 0 時間 0 分

ジョブ起動方式(W): 指定なし

☐ 異常終了した場合の動作を指定する(E):

異常終了時動作(R): 継続 リカバリ...

ARCserve Backupのバックアップマネージャコマンド(ca_backup)により、関連するオプション等を設定したバックアップジョブをARCserve Backupジョブキューに送信し、ARCserveバックアップジョブを実行します。

設定項目	説 明
業務名	業務名を指定します。デフォルト業務名は"バックアップ (ca_backup) "です。(32 バイト以内)
リモートホスト名	処理を実行するシステムの名前を指定します。処理をリモートシステムで実行する場合は、リモートホスト名を指定してください。参照ボタンを押すとネットワーク上で参照可能なマシン名が一覧表示されます。省略した場合は、処理はローカルシステムで実行されます。
ソースマシンの指定	バックアップするソースマシンを指定します。参照ボタンを押すとネットワーク上で参照可能なマシン名が一覧表示されます。省略した場合は「localhost」が自動的に指定されます。
ユーザ指定	バックアップするソースマシンのユーザ名を指定します。ここで指定したユーザ名は、ソースマシンにログインするために使用されます。
パスワード指定	バックアップするソースマシンへのログインに使用されるユーザのパスワードを指定します。
バックアップ対象フォルダの指定	バックアップするファイルシステムまたはフォルダを指定します。
メディアグループの指定	バックアップ先となるメディアグループ名を指定します。 (「メディアプールの指定」と同時に指定することはできません)
メディア名の指定	バックアップ先となるメディア名を指定します。 (「メディアプールの指定」と同時に指定することはできません)
メディアプールの指定	バックアップ先となるメディアプールを指定します。 (「メディアグループの指定」「メディア名の指定」と同時に指定することはできません)
定義ファイル名を使用する	ARCserve バックアップマネージャコマンドで使用できる任意のスイッチ及びパラメータを含む定義ファイルを指定します。
ARCserve ジョブの完了まで待機しない	ARCserve バックアップジョブの終了待ちをせずに、バックアップマネージャコマンドを終了させます。
他オプションの指定	ARCserve バックアップマネージャコマンドで使用できる任意のオプションを指定します。

設定項目	説 明
ジョブキュー名	ARCserve バックアップマネージャコマンドを登録するジョブキュー名を指定します。(15 バイト以内) 省略すると、実行時に指定するジョブキュー(子ジョブとなる場合は親ジョブのジョブキュー)が割り当てられます。
標準出力の監視	ARCserve バックアップマネージャコマンドの標準出力内容を記録し、JMSS/JLook(稼働・監視)の監視画面から参照できる機能を使用したい場合に指定します。 (詳細は通常ジョブの標準出力の監視を参照してください)
実行経過時間タイムアウト	ARCserve バックアップマネージャコマンドの実行時間を制限したい場合に指定します。指定できる時間は 0 分～1000 時間 59 分です。 指定した時間が経過してもジョブが終了しなかった場合は強制終了し、終了コードは FFFFFFFB になります。 (ARCserve バックアップジョブは強制終了されません (注意①))
ジョブ起動方式	ARCserve バックアップマネージャコマンドの起動方式を指定します。 (通常ジョブのジョブ起動方式を参照してください)
異常終了時動作	(通常ジョブの異常終了時動作を参照してください)

注意：①ARCserveバックアップジョブを強制終了したい場合は、ARCserve BackupマネージャよりGUIにて停止してください。JMSS/JLookクライアント等よりARCserve Backupマネージャコマンドを強制終了した場合も、ARCserve側のバックアップジョブは動作し続けます。

②本製品および本書はCA ARCserve Backup r16 for Windows に対応しています。

③JMSSサーバ・稼働マシンにおいてca_backupコマンドの格納フォルダが、環境変数PATHに登録されていない場合は、手動にて登録を行ってください。

④バックアップマネージャコマンドのパラメータの詳細については、ARCserve Backupのマニュアルを参照してください。

⑤「定義ファイル名の指定」または「他オプションの指定」にてパラメータを指定した場合、ARCserveバックアップジョブの動作は、ARCserve Backup の仕様に依存します。

⑥「バックアップ対象フォルダの指定」にて指定可能なファイルシステムまたはフォルダは1つのみとなります。複数指定する場合はジョブボックスを別途作成してください。

⑦「パスワード指定」にて指定された文字列は、ジョブネットファイル内部では平文で保存されます。

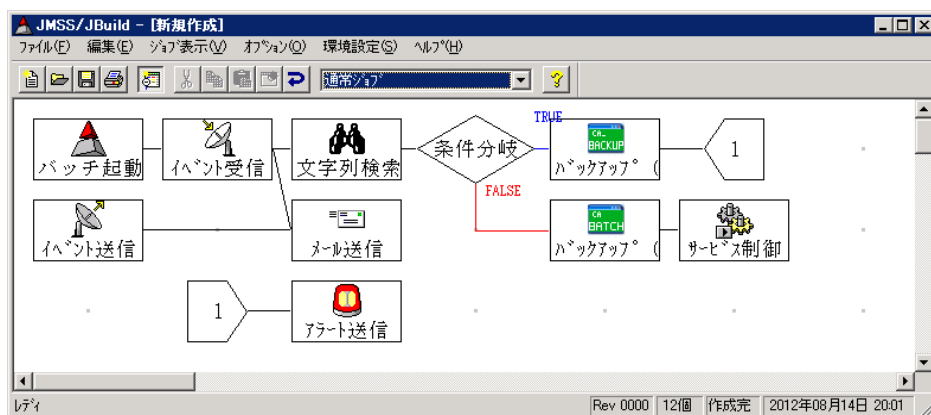
⑧「他オプションの指定」により設定項目と同一のオプションが指定された場合、「他オプションの指定」で指定されたオプションは削除されます。

(2) ボックスへの関連付け

- ・ボックス同士を結ぶ論理線は、一つ目のボックスを選択し、次のボックスを選択します。
- ・条件分岐からの論理線は、
 TRUE：一つ目のボックスを選択し、次のボックスを選択します。
 FALSE：一つ目のボックスを選択し、"CTRL+F" キーを押しながら次のボックスを選択します。
- ・論理線の削除は、論理線で結ばれている2つのボックスを連続して選択します。

論理線は、引かれるボックスによって次の3種類の形態があります。

形態	説明
黒色の実線	黒色の実線は、ボックス同士を結ぶ論理線で、ジョブネットワーク実行時に順次起動となるようなジョブ制御が行われます(左側のボックスが実行を終了した後、右側のボックスが実行評価されるように動作します)。
青色の実線	青色の実線は、条件分岐ボックスから他のボックスへ向かって引かれる論理線で、条件分岐ボックスの条件分岐情報を評価した結果が"真(True)"であった場合にこの論理線に従ってジョブ制御が行われます(真の場合はこの論理線で繋がっているボックスを実行するように動作します)。
赤色の実線	赤色の実線は、条件分岐ボックスから他のボックスへ向かって引かれる論理線で、条件分岐ボックスの条件分岐情報を評価した結果が"偽(False)"であった場合にこの論理線に従ってジョブ制御が行われます(偽の場合はこの論理線で繋がっているボックスを実行するように動作します)。



注意： 指定した位置にジョブボックスがない場合は論理線を引くことはできません。

作成したジョブボックスは次のように編集することができます。

編集機能	操作方法	論理関係	詳細情報
切り取り	切り取る起点をクリックし、マウスでドラッグして範囲を指定します。[編集]メニューで[切り取り]コマンドを選択します。	選択範囲内は保存する	保存する
コピー	コピーする起点をクリックし、マウスでドラッグして範囲を指定します。[編集]メニューで[コピー]コマンドを選択します。	選択範囲内は保存する	保存する
貼り付け	貼り付ける位置をクリックして指定します。[編集]メニューで[貼り付け]コマンドを選択します。	切り取り、コピーの内容に従う	保存する
削除	削除するジョブボックスをクリックするか、範囲を指定してから、[編集]メニューで[削除]コマンドを選択します。	消去する	消去する
移動	移動する起点をクリックし、マウスでドラッグして範囲を指定します。[編集]メニューで[移動]コマンドを選択します。移動先の位置をクリックして指定します。または、範囲選択しているジョブボックスの1つを再度クリックし、マウスでドラッグしても移動できます。	選択範囲外との論理関係も矛盾がなければ保存する	保存する
元に戻す	[編集]メニューで[元に戻す]コマンドを選択します。切り取り、貼り付け、削除、移動の直前までの操作を取り消すことができます。	元の状態に戻る	元の状態に戻る

(3) ジョブネットワークファイルに名前を付けて保存

ジョブネットワークファイルに名前を付けて保存する場合の操作は次のとおりです。

[ファイル]メニューの[名前を付けて保存]コマンドを選択し、ファイルを保存します。

(4) ジョブネットワークに環境変数を定義

「JBuild」でジョブネットワークが動作するときの環境変数を設定する場合の操作は、次のとおりです。

- ①[オプション]メニューの[ジョブネットワーク環境の定義]コマンドを選択します。
[ジョブネットワーク環境定義]ダイアログボックスが表示されます。



- ②[変数]ボックスと[値]ボックスに環境変数を設定します。[更新]ボタンを選択すると、環境変数が登録されます。[OK]ボタンを選択するとジョブネットワーク環境が設定されます。

2.5.3 ジョブネットワークを修正するには

ジョブネットワークファイルを修正するには、次の順序に従って操作してください。

1. ジョブネットワークファイルの読み込み
2. ボックスの詳細情報の変更
3. 変更したジョブネットワークファイルの保存

(1) ジョブネットワークファイルの読み込み

保存してあるジョブネットワークファイルを読み込みます。

[ファイル]メニューの[開く]コマンドを選択し、修正するジョブネットワークファイル名を入力します。指定したファイルのジョブネットワークが表示されます。

(2) ボックスの詳細情報の変更

「JBuild」でボックスの詳細情報を変更する場合の操作は次のとおりです。

- ①ボックスを選択して、ダブルクリックするか[オプション]メニューの[詳細情報]コマンドを選択します。詳細情報設定ダイアログボックスが表示されます。
- ②ダイアログボックスの内容を修正した後で[OK]ボタンを選択すると、ジョブボックスに詳細情報が設定されます。

(3) 変更したジョブネットワークファイルの保存

内容を変更したジョブネットワークファイルを保存します。

[ファイル]メニューの[上書き保存]コマンドを選択します。内容を変更したジョブネットワークファイルが上書き保存されます。上書き保存すると修正前の内容がバックアップファイル(*.BAK)として出力されます。
別名保存する場合は[ファイル]メニューの[名前を付けて保存]コマンドを選択し、ファイルを保存します。

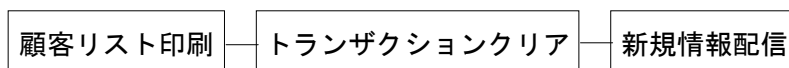
2.5.4 ジョブネットワークをバッチファイルに変換するには

「JBuild」では、ジョブネットワークをバッチファイルに変換することができます。

ジョブネットワークファイルをバッチファイルに変換する場合の操作は、次のとおりです。

- ①[ファイル]メニューの[JS 形式で保存]コマンドを選択します。[JS 形式で保存]ダイアログボックスが表示されます。
- ②ファイル名、ディレクトリ、ドライブなどを指定します。
- ③[保存]ボタンを選択します。ジョブネットワークファイルがバッチファイルとして保存されます。

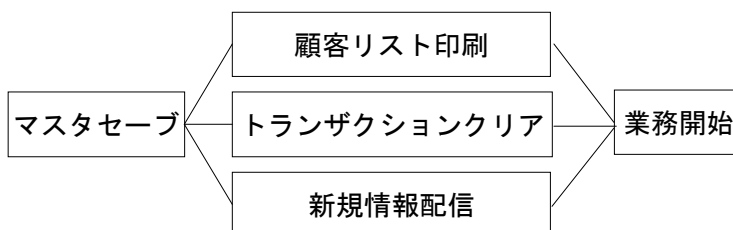
(1) ジョブネットワーク(直列)



バッチファイルイメージ

JCMD /T:顧客リスト印刷 顧客リスト印刷
JCMD /T:トランザクションクリア トランザクションクリア
JCMD /T:新規情報配信 新規情報配信
:JMSS_END

(2) ジョブネットワーク(並列)



バッチファイルイメージ

JCMD /T:マスターセーブ マスターセーブ /save
JCMD /T:顧客リスト印刷 顧客リスト印刷
JCMD /T:トランザクションクリア トランザクションクリア
JCMD /T:新規情報配信 新規情報配信
JCMD /T:業務開始 業務開始
:JMSS_END

2.5.5 ジョブネットワークを CSV 形式で保存するには

ジョブネットワークを CSV 形式(Comma Separated Value)のファイル(*.CSV)として保存し、表計算ソフトなどで読み込んで利用することができます。CSV 形式で保存する場合の操作は次のとおりです。

- ①[ファイル]メニューの[CSV 形式で保存]コマンドを選択します。[CSV 形式で保存]ダイアログボックスが表示されます。
- ②ファイル名、ディレクトリ、ドライブなどを指定します。
- ③[保存]ボタンを選択します。ジョブネットワークが CSV 形式のファイルとして保存されます。

CSV 形式で保存したファイルは、次の部分から構成されています。

(1) ファイルヘッダ情報

ファイルのヘッダ情報です。1 行目の情報です。

- 1列目……セクションラベル
- 2列目……CSVファイルのバージョン
- 3列目……元ジョブネットファイル更新回数
- 4列目……元ジョブネットファイル作成状態
- 5列目……元ジョブネットファイル名

(2) 環境変数定義情報

環境変数の定義情報です。2 行目の情報です。

- 1列目……セクションラベル
- 2列目以降……ジョブネットワーク環境の定義

(3) ボックスヘッダ情報

ボックスのヘッダ情報です。3 行目の情報です。

- 1列目……セクションラベル
- 2列目……ボックス登録件数

(4) ボックスの詳細情報

1 行が 1 つのボックスの詳細情報です。

1列目……ボックスの番号	18列目……リカバリジョブ名
2列目……空白	19列目……リカバリパラメータ名
3列目……BOX位置(行列)	20列目……リカバリディレクトリ名
4列目……ジョブ種別	21列目……リカバリキュー名
5列目……業務名	22列目……リカバリ標準監視
6列目……ジョブ名	23列目……リカバリ標準出力名
7列目……パラメータ	24列目……リカバリ指定コード
8列目……ディレクトリ名	25列目……リカバリ実行経過時間 タイムアウト
9列目……キュー名	26列目……分岐区別
10列目……標準監視	27列目……条件の種類
11列目……標準出力ファイル名	28列目……指定条件
12列目……指定コード	29列目……アイコンリソースID
13列目……実行経過時間タイムアウト	30列目……アイコンファイル名
14列目……正常終了値	31列目……終了判別
15列目……入力コード	32列目……ジョブ起動方式
16列目……異常終了時動作	33列目……リカバリジョブ起動方式
17列目……リカバリ業務名	

(5) ジョブ実行順序

1 つのジョブが終了したとき、次にどのジョブを起動するかをボックスの番号で示しています。

1列目……現在実行中のジョブのボックス番号、
次に実行するボックス番号
(T:正常時に実行、F:異常時に実行)

2.5.6 CSV 形式ファイルを読み込むには

「2.5.5 ジョブネットワークを CSV 形式で保存するには」で保存、またはエディタや表計算ソフトなどで作成した CSV 形式のファイルを読み込んで、ジョブネットワークとして利用することができます。CSV 形式の読み込みをする場合の操作は次のとおりです。

- ①[ファイル]メニューの[CSV 形式の読み込み]コマンドを選択します。[CSV 形式の読み込み]ダイアログボックスが表示されます。
- ②ファイル名、ディレクトリ、ドライブなどを指定します。
- ③[OK]ボタンを選択します。CSV 形式のファイルがジョブネットワークとして表示されます。

CSV 形式で読み込むことができるファイルは、「2.5.6 ジョブネットワークを CSV 形式で保存するには」に記述してある形式でなければなりません。

2.5.7 ジョブネットワーク情報を印刷するには

表示されているジョブネットワーク情報をプリンタで印刷することができます。

①[ファイル]メニューの[印刷]コマンドを選択します。[印刷倍率設定]ダイアログボックスが表示されます。

②印刷する倍率を指定します。

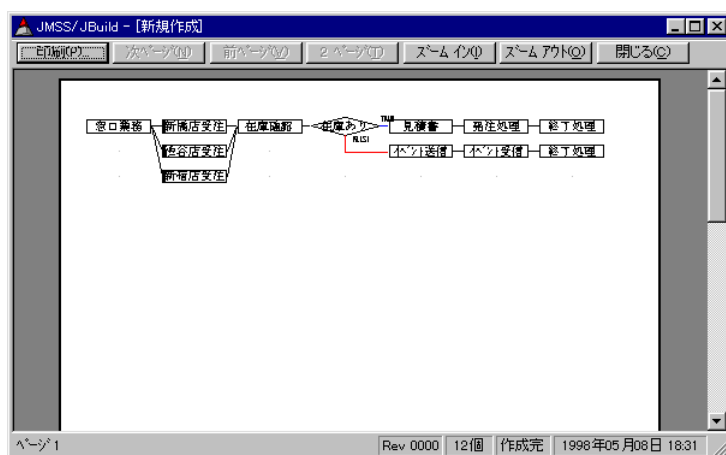


③[OK]ボタンを選択すると印刷ダイアログが表示されます。プリンタの設定、印刷ページ数、印刷部数などを設定し [OK] ボタンを選択します。

実際に印刷する前に、画面で出力イメージを確認することができます。

① [ファイル] メニューの [印刷プレビュー] コマンドを選択します。[印刷倍率設定] ダイアログボックスが表示されます。印刷する倍率を指定し [OK] ボタンを選択します。

②印刷プレビューダイアログが表示されます。

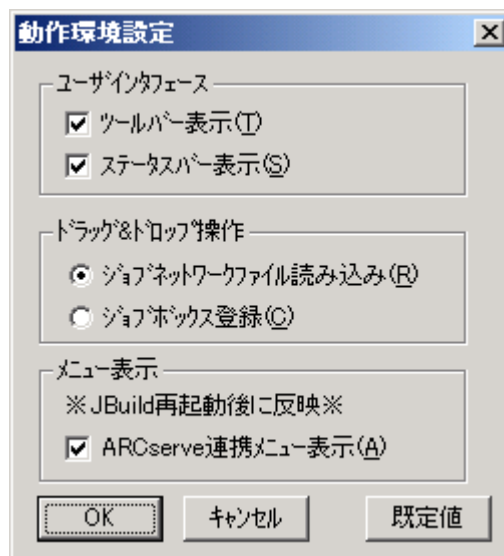


2.5.8 JBuild の環境を設定するには

[JBuild]の動作環境を設定する場合の操作は次のとおりです。

- ①[環境設定]メニューの[動作環境設定]コマンドを選択します。[動作環境設定]ダイアログボックスが表示されます。環境設定情報は次のとおりです。

項 目		内 容
ユーザインタフェース	ツールバー表示	ツールバーを表示するか否かを指定します。
	ステータスバー表示	ステータスバーを表示するか否かを指定します。
ドラッグ&ドロップ操作	ジョブネットワークファイル読み込み	エクスプローラ等からジョブネットワークファイルをドラッグ&ドロップすると、そのジョブネットワークを開きます。
	ジョブボックス登録	エクスプローラ等からジョブネットワークファイルやプログラムファイルをドラッグ&ドロップすると、ジョブボックスとして登録します。
メニュー表示	ARCserve 連携メニュー表示	ツールバーの[ボックス種別]ドロップダウンリストボックスに、ARCserve Backup 連携ジョブを表示するか否かを指定します。この設定は、JBuildの再起動後に反映されます。



2.6 運用環境設定 (JMSS/JEnv)

ここでは、JMSS の運用環境設定 (JEnv) を利用して、JMSS の運用に必要な設定を行う方法について説明します。

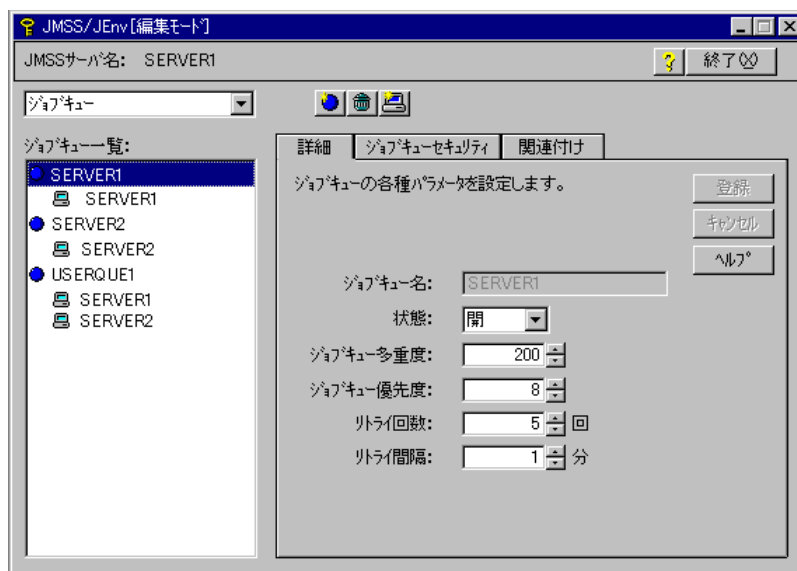
情報を設定(編集・更新)するには JMSS セキュリティ設定権が必要です。

2.6.1 運用環境設定をするには

■運用環境設定メイン画面([JMSS/JEnv]メインウィンドウ)

[スタート]メニューから[すべてのプログラム]－[ESMPRO/JMSS]－[JEnv]を選択します。

[JMSS/JEnv]メインウィンドウ(運用環境設定メイン画面)が表示されます。



■機能一覧表

[JMSS/JEnv]メインウィンドウで実行できる機能は次のとおりです。

機能(コマンド)名	機能説明
ジョブキュー	ジョブキューとジョブ稼働マシンに関する表示・設定(新規作成、変更、削除等)を行います。
サービス・JMSS モジュール環境	JMSS サービス、および JMSS モジュールに関する動作環境の表示・設定を行います。
負荷分散方式	自動負荷分散における負荷分散方式を設定します。
操作ログ環境	操作ログに関する動作環境の表示・設定を行います。
JMSS セキュリティ	JMSS セキュリティの表示・設定を行います。

2.6.2 ジョブキュー情報を表示、設定するには

[JMSS/JEnv] メインウィンドウでジョブキューを表示、設定するには、コマンド選択ボックスから[ジョブキュー]を選択します。[ジョブキュー]を選択すると、[JMSS/JEnv]ジョブキュー設定ウィンドウ(ジョブキュー設定画面)が表示されます。



■デフォルトジョブキュー

ジョブ稼働マシンの定義毎に自動的に作成されるジョブキューです(必ず開状態で作成されます)。JMSS サーバに対するデフォルトジョブキューはインストール時に自動定義され削除はできませんが、他のデフォルトジョブキューはジョブ稼働マシンの削除時に自動的に削除されます。

■ユーザジョブキュー

ユーザが任意に作成できるジョブキューです。デフォルトジョブキュー名以外の任意の名前を付け、任意のジョブ稼働マシンと関連付けることができます。

(1)ジョブキューの選択

[ジョブキュー一覧]リストボックスからジョブキューを選択します。

ジョブキューを選択すると、右側のパネルには選択したジョブキューの情報が表示されます。

(2)ジョブキュー詳細設定

ジョブキューパネルには次の3つがあります。

- ・ 詳細
- ・ ジョブキューセキュリティ
- ・ 関連付け

各パネルのタブを選択すると、関連する情報が表示されます。

●[詳細]パネル

[詳細]パネルでは、選択ジョブキューに対する属性を指定します。

項 目	内 容
ジョブキュー名	選択ジョブキュー名が表示されます。(15 バイト以内)
状態	選択ジョブキューの状態を表示・設定します。状態には次の2つがあります。 開：ジョブ投入、およびジョブ実行が行えます。デフォルトジョブキューはこの状態で自動作成されます。 閉：ジョブ投入はできますが、実行されません(取り出されません)。ユーザジョブキューの作成時のデフォルトはこの状態です。
ジョブキュー多重度	選択ジョブキューから同時に取り出せる(実行できる)ジョブの数を表示・設定します。1～100(EnterpriseEdition の場合は 1～200)までの値を入力してください。 既定値：100(EnterpriseEdition の場合は 200)
ジョブキュー優先度	選択ジョブキューの取り出しプライオリティを表示・設定します。1(優先順位が高い)～16(優先順位が低い)までの値を入力してください。(既定値：8)
リトライ回数	ジョブが起動できなかった場合(稼働マシンで JLook サービスが動作していないなどの場合)のリトライ回数を設定します(0～10 回)。既定値は 5 回です。起動に失敗してリトライを行った場合はイベントログに通知します(この通知はリトライ回数に関わらず 1 回のみです)。スケジュールジョブでリトライが発生すると、指定時刻どおりには起動されません。
リトライ間隔	ジョブが起動できない場合のリトライの時間間隔を分単位で設定します(0～999999999 分)。既定値は 1 分です。

●[ジョブキューセキュリティ]パネル

[ジョブキューセキュリティ]パネルでは、選択ジョブキューに対して使用可能なユーザを設定します。既定値は"*Everyone(全てのユーザ)"です。

[ジョブキューセキュリティ]パネルは、JMSS セキュリティ設定権を持たないユーザは参照できません。

項 目	内 容
一覧表示	ユーザ：ユーザ単位でジョブキューセキュリティの設定を行うことができます。 グループ：グループ単位でジョブキューセキュリティの設定を行うことができます。 なお、100 人以上のユーザを持つシステムの場合、ユーザで運用すると表示・設定に時間がかかりますので、グループでの運用をお勧めします。
サーバ名	JMSS サーバ名を設定します。 このボックスは、ESMPRO/JMSS 間のセキュリティを設定するときに使用します。詳細は[4.1.1 他の JMSS サーバに接続するための設定]を参照してください。
所属するユーザ(グループ)	選択ジョブキューにおける使用可能ユーザ(グループ)を表示します。
所属しないユーザ(グループ)	選択ジョブキューにおける使用不可能ユーザ(グループ)を表示します。
追加	選択ジョブキューに対し、[所属しないユーザ(グループ)]リストボックスで選択されているユーザ(グループ)を使用可能にします。
削除	選択ジョブキューに対し、[所属するユーザ(グループ)]リストボックスで選択されているユーザ(グループ)を使用不可にします。

●[関連付け]パネル

[関連付け]パネルでは、選択ジョブキューに対してジョブ稼働マシンを関連付けます。共有ジョブキューに投入する場合、ここで設定したジョブ稼働マシンの中で負荷率が最も小さいマシン上でジョブを実行します。

なお、本パネルはデフォルトジョブキューでは設定できません。

項 目	内 容
所属するマシン	選択ジョブキューに関連付けられているジョブ稼働マシンを表示します。
所属しないマシン	選択ジョブキューに関連付けられていないジョブ稼働マシンを表示します。
追加	選択ジョブキューに対し、[所属しないマシン]リストボックスで選択しているジョブ稼働マシンを関連付けに追加します。
削除	選択ジョブキューに対し、[所属するマシン]リストボックスで選択しているジョブ稼働マシンを関連付けからはずします。

2.6.3 ジョブ稼働マシンを表示、設定するには

[JMSS/JEnv]メインウィンドウでジョブ稼働マシンを表示、設定するには、コマンド選択ボックスから[ジョブキュー]を選択します。[ジョブキュー]を選択すると、[JMSS/JEnv]ジョブキュー設定ウィンドウ(環境設定ジョブキュー設定画面)が表示されます。

(1)ジョブ稼働マシンの選択

[ジョブキュー一覧]リストボックスからジョブ稼働マシンを選択します。

ジョブ稼働マシンを選択すると、詳細パネルには選択したジョブ稼働マシンの情報が表示されます。

(2)ジョブ稼働マシン詳細設定

次のような詳細パネルが表示されます。

項 目	内 容
マシン多重度	選択マシンで同時に実行できるジョブ数を表示・設定します。1～100(EnterpriseEdition では 1～200)までの値を入力してください。

2.6.4 ユーザジョブキューを作成するには

[JMSS/JEnv]メインウィンドウでユーザジョブキューを作成する手順は次のとおりです。

- ①サブコマンド(ツールアイコン)から[ジョブキュー作成]ボタンを選択します。
- ②[ジョブキュー一覧]リストボックスに「*新しいジョブキュー」が表示され、詳細パネルにはデフォルトの値が表示されます。
- ③ジョブキュー名、ジョブキュー多重度、ジョブキュー優先度、リトライ回数、リトライ間隔を設定後、[登録]ボタンで一度登録します。
- ④[詳細]、[ジョブキューセキュリティ]、[関連付け]パネルに新しいジョブキューの情報を入力します。
- ⑤[登録]ボタンを選択すると登録が完了します。

注意：ユーザジョブキュー名で利用できる文字は、英数字と「- (ハイフン)」です。

2.6.5 ユーザジョブキューを削除するには

[JMSS/JEnv]メインウィンドウでユーザジョブキューを削除する手順は次のとおりです。

- ①[ジョブキュー一覧]リストボックスから削除したいユーザジョブキューを選択します。
- ②サブコマンド(ツールアイコン)から[ジョブキュー削除]ボタンを選択します。
- ③ジョブキュー一覧で選択しているユーザジョブキューを削除するかどうか聞いてきます。
- ④[はい]を選択するとユーザジョブキューが削除されます。

注意：デフォルトジョブキューは削除できません。[ジョブキュー削除]ボタンは、デフォルトジョブキューを選択している時は選択不可(グレー表示)になります。
デフォルトジョブキューは「2.6.7 ジョブ稼働マシンの名前を変更するには」でジョブ稼働マシンを除去すると自動的に削除されます。

2.6.6 ジョブ稼働マシンを追加するには

[JMSS/JEnv]メインウィンドウでジョブ稼働マシンを追加する手順は次のとおりです。

- ①サブコマンド(ツールアイコン)から[ジョブ稼働マシン編集]ボタンを選択します。
- ②[ジョブ稼働マシン編集]ダイアログボックスが表示されます。



- ③[ジョブ稼働マシンの追加]のマシン名に稼働マシン名を正しく入力してください。
- ④[追加]ボタンを選択すると、稼働マシンとそのマシンのデフォルトジョブキューが作成されます。

2.6.7 ジョブ稼働マシンの名前を変更するには

ジョブ稼働マシンの名前を変更するには、旧マシン名を削除してから新マシン名を追加します。手順は次のとおりです。

- ①サブコマンド(ツールアイコン)から[ジョブ稼働マシン編集]ボタンを選択します。
- ②[ジョブ稼働マシン編集]ダイアログボックスが表示されますので、変更前のジョブ稼働マシン名を選択し、[除去]ボタンを選択します。
- ③変更後のジョブ稼働マシン名を[ジョブ稼働マシンの追加]マシン名に入力し、[追加]ボタンを選択してください。ジョブ稼働マシンとデフォルトジョブキューが登録されます。

注意：①この操作は稼働マシン名を変更した場合にのみ実施してください。

②JMSSサーバ名を変更するには、上書き再インストールするか、ESMPRO/JMSS ユーティリティに収録されているJMSSサーバ名変更コマンドを使用してください。

③共有ジョブキューを使用している場合は、関連付けを変更してください。

2.6.8 サービス・JMSS モジュール環境を表示・設定するには

[JMSS/JEnv]メインウィンドウでサービス・JMSS モジュール環境を表示、設定するには、コマンド選択ボックスから[サービス・JMSS モジュール環境]を選択します。[サービス・JMSS モジュール環境]を選択すると、[JMSS/JEnv]サービス・JMSS モジュール環境設定画面になります。



注意：次の項目は、次回のサービス起動時から有効になります。

- ・ 保留ジョブの自動起動設定
- ・ 保留ジョブ保存期間
- ・ パフォーマンスデータを採取する
- ・ パフォーマンスカウンタを出力する(EnterpriseEditionのみ)

JLook サービスの環境を表示・設定するには、[コンポーネント一覧]リストボックスから[JLook]を選択します。

[設定1]

項 目	内 容
最大監視ジョブ件数	監視できる最大ジョブ数を表示・設定します。 設定できるジョブ数は、1000～10000(EnterpriseEdition では 1000～50000)ジョブで、1000 ジョブ単位となります。指定した最大監視ジョブ数をもとに監視用ログファイルが作成されますので、運用業務数と表示開始日付を考慮した値を設定してください。なお、監視ジョブ数が設定値を超えた場合は古いジョブ情報から順に消去されます。 (既定値：1000 バージョンアップ時は既存の監視ジョブ数)
WS_EML ジョブの監視	WS-EML のジョブを監視対象にするかしないかを表示・設定します。 (既定値：しない)
パフォーマンスデータを採取する	ジョブ毎のパフォーマンスデータ採取有無を表示・設定します。 JLook で[minMEM]、[maxMEM]を表示する場合は、"採取する"を選択してください。 "採取する"を選択した場合は、採取時間間隔を秒単位で設定してください(10 秒～3600 秒)。既定値は 30 秒です。採取時間間隔を短く設定するとシステム全体のパフォーマンスを低下させてしまうため、できるだけ小さな値は設定しないようにしてください。 (既定値：採取しない)
ログファイル作成ディレクトリ	監視用ログファイルの作成ディレクトリを表示・設定します。 (既定値：<JMSS インストールディレクトリ>\¥LOG)
標準出力ファイル作成ディレクトリ	標準出力の監視指定による業務投入時に、業務毎に作成される標準出力ファイルを作成するディレクトリの表示・設定を行います。ここで指定するディレクトリは必ず共有されていなければなりません。 (既定値：¥¥JMSS サーバ名¥JMSOUT\$)

注意：①ログファイル作成ディレクトリは、JMSSサーバ配下のローカルディスクに存在するディレクトリを設定してください。
②標準出力ファイル作成ディレクトリは、共有ディレクトリを設定してください。
③ジョブ監視時に、JMSS/JLookでは1000ジョブあたり160KBのメモリを使用します。
④JLookサービス起動時に、標準出力ファイル作成ディレクトリを確認します。存在しない、もしくは見つからなかった場合は、JMSSインストールディレクトリを標準出力ディレクトリとするため、稼働マシンで実行するジョブの標準出力が監視できなくなったり、クライアントから標準出力を表示できなくなることがあります。その場合には、JEnvの「サービス・JMSSモジュール環境」で「標準出力ファイル作成ディレクトリ」を再設定してください。

[設定2]

項 目	内 容
ジョブ起動方式	ジョブの起動をどのユーザアカウントで行うかを表示・設定します。次の2種類の起動方式から選択してください。 ☐ サービスアカウントで起動 ジョブは JLook サービスのアカウントでバックグラウンドで実行されます。ジョブが参照できる環境変数はシステム環境変数となります。デフォルトではこちらのモードになっています。 ☐ ログオンユーザアカウントで起動 全てのジョブは JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザのアカウントでデスクトップで実行されます。JMSS/JD が起動していない場合は「サービスアカウントで起動」と同様となります。 プログラムタイプが GUI となっているジョブがある場合はこちらのモードに設定してください。ジョブのプログラムタイプが不明な場合もこちらのモードに設定してください。
保留ジョブの自動起動設定	サービス起動時に保留となっているジョブの取り扱いについて表示・設定します。取り扱いには次の4種類があります。 ☐ 全て保留 全ての保留ジョブは保留状態のままで残します(起動しません)。デフォルトではこのモードになっています。 ☐ 全てのジョブ起動 全ての保留ジョブを全て起動します。 ☐ スケジュールのみ起動 保留状態のスケジュールジョブだけを起動します(スケジュールジョブ以外のジョブは保留状態のままで残されます)。 ☐ 全て削除 全ての保留ジョブを全て登録削除します。
稼働マシン状態チェック間隔	JMSS サーバが各稼働マシンでジョブ起動が可能かどうかのチェックを行う時間間隔(周期)を秒単位で表示・設定します(30～3600 秒)。既定値は 30 秒です。0 を指定するとチェックを行いません。間隔を短くするとネットワークトラフィックが高くなり、システムレスポンスを低下させることにもなりますのでご注意ください。
保留ジョブ保存期間	保留ジョブを保存しておく期間を設定します(0～10 日)。期間を過ぎた保留ジョブは次のサービス起動時に削除されます。既定値は 0 日です。

[設定3] (EnterpriseEditionのみ)

項 目	内 容	
監視ログを DB に出力する	ジョブの実行結果をデータベースに出力するかどうかを設定します。出力する場合は、以下の項目を設定します。	
	項目	説明
	データソース名	ジョブの実行結果を出力する DB 名を指定します。
	テーブル名	ジョブの実行結果を出力する DB のテーブル名を指定します。
	ユーザ名	ジョブの実行結果を出力する DB へログオンするユーザ名を指定します。
	パスワード	ジョブの実行結果を出力する DB へログオンするユーザのパスワードを指定します。
パフォーマンスカウンタを出力する	パフォーマンスモニタに JMSS のパフォーマンスデータを出力します。ジョブキュー毎に以下の項目を出力します。	
	オブジェクト名 : JMSS	
	カウンタ名	説明
	Jobs Queued	キューに登録されているジョブ数です。実行中のジョブも含まれます。
	Jobs Running	実行中のジョブ数です。
	※ジョブキューはインスタンスとして表示されます。	

注意：ジョブの実行結果をデータベースに出力する場合のデータベース側の設定は、ESMPRO/JMSS EnterpriseEditionのセットアップカードにてご確認ください。

JSchedule サービスの環境を表示・設定するには、[コンポーネント一覧]リストボックスから[JSchedule]を選択します。

項 目	内 容
スケジュール保存期間	過去のスケジュール(期間満了したスケジュール)の保存日数を表示・設定します(0～10 日)。(既定値：1)
投入通知	実行指定時刻におけるスケジュールジョブのジョブキュー投入状況をイベントログに通知するかどうか、通知する場合はどの状態のときに通知するかを表示・設定します。通知条件には次の 2 つがあります。 ☐ 投入成功を通知する スケジュールジョブが正常にジョブキュー登録できた場合は全てイベントログに通知します。 ☒ 投入失敗を通知する(既定値) スケジュールジョブのジョブキュー登録が失敗した場合にのみイベントログに通知します。
積み残しジョブ通知タイミング	スケジュール登録時の通知条件に未起動時の設定を行っているジョブが、指定時刻に実行されなかった場合(JSchedule サービスが指定時刻に動作していない等により、ジョブキューへの投入が行えなかった場合など)、イベントログにどのタイミングで通知するかを表示・設定します。通知条件には次の 2 つがあります。 ☒ サービス起動時に通知する(既定値) JSchedule サービスの起動毎に、イベントログに積み残しジョブの通知を行います。 ☐ 指定通知時刻に通知する 毎日指定した通知時刻に、イベントログに積み残しジョブの通知を行います(通知時刻の設定がない場合は毎日 0 時 0 分に行います)。ただし、この時刻には JSchedule サービスが動作していなければなりません(動作していない場合は、この時刻になっても通知は行われません)。

JD (JDAAdmin) の環境を表示・設定するには、[コンポーネント一覧] リストボックスから[JD (JDAAdmin)]を選択します。この設定は、ジョブ稼働マシンが Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2 の場合のみ有効となります。

項 目	内 容
JD を起動するユーザ (グループ) を指定する	このチェックボックスをチェックすると、設定したユーザ、またはグループに所属するアカウントにてログオンした場合のみ、JD を起動する設定を行うことができます。
一覧表示	ユーザ：ユーザ単位で JD を起動するユーザの設定を行うことができます。 グループ：グループ単位で JD を起動するユーザの設定を行うことができます。
JD を起動するユーザ(グループ)	JD を起動するユーザ(グループ)を表示します。
ユーザ(グループ)	JD を起動するユーザ(グループ)以外のユーザ(グループ)を表示します。
追加	[ユーザ(グループ)] リストボックスで選択しているユーザ(グループ)を [JD を起動するユーザ(グループ)] に追加します。
削除	[JD を起動するユーザ(グループ)] リストボックスで選択しているユーザ(グループ)を [JD を起動するユーザ(グループ)] から削除します。
JD を管理者権限で起動する	このチェックボックスをチェックすると、JD を管理者権限で起動します。JD 起動時 (ログオン時) にユーザーアカウント制御ダイアログが表示されます。(ビルトイン Administrator でログオンした場合は表示されません)

注意：①JDを起動する際、起動するユーザ情報の確認のため、JMSSサーバとの接続が必要となります。JMSSサーバと接続できなかった場合には、リトライを行います。リトライ時のリトライ間隔および回数の表示・設定は、「JDCFG」コマンドにて行えます。詳細は、「第5章 コマンドリファレンス」にてご確認ください。

②JDを管理者権限で起動する設定を行った場合に管理者権限を持たないユーザでログオンした際、JD起動時に管理者のユーザIDとパスワードの入力が必要となります。

③この設定内容を有効にするためには、稼働マシンでJDを起動しているユーザの再ログオンが必要です。

2.6.9 負荷分散方式を表示・設定するには

[JMSS/JEnv]メインウィンドウで負荷分散方式を表示、設定するには、コマンド選択ボックスから[負荷分散方式]を選択します。[負荷分散方式]を選択すると、[JMSS/JEnv]負荷分散方式設定画面になります。

The image shows a screenshot of the 'JMSS/JEnv [編集モード]' (Edit Mode) window. At the top, it says 'JMSSサーバ名: CENTER1'. Below that is a dropdown menu labeled '負荷分散方式' (Load Distribution Method). The main area contains the instruction '負荷分散方式を設定します。' (Set the load distribution method). There are three buttons on the right: '登録' (Register), 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help). Under the heading '負荷分散方式:' (Load Distribution Method:), there are two radio buttons: 'マシン多重度' (Machine Multiplicity) which is selected, and 'CPU使用率' (CPU Usage). At the bottom, there is a label 'パフォーマンスデータ採取間隔:' (Performance Data Collection Interval:) followed by a text box containing '30' and a unit selector set to '秒' (seconds).

項 目	内 容
マシン多重度	共有ジョブキューに関連付けられたジョブ稼働マシン内で、最も未実行ジョブ数(マシン多重度のなかで)の多いマシンをジョブ稼働マシンとしてジョブ実行させる方式です。この値が既定値になります。
CPU 使用率	共有ジョブキューに関連付けられたジョブ稼働マシン内で、最も CPU 使用率の低いマシンをジョブ稼働マシンとしてジョブ実行させる方式です。CPU 使用率を選択した場合は、次の項目も設定可能になります。 □パフォーマンスデータ採取間隔 ジョブ稼働マシンの CPU 使用率採取時間間隔を秒単位で表示・設定します(10～600 秒)。本項目を小さな値に設定するとシステム全体のパフォーマンスを低下させることになりますので、小さな値はできるだけ設定しないようにしてください。(既定値：30 秒)

注意：①負荷分散方式の編集内容を有効にするには、JMSSサービスを再起動しなければなりません。
②両方式ともにジョブ実行直前での負荷情報により稼働マシンの決定を行っていただきますので、場合によっては正確な分散にならないこともあります。
③CPU使用率による負荷分散方式では、CPU自体の性能やCPUの数までは考慮していません。

2.6.10 操作ログ環境を設定するには

[JMSS/JEnv]メインウィンドウで操作ログ環境を表示、設定するには、コマンド選択ボックスから[操作ログ環境]を選択します。[操作ログ環境]を選択すると、[JMSS/JEnv]操作ログ環境設定画面になります。

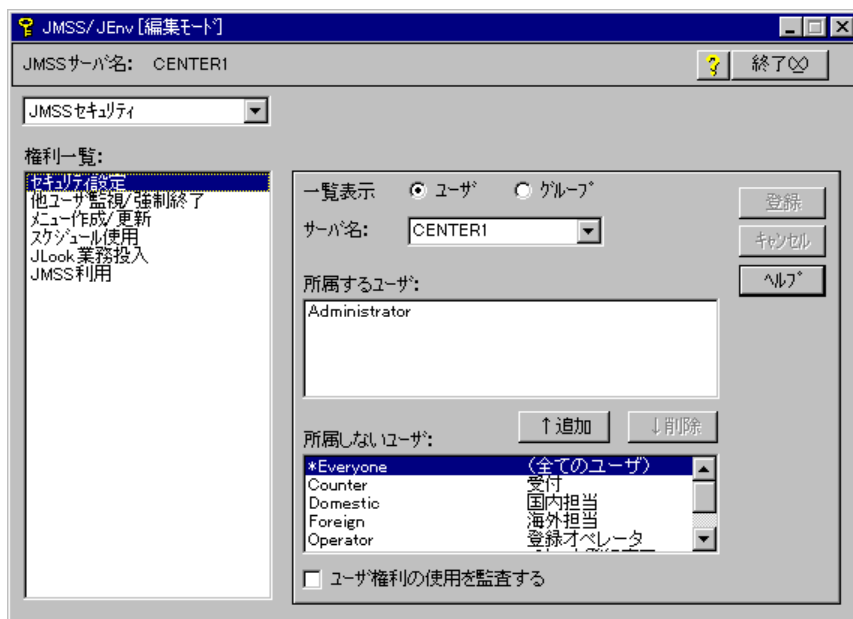
項 目	内 容
操作ログを出力する	ログを出力するかしないかを設定します。 (既定値：出力しない)
切替タイミング	操作ログファイルを切り替えるタイミングを「日付」「(ファイル)サイズ」「日付とサイズ」で設定します。 (既定値：日付とサイズ)
切替時刻	ログを日付で切り替える場合、切り替える時刻を設定します。 (既定値：00:00(午前0時0分))
最大サイズ	ログをサイズで切り替える場合、サイズを設定します。 (既定値：10MB)
作成ディレクトリ	ログファイルの出力先フォルダを設定します。 (既定値：<JMSS インストールフォルダ>\¥SOX)
リトライ間隔	書き込みリトライ間隔を設定します。 (既定値：500 ミリ秒)
リトライ回数	ログの書き込みに失敗した場合のリトライ回数を設定します。 (既定値：10 回)
ログ出力エラー発生時	リトライ回数まで繰り返してもログが書き込めなかった場合、JMSSのサービスを停止するかどうかを設定します。 (規定値：サービスを停止しない)

注意： ログの利用方法については、[スタート]メニューの[すべてのプログラム]-[ESMPRO/JMSS]-[マニュアル]-[内部統制対応ガイド]にてご確認ください。

2.6.11 JMSS セキュリティを設定するには

[JMSS/JEnv]メインウィンドウで JMSS セキュリティ設定を表示、設定するには、コマンド選択ボックスから[J MSS セキュリティ]を選択します。[JMSS セキュリティ]を選択すると、[JMSS/JEnv]JMSS セキュリティ設定画面になります。

なお、JMSS セキュリティ設定権を持たないユーザは本設定画面を参照できません。



注意 : JMSSでは、Windowsのドメインユーザ情報を利用してJMSSセキュリティを設定しています。

JMSSのセキュリティが設定されているドメインユーザ名、グループ名を変更・削除する場合、次の手順で行ってください。

- ①JMSSのセキュリティ設定(JMSS/JEnv)で、変更・削除するユーザ(グループ)を全権利から削除します。
- ②JMSS/JEnvを一旦終了し、Windowsにてユーザ(グループ)名を削除・変更します。
- ③ユーザ(グループ)名を変更した場合は、再度JMSS/JEnvで変更後のユーザ(グループ)を各権利に設定してください。

なお、「セキュリティ設定の権利」にユーザが1人しか登録されていない場合は、JMSS/JEnvでそのユーザを削除することができませんので、他のユーザ名を「セキュリティ設定の権利」に追加した後、ユーザ名の変更・削除を行ってください。

■権利一覧

[権利一覧]リストボックスには次の 6 種類の権利が表示されています。一覧で選択した権利に対する詳細表示・詳細設定を行います。

項 目	内 容
セキュリティ設定	JMSS の各種セキュリティを登録・変更できる権利です。本セキュリティを持つユーザは、JMSS の全てのセキュリティを持ちます。また、次の 6 種類のセキュリティを設定することができます。 セキュリティ設定の権利 他ユーザ監視／強制終了の権利 メニュー作成／更新の権利 スケジュール使用の権利 JLook 業務投入の権利 JMSS 利用権 インストール直後はサーバにインストールしたユーザのみにこの権限が与えられています。
他ユーザ監視/強制終了	JMSS/JLook で他ユーザが投入したジョブの監視・強制終了ができる権利です。通常の監視・強制終了対象は自ユーザ名のみです。インストール直後はサーバにインストールしたユーザのみにこの権限が与えられています。
メニュー作成/更新	JMSS/JMenu でメニューの作成・更新が行える権利です。インストール直後はサーバにインストールしたユーザのみにこの権限が与えられています。
スケジュール使用	JMSS/JSchedule が利用できる権利です。インストール直後は、サーバにインストールしたユーザのみにこの権限が与えられています。
JLook 業務投入	JMSS/JLook で業務投入できる権利です。インストール直後は、サーバにインストールしたユーザのみにこの権限が与えられています。
JMSS 利用	JMSS/JLook における自ユーザ業務の監視・強制終了、JMSS/JMenu における業務メニューの利用が可能な権利です。インストール直後は全ドメインユーザにこの権限が与えられています。

注意： Ver7.1より、インストール直後に全ドメインユーザに与えられている権利は JMSS利用権のみです。

■権利詳細

右側のパネルには、権利を持つユーザ(グループ)一覧と、権利を持たないユーザ(グループ)一覧が表示されますので、任意のユーザ(グループ)を選択して追加・削除操作を行ってください。

項 目	内 容
一覧表示	ユーザ：ユーザ単位で JMSS セキュリティの設定を行うことができます。 グループ：グループ単位で JMSS セキュリティの設定を行うことができます。 なお、100 人以上のユーザを持つシステムの場合、ユーザで運用すると表示・設定に時間がかかりますので、グループでの運用をお勧めします。
サーバ名	JMSS サーバ名を設定します。 このボックスは、他の JMSS サーバからの接続を許可する場合のセキュリティを設定するときに使用します。詳細は「4.1.1 他の JMSS サーバに接続するための設定」を参照してください。
所属するユーザ (グループ)	選択した権利を持つユーザ(グループ)を表示します。
所属しないユーザ (グループ)	選択した権利を持たないユーザ(グループ)を表示します。
追加	選択した権利に対し、[所属しないユーザ(グループ)]リストボックスで選択しているユーザ(グループ)に権限を与えます。
削除	選択した権利に対し、[所属するユーザ(グループ)]リストボックスで選択しているユーザ(グループ)の権限を剥奪します。
ユーザ権利の使用 を監査する	このチェックボックスをチェックすると、セキュリティの設定、変更が成功したときにイベントログに成功の監査を出力します。(既定値：しない) セキュリティの設定、変更が失敗したときは、この設定に関わらず、失敗の監査をイベントログに出力します。

注意： JMSSセキュリティで編集した内容が有効になるのは、次にJMSS/JLook、JMSS/JSchedule、JMSS/JMenuを起動した時です。

第3章 他製品との連携

この章では、他製品との連携について説明します。

3.1 バックアップジョブとの連携

ARCserve などのバックアップ製品で定義・管理されるバックアップジョブを ESMPRO/JMSS から実行することにより、バックアップ製品と連携したバックアップを行うことができます。

バックアップジョブを ESMPRO/JMSS から実行するには、バックアップ製品にて提供されているコマンドを JMSS のジョブとして定義してください。

注意：①バックアップコマンドの前に”JCMD”を付けてください。

②バックアップコマンドをJLookから強制終了してもバックアップは続行されます。バックアップを強制終了するには、バックアップ製品側でバックアップのキャンセルを行ってください。

③JMSSでは、テンポラリファイル(<JMSSインストールディレクトリ>\temp下)を使用しています。このテンポラリをバックアップ対象とすると、バックアップ中にエラーとなりますので、バックアップ対象から外してください。

3.2 アプリケーション実行環境

アプリケーション実行環境の WS-EML から起動したジョブを監視対象にすることができます。

環境設定で、WS-EML から起動したジョブを監視対象にする設定を行った場合に監視対象になります。この設定は JMSS/JEnv(「2.6 運用環境設定」参照)で行います。

サービス・JMSSモジュール環境	項 目	内 容
JLook	WS_EML ジョブの監視	WS-EML のジョブを監視対象にするかしないかを表示・設定します。(既定値：しない)

●WS-EML から起動する場合

「JMSS/JEnv」の[サービス・JMSS モジュール環境]設定画面で、WS-EML から起動したジョブを監視対象にする設定を行った場合にのみ監視対象となります。

WS-EML から起動したジョブのうち、監視対象になるものは次のとおりです。

- ・ WS-EMLから直接起動したCOBOL系(画面制御機能、プリンタファイルを使用するアプリケーション)プログラム
- ・ “NTCMD” を付加して起動したWindows系プログラム(BAT形式のJSを含む)
- ・ JS内でCOBOL系プログラムを動作させるために“EMLCMD”を付加して起動したプログラム
- ・ JS内で“JCMD”を付加して起動したWindows系プログラム

“NTCMD”、“EMLCMD”の使用方法については『アプリケーション実行環境説明書』を参照してください。

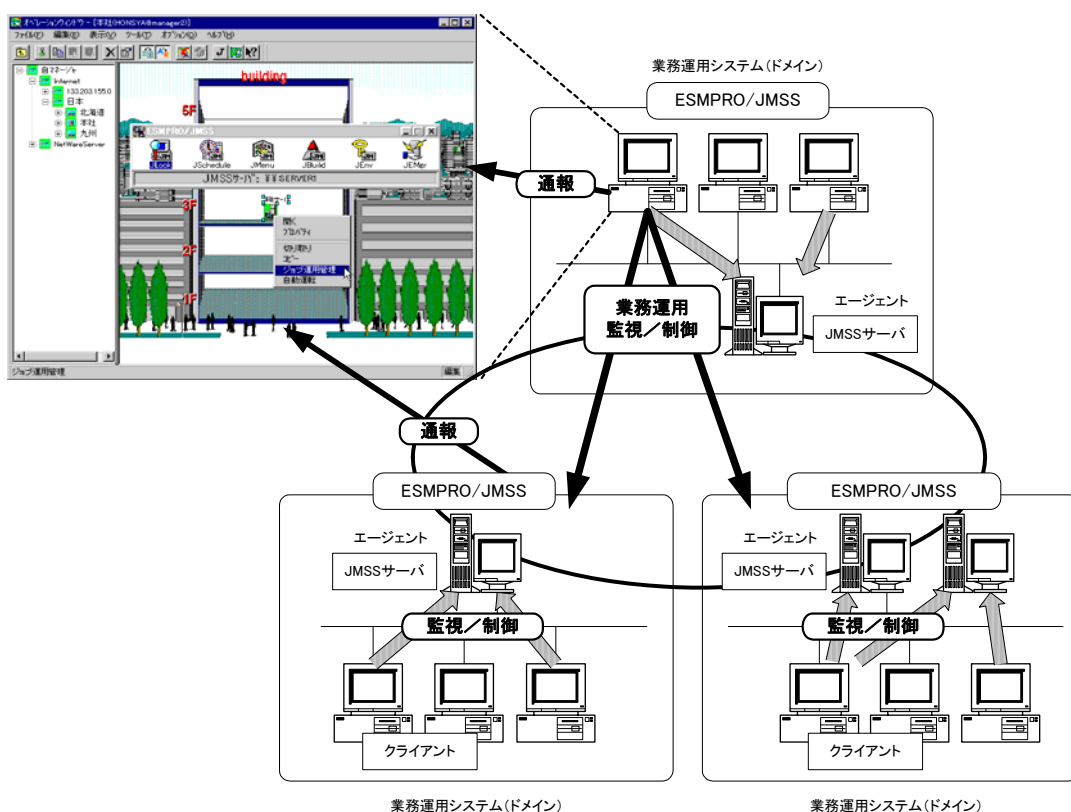
注意： WS-EMLから起動したジョブはJMSSから強制終了できません。ただし、“JCMD”を付加して起動したWindowsプログラムは強制終了できます。
--

第4章 ESMPRO製品との連携

この章では、他の ESMPRO 製品との連携について説明します。

4.1 統合ビューアとの連携

ESMPRO/JMSS では、ESMPRO/ServerManager の統合ビューアと連携することにより、ドメインを超える広範囲な業務運用システムのジョブ運用管理を行うことができます。



4.1.1 他の JMSS サーバに接続するための設定

ESMPRO/ServerManager の統合ビューアから他の JMSS サーバに接続するには、以下の設定を行ってください。

- ・ 接続するユーザを接続先ドメインにも定義する
- ・ 接続先と接続元のドメインの間で相互に信頼関係を設定する
- ・ あらかじめ接続先のJMSSサーバでJMSSセキュリティを設定する

●JMSS セキュリティ設定方法

■「ESMPRO/JMSS Ver6.0 以降」の JMSS サーバに接続する場合

ここでは、接続元の JMSS サーバ名を「CENTER-M」、接続先の JMSS サーバ名を「CENTER-A」とします。

- ①接続先の JMSS サーバで、JMSS セキュリティのセキュリティ設定権を持っているユーザで Windows にログインします。
- ②[スタート]メニューの[すべてのプログラム]の[ESMPRO/JMSS]から、JEnv を起動します。
- ③[JMSS/JEnv]メインウィンドウのコマンド選択ボックスから[JMSS セキュリティ]を選択します。
- ④右側の権利詳細パネルの[サーバ名]コンボボックスに、接続元の JMSS サーバ名「CENTER-M」を入力し、TAB キーを押下します。
- ⑤所属するユーザ(グループ)一覧と、所属しないユーザ(グループ)一覧が表示されますので、設定したいユーザ(グループ)を追加・削除します。

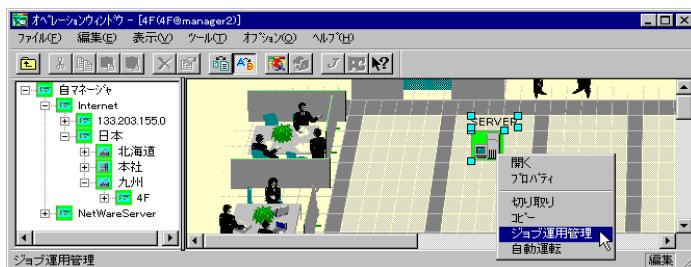
4.1.2 統合ビューアから JMSS を起動するには

ESMPRO/ServerManager の統合ビューアから JMSS の各機能を利用するには、ESMPRO/JMSS ラウンチャを使用します。

ESMPRO/JMSS ラウンチャは、統合ビューアのおペレーションウィンドウからサーバを選択して起動します。ESMPRO/JMSS ラウンチャを起動するには次の3つの方法があります。

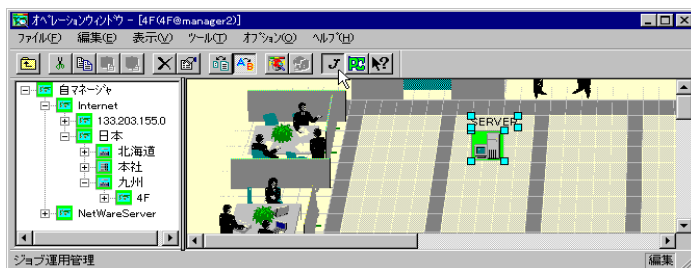
■ポップアップメニューから起動

ESMPRO/JMSS を起動するサーバを右クリックし、ポップアップメニューから[ジョブ運用管理]を選択します。



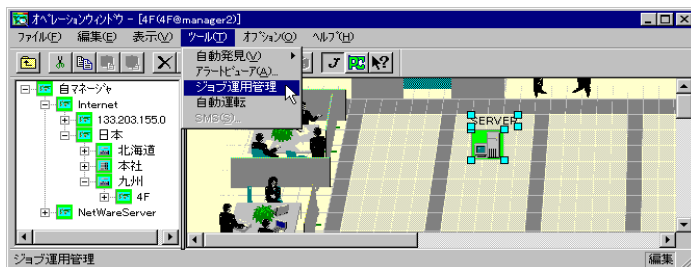
■ツールバーから起動

ツールバーの[ESMPRO/JMSS]アイコンをクリックします。

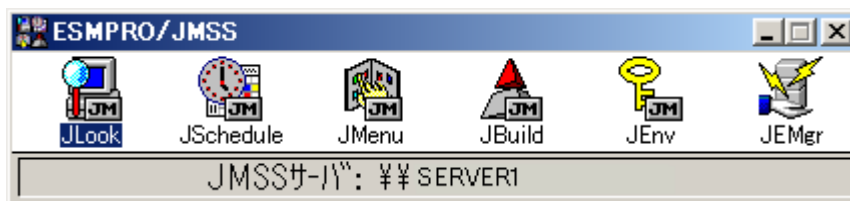


■メニューから起動

メニューから[ジョブ運用管理]を選択します。



次のようなラウンチャが起動します。



ステータスバーには監視する JMSS サーバのマシン名が表示されます(上図はマシン名“SERVER1”から起動された場合)。

JMSS ラウンチャより JMSS の各機能(JLook、JSchedule、JMenu、JBuild、JEnv、JEMgr(ESMPRO/JMSS EventManager インストール時)を利用できます。

注意：ESMPRO/JMSS EventManagerの詳細については、ESMPRO/JMSS EventManagerのユーザズマニュアルを参照してください。
Windows Server 2008にてVer7.0以前のJMSSサーバに接続しヘルプを表示するにはWinHlp32.exeが必要となります。

●JMSS の各機能を起動するには

起動方法は、アイコンをダブルクリックするかリターンキーを押下します。

各機能は、ステータスバーに表示されているマシンを JMSS サーバとみなして起動します。

ここで起動する各機能は、ステータスバーに表示されているマシン(JMSS サーバ)が属するドメイン内を監視／制御対象として運用します。

注意：①ESMPRO/JMSSラウンチャを利用して他のドメインを監視／制御するときに自マシン(ESMPRO/JMSSラウンチャが起動されているマシン)へのジョブ投入を行うと、実行はできますが、JLookの監視画面には表示されません(監視等はいけません)。
②他ドメインのJMSSサーバで管理している標準出力を表示するには標準出力ディレクトリが参照できるようフォルダのアクセス権を設定してください。
③他ドメインのJMSSサーバで実行しているジョブのジョブネット状況表示をするには、そのジョブが格納されているディレクトリが参照できるようフォルダのアクセス権を設定してください。

4.1.3 補助機能

■ヘルプの表示

ESMPRO/JMSS ラウンチャのヘルプを表示するには、システムメニューから指定します。また、右クリックメニューからも表示することができます。

■右クリックメニュー

ウィンドウ内を右クリックすることでポップアップメニューを表示できます。クリックする場所によってメニュー項目が変化します。各項目の説明は以下の通りです。

メニュー項目	説明
Web クライアントの表示	Web クライアントを表示します。
JLook のヘルプ [°]	JMSS/JLook のヘルプを表示します。 アイコンを選択し、f・2 押下でも表示します。
JSchedule のヘルプ [°]	JMSS/JSchedule のヘルプを表示します。 アイコンを選択し、f・2 押下でも表示します。
JMenu のヘルプ [°]	JMSS/JMenu のヘルプを表示します。 アイコンを選択し、f・2 押下でも表示します。
JBuild のヘルプ [°]	JMSS/JBuild のヘルプを表示します。 アイコンを選択し、f・2 押下でも表示します。
JEnv のヘルプ [°]	JMSS/JEnv のヘルプを表示します。 アイコンを選択し、f・2 押下でも表示します。
JEMgr のヘルプ [°]	JEMgr のヘルプを表示します。 アイコンを選択し、f・2 押下でも表示します。
目次	ESMPRO/JMSS ラウンチャのヘルプを表示します。 f・1 押下でも表示します。
キーワード [°] で検索	キーワードで検索ダイアログボックスを表示します。
常に手前に表示	常に手前に表示する、しないを指定します。
JMSS ラウンチャの終了	ESMPRO/JMSS ラウンチャを終了します。

4.1.4 別セグメントサーバへアクセスするためのネットワーク設定

ESMPRO/JMSS は通信プロトコルとして名前付きパイプを使用しています。

同一セグメント内に存在するコンピュータ名はブロードキャスト名前照会を用いて解決しますが、ルータを超えたコンピュータ名までは解決できません。ルータを超えたコンピュータ名を解決するには下記の 2 通りの設定が必要になります。

●Windows インタネットネームサービス(WINS)を使用する場合

コンピュータ名を IP アドレスへマッピングする動的データベースを持つ 1 つまたはそれ以上の WINS サーバが利用可能な場合は、Windows コンピュータは WINS を利用できます。

WINS は、ほかの名前解決方式が適切でないインターネットワークでブロードキャスト名前解決と組み合わせて使用できます。

●LMHOSTS ファイルを使用する場合

対応するコンピュータ名にマッピングされた既知の IP アドレスを一覧するために、ローカルコンピュータ上では HOSTS ファイル(Windows Sockets アプリケーションで TCP/IP ホスト名の検索に使用)と LMHOSTS ファイル(TCP/IP 上の NetBIOS で Microsoft ネットワークコンピュータ名の検索に使用)を使うことができます。LMHOSTS は、小規模ネットワークに WINS が利用できないリモートサブネットでの Windows の名前解決に使います。

4.1.5 統合ビューアおよび ESMPRO/JMSS でのサーバ定義の差異

統合ビューアは独自にホスト名、IP アドレスの対応を解決しているため、NetBIOS を使用している ESMPRO/JMSS とではコンピュータ名の管理方式に違いがあります。

統合ビューアのマップに定義してあるコンピュータ名は、Microsoft ネットワークコンピュータ名として解決できるよう、統合ビューアのマップ上のホスト名が JMSS サーバのコンピュータ名と同一になるように定義してください。

4.2 アラート通報

ESMPRO/JMSS では、障害が発生した場合に障害内容をイベントログに出力します。同時に、ESMPRO/ServerAgent をインストールしたマシンでは、障害内容を管理マネージャに通報し、アラートビューアから障害内容の確認ができます。主な障害内容としては、

- ・ ESMPRO/JMSSのサービスに異常が発生した
- ・ スケジュールしたジョブが指定時刻に起動されなかった

等があります。

障害以外にアラート通報する手段として JALERT コマンドを使用できます。

JALERT コマンドは指定したメッセージをイベントログに出力するとともに、メッセージ内容を ESMPRO/ServerManager アラートビューアやページャへ通報することができます。

JALERTの詳細な内容は「第5章 コマンドリファレンス」を参照してください。

4.3 マシンの自動電源制御

UPS 装置を装備し、ESMPRO/AutomaticRunningController をインストールしたマシンでは自動電源制御ができます。

ESMPRO/JMSS では自動電源制御に対応して、安全な電源切断、強制電源切断、およびスタートアッププログラム(電源投入時に自動起動するジョブ)の設定ができます。

4.3.1 安全な電源切断

ESMPRO/AutomaticRunningController による自動電源切断時に ESMPRO/JMSS から起動したジョブが実行中の場合、実行中のジョブがすべて終了するまで電源切断を遅らせることができるので^{*1}、重要なジョブを中断せずに安全に電源切断できます。

- *1 ESMPRO/AutomaticRunningControllerのオプションダイアログボックスで**電源切断時のジョブ監視**チェックボックスをチェックしておく必要があります。また、電源切断時のジョブ監視**タイムアウト時間**を設定した場合、タイムアウト時間内に終了しないジョブは強制終了されます。

4.3.2 強制電源切断

ESMPRO/AutomaticRunningController で設定した電源切断の条件とは無関係に、ESMPRO/JMSS から強制的に電源切断することができます。ESMPRO/JMSS から電源を切断するには JOFF コマンドを使用します。JOFF コマンドを使用して ESMPRO/JMSS サーバやジョブ稼働マシンの電源を切断することができます。^{*2}

UPS 装置^{*3}と ESMPRO/AutomaticRunningController、ESMPRO/JMSS、統合ビューアを組み合わせることで使用することにより、遠隔地からマシンの電源を切断することができます。

- *2 JOFFを実行するとESMPRO/JMSSから起動した他の実行中のジョブはすべて強制終了します。
- *3 UPS装置上の背面のスイッチをAUTOに設定しておく必要があります。

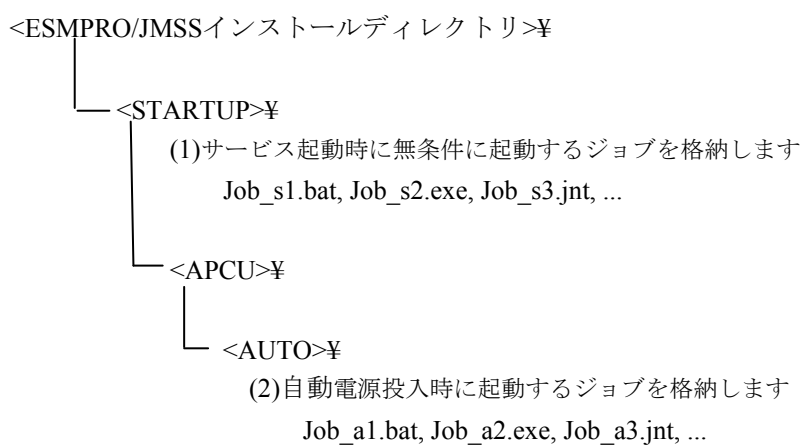
JOFFの詳細な内容は「第5章 コマンドリファレンス」を参照してください。

4.3.3 スタートアッププログラム

ESMPRO/JMSS サーバ上で ESMPRO/JMSS のサービス起動時にジョブを起動することができます。起動するジョブは、

- (1) ESMPRO/JMSSサービスの起動時に無条件に起動するジョブ
- (2) ESMPRO/AutomaticRunningControllerの自動電源投入時に起動するジョブ

です。それぞれのジョブは、ジョブの実行ファイルをファイルマネージャ等を使用して次のディレクトリにコピーすることにより設定できます。



(1)ESMPRO/JMSS サービスの起動時に無条件に起動するジョブ

ESMPRO/JMSS のサービス起動時に、STARTUP ディレクトリ直下に格納したジョブをすべて起動します。ESMPRO/ AutomaticRunningController と UPS 装置による電源投入時も対象になります。

(2)ESMPRO/AutomaticRunningController の自動電源投入時に起動するジョブ

ESMPRO/AutomaticRunningController 上で設定した時刻(スケジュール)で自動電源投入した場合、STARTUP¥APCU¥AUTO ディレクトリに格納したジョブをすべて起動します。

注意：① ESMPRO/AutomaticRunningController がインストールされていない場合は、STARTUP¥APCU¥AUTO ディレクトリに格納したジョブは起動しません。また、STARTUP ディレクトリ配下の各ディレクトリに格納できるジョブは、EXE ファイル、バッチファイル、ジョブネットワークファイルのみです。これら以外のファイルはすべて起動エラーになります。

② スタートアッププログラムに GUI プログラムを登録しないでください。JMSS/JD が起動する前に起動してしまうことがあるため、正しく動作しない可能性があります。

第5章 コマンドリファレンス

JCMD

このコマンドは、ジョブを指定のジョブキューへ投入します。

構文 JCMD [/N[OWAIT]] [/Q[UEUE]:ジョブキュー名] [/P[RRIORITY]:優先順位]
 [/W[ORK]:実行ディレクトリ名] [/T[ITLE]:業務名]
 [/O[UTPUT][:ファイル名]] [/A[PPEND][:ファイル名]] [/V[ERBOSE]]
 [/L[IMIT]:最大実行時間] [/K[IDOU]:ジョブ起動方式]
 [/C[ODE]:ファイル名] **ジョブ名** [パラメータ]

パラメータ /N[OWAIT]
 ジョブ投入後の終了待ちの有無を指定します。このオプションを指定すると、ジョブ投入完了後にジョブの終了を待たずにコマンドは終了し、終了コード0を返します。
 省略すると、ジョブの終了を待ってからコマンドは終了します。

 /Q[UEUE]:ジョブキュー名
 ジョブを投入するジョブキュー名を15バイト以内で指定します。
 省略すると、本コマンドを実行したマシンのデフォルトジョブキューにジョブを投入します。
 (子ジョブの場合は親ジョブと同じジョブキューに投入します)

 /P[RRIORITY]:優先順位
 ジョブ実行時の優先順位を次の4種類から指定します。

優先順位	説明
R[EAL]	最高の優先順位でジョブを実行します。
H[IGH]	他のジョブより優先して速やかに実行します。
N[ORMAL]	システム標準の優先順位でジョブを実行します。(既定値)
I[DLE]	システムのアイドル状態の時だけジョブを実行します。

 /W[ORK]:実行ディレクトリ名
 ジョブを実行するディレクトリをフルパスで指定します。
 省略すると、現在のカレントディレクトリとなります。

/T[ITLE]:業務名

投入するジョブの業務名を32バイト以内で指定します。

省略すると、指定したジョブ名からパス名と拡張子を除いた名前となります。

/O[UTPUT] [:ファイル名]

標準出力の出力の有無を指定します。このオプションを指定すると、標準出力を監視(リダイレクト)します。

親ジョブを監視対象とした場合、子ジョブも監視対象となります。

ファイル名を指定した場合は、そのファイルに標準出力の内容が派生ジョブの内容も含めて保存されます。指定されたファイルが存在する場合には内容が上書きされます。

/A[PPEND] [:ファイル名]

/Oオプションと同様に標準出力の出力有無を指定します。ただし、指定したファイルが存在する場合にはそのファイルの最後に追加されます。

/V[ERBOSE]

投入したジョブのジョブ番号を標準出力に出力します。

/L[IMIT]:実行経過時間タイムアウト

実行経過時間タイムアウトを分単位(0~60059)で指定します。指定された時間が過ぎた場合、ジョブは強制終了(終了コード:FFFFFFFFB)されます。

0を指定した場合はジョブが終了するまで待ち続けます。

/K[IDOU]:ジョブ起動方式

ジョブの起動方式を次の3種類から指定します。

起動方式	説明
N[ONE]	指定なし(既定値)
S[ERVICE]	サービスアカウントで起動します。
L[OGON]	JMSS/JD(JDAdmin)を起動したユーザで起動します。 JMSS/JD(JDAdmin)が起動されていない場合は、起動エラーとなります。

/C[ODE]:ファイル名

指定されたファイルに終了コードを保存します。

ジョブ名

投入するジョブのジョブ名を指定します。指定したジョブ名の後に続くオプションは、全てジョブに対するパラメータとみなされますので、ジョブ名は他のオプションの最後に指定してください。

ジョブ名のパスに空白が含まれる場合は、「"」で囲ってください。

パラメータ

投入するジョブのパラメータを指定します。

次のものは置換パラメータとして動作します。

置換パラメータ	説明
%1～%9	実行時の指定パラメータと置換し(指定パラメータ順で%1～%9 になります)、ジョブに渡します。例えば "%2" とだけ設定している場合、ジョブを実行する際のパラメータに "10△20"を指定すると、"20"が渡されます。
%環境変数名%	ジョブ実行時、投入操作を行ったマシン上(ユーザ)に定義されている指定環境変数名の設定値と置換し、本指定ジョブに渡します。例えば "%環境 1%" と指定した場合、このジョブを投入したマシン上に"環境 1=JMSS"と定義されていれば、パラメータとして"JMSS"が渡されます。
\$環境変数名\$	ジョブ実行時、実行するマシン上に定義されている指定環境変数名の設定値と置換し、本指定ジョブに渡します。例えば本指定に "\$環境 1\$" と指定した場合、このジョブを実行するマシン上に "環境 1=3.1" が定義されていれば、パラメータとして"3.1"が渡されます。

ジョブ投入結果の返却値

終了コード	説明
0	指定したジョブが正常に投入できました。
その他	指定したジョブの戻り値を返します。(N[OWAIT] パラメータを指定していない場合)

注意：①実行時ディレクトリに"¥¥マシン名¥共有名"を指定した場合は、その"¥¥マシン名¥共有名"がルートディレクトリになります。例えばマシン名"マシン A"の"C:¥SHARE"を"共有 1"として共有し、実行時ディレクトリに"¥¥マシン A¥共有 1"と指定してBATジョブを投入した場合、その投入したBAT内で"CD ¥"を実行するとカレントディレクトリは"¥¥マシン A¥共有 1"となり、"C:¥"ディレクトリではなく"C:¥SHARE"ディレクトリを指定したことになります。

②投入するBATファイルからウィンドウ系アプリケーションを起動する場合、その記述の前に"JCMD"を付けて必ず監視するようにしてください。"JCMD"を付けないと正常に動作しない場合があります。

例：

A. BAT
WINAPP. EXE

の場合は、

A. BAT
JCMD WINAPP. EXE

としてください。

JESEND

このコマンドは、指定したイベントIDとメッセージを指定したJMSSサーバのジョブキューに送信します。

構文 **JESEND** **[/NOLOGO]** **[/S[ERVER]:送信先JMSSサーバ名]**
 [/Q[QUEUE]:送信先ジョブキュー名] **[/P:変数="値"]** **[/P:変数="値"]...**
イベントID **["メッセージ"]**

パラメータ /NOLOGO

標準出力へ出力しません。

省略すると、標準出力に次の指定情報を出力します。

- ・送信先JMSSサーバ名
- ・送信先ジョブキュー名
- ・イベントID
- ・メッセージ

/S[ERVER]:送信先JMSSサーバ名

送信先のJMSSサーバ名を15バイト以内で指定します。

省略すると、コマンドを実行したマシンが属するJMSSサーバとなります。

/Q[UEUE]:送信先ジョブキュー名

送信先のジョブキュー名を15バイト以内で指定します。指定したジョブキューに関連付けている全てのマシンにイベントを送信します。

省略すると、/S[ERVER]で指定したJMSSサーバが監視している全てのジョブ稼働マシンにイベントを送信します。

/P: 変数="値"

JScheduleのイベント起動ジョブの[業務名]、[パラメータ]に設定されている置換文字列「\$変数\$」を「値」に置換します。

複数設定することができます。

/Pオプション全体で1024バイトまで設定することができます。

イベントID

送信するイベントのイベントIDを英数4バイト以内(大文字・小文字区別)で指定します。このパラメータは省略することができません。

"メッセージ"

送信するメッセージを64バイト以内で指定します。

コマンドの戻り値

終了コード	説明
0	正常に送信しました。
1	指定した JMSS サーバに接続できませんでした。

JERECV

イベント受信コマンドは、指定したイベントIDを指定のタイムアウト時間まで待ち続けます。

構文 JERECV [/NOLOGO] [/T[IMEOUT]:時間] イベントID

パラメータ /NOLOGO

標準出力へ出力しません。

省略すると、標準出力に次の指定情報を出力します。

- ・送信元JMSSサーバ名
- ・送信元マシン名
- ・イベントID
- ・メッセージ

/T[IMEOUT]:時間

イベントの待ち時間を秒単位で指定します。

省略すると、イベントを受信するまで無限に待ちます。

イベントID

受信するイベントのイベントIDを英数4バイト以内(大文字・小文字区別)で指定します。ここに'*'を指定すると、全てのイベントIDが受信の対象になります。このパラメータは省略することができません。

コマンドの戻り値

終了コード	説明
0	正常に受信しました。
1	イベント受信中にタイムアウトしました。

注意：このコマンドはJMSSサーバ、ジョブ稼働マシン上でのみ動作します。

JALERT

このコマンドは、指定したメッセージをイベントログに出力します。

構文 JALERT [/M[ANAGER]] [/P[AGER]]
 [/W [/U:1～:9] | /E [/U:1～:9] | /I [/U:1～:9]] "メッセージ"

パラメータ /M[ANAGER]
 指定したメッセージをイベントログに出力するとともに、メッセージ内容をESMPRO/ServerManagerに通知します。

 /P[AGER]
 指定したメッセージをイベントログに出力するとともに、ページャに通知します。

 /W [/U:1～:9]
 メッセージのレベルを警告(黄)にします。
 [/U:1～:9]のいずれかを設定すると、イベントIDが5111～5119となります。省略した場合は「5110」になります。

 /E [/U:1～:9]
 メッセージのレベルをエラー(赤)にします。
 [/U:1～:9]のいずれかを設定すると、イベントIDが5121～5129となります。省略した場合は「5120」になります。

 /I [/U:1～:9]
 メッセージのレベルを情報(緑)にします。
 [/U:1～:9]のいずれかを設定すると、イベントIDが5101～5109となります。省略した場合は「5100」になります。

 "メッセージ"
 イベントログに出力するメッセージを256バイト以内で指定します。
 このパラメータは省略することができません。

コマンドの戻り値

終了コード	説明
0	正常に出力しました。
1	パラメータエラーです。
2	イベントログへの出力に失敗しました。

注意：ESMPRO/ServerManagerに通報するには、このコマンドを実行するマシンにESMPRO/ServerAgentをインストールしておく必要があります。

JMAIL

このコマンドは、携帯端末等へメールを送信します。

書式 1 JMAIL /To:送信先 [/Cc:写し送信先] [/Bcc:隠し写し送信先] /From:送信元
/Subject:題名 “メッセージ”

パラメータ /To:送信先

メールの送信先メールアドレスを指定します。

[/Cc:写し送信先]

メールの写し送信先メールアドレスを指定します。

[/Bcc:隠し写し送信先]

メールの隠し写し送信先メールアドレスを指定します。

/From:送信元

メールの送信元メールアドレスを指定します。

/Subject: 題名

メールの題名を指定します。

“メッセージ”

メールの本文を指定します。

書式 2 JMAIL /Msgfile:<msgfile>

パラメータ /Msgfile:<ファイル名>

メールの送信先や本文等を記述したファイル名を指定します。

フォーマットは次の通りです。

To: <送信先メールアドレス>

Cc: <写し送信先メールアドレス> #この行は省略可

Bcc: <隠し写し送信先メールアドレス> #この行は省略可

From: <送信元メールアドレス>

Subject: <題名>

(一行空ける)

＜メッセージ本文＞

コマンドの戻り値

終了コード	説明
0	正常に終了しました。
1	パラメータの指定が誤っています。
2	メモリが不足しています。
3	メールサーバと通信できません。
4	メールサーバに関する設定が不正です。
5	定義ファイルのフォーマットが不正です。
6	メッセージファイルの読み込みに失敗しました。 または、To:From:の記述がありません。
7	メールサーバとの接続が切断されました。
8	メールサーバで認証エラーが発生しました。

注意：事前にJMSSインストールフォルダのJMailCfgにてメールサーバに関する設定を行ってください。

JVER

このコマンドは、JMSSの製品情報、JMSSインストールファイル情報、キュー情報、稼働マシン情報を表示します。

構文 **JVER** [情報種別 [情報種別…]]

パラメータ 情報種別 [情報種別…]

情報種別として以下を指定します。

省略時は、JMSS製品情報(/jオプション)を表示します。

/a

全ての情報を表示します。

/j

JMSS製品情報を表示します。

/f

JMSSインストールファイル情報をdirコマンドと同形式で表示します。

/q

キュー情報を表示します。(JMSSサーバ上でのみ有効です)

/m

稼働マシン情報を表示します。(JMSSサーバ上でのみ有効です)

コマンドの戻り値

終了コード	説明
0	正常に終了しました。
50	パラメータの指定が誤っています。
53	JMSS がインストールされていません。

JCSVLOG

このコマンドは、指定された範囲内でJLookログをCSV出力します。

構文 JCSVLOG [/s:サーバ名] [/sd:開始日付] [/ed:終了日付]
 [/f:出力種別] [/j:ジョブ番号] ["ファイル名"]

パラメータ **/s:サーバ名**
 接続先サーバ名を指定します。
 省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

/sd:開始日付
 出力範囲の開始日付を指定します。
 省略時はログの先頭から出力します。
 <値形式> YYYY/MM/DD(西暦/月/日)

/ed:終了日付
 出力範囲の終了日付を指定します。
 省略時はログの最後まで出力します。
 <値形式> YYYY/MM/DD(西暦/月/日)

/f:出力種別
 出力種別として以下のいずれかを指定します。
 省略時はすべてのジョブ情報を出力(/aオプション)します。
 e: 終了ジョブのみ出力
 a: 実行中を含むすべてのジョブを出力

/j:ジョブ番号
 出力を開始するジョブ番号を指定します。
 省略時は該当するすべてのログを出力します。
 <値範囲> 1 ~ 2,147,483,647

"ファイル名"
 出力ファイル名を指定します。
 既にファイルが存在する場合、上書きします。
 省略時には画面に表示します。

コマンドの戻り値

終了コード	説明
0	正常に出力しました。
50	パラメータの指定が誤っています。
55	指定されたジョブがありません。
65	JMSS セキュリティの取得に失敗しました。
66	現在のユーザに必要なセキュリティがありません。

JCSVSCH

このコマンドは、スケジュール/カレンダー/イベント起動データをCSV形式で入出力を行います。

構文 JCSVSCH [/s:サーバ名] 入出力種別
 [/q:置換後ジョブキュー名] "ファイル名"

パラメータ /s:サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

入出力種別

CSV入出力種別として以下のいずれかを指定します。

/sn CSVからスケジュールデータを入力(新規)します。

既に登録されているスケジュールは全て削除されます。

/sa CSVからスケジュールデータを入力(追加)します。

/so CSVへスケジュールデータを出力します。

/hn CSVからカレンダーデータを入力します。

/ho:"カレンダー名"

CSVへカレンダーデータを出力します。

出力カレンダー名を指定してします。

/en CSVからイベント起動データを入力(新規)します。

既に登録されているイベント起動は全て削除されます。

/ea CSVからイベント起動データを入力(追加)します。

/eo CSVへイベント起動データを出力します。

/q:置換後ジョブキュー名

指定されたジョブキュー名に置換します(入力時のみ)。

省略時には置換しないでそのまま入力します。

"ファイル名":

入出力CSVファイル名を指定します。

コマンドの戻り値

終了コード	説明
0	正常に終了しました。
21	CSV ファイルに出力するデータがありません。
50	パラメータの指定が誤っています。
51	JMSS サーバに接続できません。
53	JMSS がインストールされていません。
59	指定されたスケジュールがありません。
60	指定されたカレンダーがありません。
64	指定された CSV ファイルの内容が不正です。
65	JMSS セキュリティの取得に失敗しました。
66	現在のユーザに必要なセキュリティがありません。
70	処理が完了しませんでした。
73	登録可能数の上限を超えました。

注意： 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。また、スケジュールが参照されている場合も、スケジュール関連コマンドを使用することはできません。

JCTLSOX

このコマンドは、操作ログ出力の開始/停止/切替を行い、操作ログ環境情報を表示/設定します。

構文 **JCTLSOX** [要求パラメータ種別] | [変更パラメータ種別 パラメータ]

パラメータ 要求パラメータ種別

要求したいパラメータの種別を指定します。

on ログの出力を開始します。

off ログの出力を停止します。

renew ログファイルを切り替えます。

look 操作ログ(JLook)を切り替えます。

schedule 操作ログ(JSchedule)を切り替えます。

all 全ての操作ログを切り替えます。

変更パラメータ種別

変更したいパラメータの種別を指定します。

mode 切替タイミングを指定します。

day 日付で切り替えます。

size サイズで切り替えます。

daysize 日付とサイズで切り替えます。

ctime 切替時刻を「hh:mm」の形式で指定します。

size 最大サイズを1-100(MB)で指定します。

dir 作成ディレクトリを指定します。

interval リトライ間隔を100-1000(ミリ秒)で指定します。

retry リトライ回数を1-100(回)で指定します。

option ログ出力エラー発生時のサービス動作を指定します。

stop サービスを停止します。

none サービスを停止しません。

※パラメータ種別を省略した場合は、現在の環境情報が表示されます。

このコマンドの詳細は、[スタート]メニューの[すべてのプログラム]-[ESMPRO/JMSS]-[マニュアル]-[内部統制対応ガイド]をご参照ください。

コマンドの戻り値

終了コード	説明
0	正常に終了しました。
50	パラメータの指定が違います。
51	JMSS サーバに接続できません。
53	JMSS がインストールされていません。
65	セキュリティ情報の取得に失敗しました。
66	現在のユーザに必要なセキュリティ権限がありません。
70	処理が完了しませんでした。
81	操作ログ環境情報の取得に失敗しました。
82	操作ログ環境情報の更新に失敗しました。
83	操作ログ作成ディレクトリが不正です。
84	操作ログ切替要求は無効です。
100	その他のエラー

注意： ログ出力を停止するよう指定した場合には、JLookサービスの再起動が必要です。

JCTLSRV2

このコマンドはWindowsのサービスを制御します。

構文 JCTLSRV2 [/M:マシン名] [/S] [/DA|/D] [/T:秒] [/A] [/R]
 /C:要求種別 ["サービスの表示名" | サービス名]

パラメータ /M:マシン名
 制御を行うマシン名を指定します。
 省略時はローカルマシンのサービスを制御します。

 /S
 サービスをコントロールパネルの [サービス] アプリケーションで表示
 される「サービス名」で指定していることを表します。

 /DA
 指定されたサービスに依存する全てのサービスに対して同じ制御を行います。
 省略時は依存するサービスの制御は行いません。

 /D
 指定されたサービスに依存するサービスに対して同じ制御を行います。
 このオプションは要求制御に再起動(/C:reboot)を指定したときのみ有効
 です。(その他の場合は /DA と同等です)
 停止に成功したサービスのみ開始処理を行います。既に停止済みのサー
 ビスは開始されません。
 省略時は依存するサービスの制御は行いません。

 /T:秒
 サービス制御の応答時間を制限したい場合に指定します。指定できる時
 間は10秒～999秒です。
 依存サービスも制御するように指定した場合、それぞれのサービス毎に
 この応答タイムアウトが適用されます。
 省略時はサービス制御から応答が返ってくるまで待ち合わせます。

 /A
 指定されたサービスが既に要求状態であった場合は異常終了させます。
 省略時は指定されたサービスが既に要求状態であった場合は正常終了し
 ます。

 /R
 正常終了時に指定されたサービスの現在状態を戻り値とします。
 省略時は正常終了値が0となります。

/C:要求種別

指定されたサービスへ要求する制御を指定します。

このパラメータは省略できません。

- /C:start サービスを開始します。
- /C:stop サービスを停止します。
- /C:pause サービスを一時停止します。
- /C:continue サービスを再開します。
- /C:status サービスの現在状態を取得します。
- /C:reboot サービスを停止後、開始します。
- /C:auto サービスのスタートアップ種類を「自動」に設定します。
- /C>manual サービスのスタートアップ種類を「手動」に設定します。
- /C:disable サービスのスタートアップ種類を「無効」に設定します。

“サービスの表示名”

制御を行うサービス名を指定します。

このコマンドは、管理者権限を持つユーザアカウントで起動される必要があります。

コマンドの戻り値

終了コード	説明
0	正常に終了しました。
1	サービスは停止しています。
2	サービスは開始しています。
3	サービスは一時停止しています。
4	サービスは停止中です。
5	サービスは開始中です。
6	サービスは再開中です。
7	サービスは一時停止中です。
8	スタートアップの種類は「自動」です。
9	スタートアップの種類は「手動」です。
10	スタートアップの種類は「無効」です。
50	パラメータの指定が違います。
51	マシンに接続できません。
52	サービスに接続できません。
53	サービスに要求した制御を行えません
54	サービスの状態を取得できません。
55	応答タイムアウトしました。
56	サービスは既に要求状態です。
100	その他のエラーが発生しました。

JDCFG

このコマンドは、JDの起動時、JMSSサーバと接続できなかった場合にリトライを行う間隔/回数を表示/設定します。パラメータを省略した場合は、現在の設定情報が表示されます。

構文 **JDCFG** [/I[INTERVAL]:リトライ間隔] [/C[OUNT]:リトライ回数]

パラメータ [/I[INTERVAL]:リトライ間隔]

リトライ間隔をミリ秒単位（100～10000）で指定します。

[/C[OUNT]:リトライ回数]

リトライ回数（1～60）を指定します。

コマンドの戻り値

終了コード	説明
0	正常に終了しました。
50	パラメータの指定が違います。
81	JD 環境情報の取得に失敗しました。
82	JD 環境情報の登録に失敗しました。

注意：①サーバのOSがWindows Server 2008、Windows Server 2008 R2の場合のみ、設定が有効となります。
②このコマンドをWindows Server 2008、Windows Server 2008 R2で実行するには、管理者権限が必要です。
コマンドプロンプトを「管理者として実行」を選択して開き、JDCFGコマンドを実行してください。

JOFF

このコマンドは、ESMPRO/AutomaticRunnigControllerと連携しマシンの電源を切断します。

構文 JOFF [/C[ANCEL]] ¥¥マシン名

パラメータ [/C[ANCEL]]

JOFFを使用して要求した電源切断を取り消します。

省略すると、指定したマシンの電源を切断します。

¥¥マシン名

電源を切断するマシン名を指定します。

マシン名としてJMSSサーバまたはジョブ稼働マシンを指定することができます。このパラメータは省略することができません。

コマンドの戻り値

終了コード	説明
0	正常に終了しました。
1	パラメータエラーです。
2	JMSS サーバが見つかりません。
3	JMSS サーバと通信できません。
4	指定したコンピュータ名が不正です。

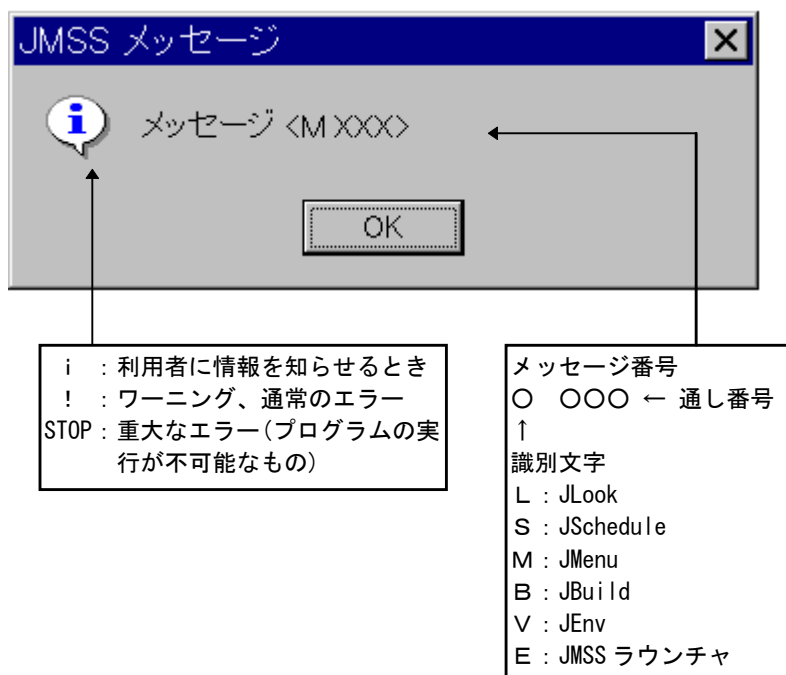
注意: ①マシンの電源を切断するためには、ESMPRO/AutomaticRunningController およびUPS 装置が必要です。
②このコマンドを実行すると実行中のジョブは全て強制終了され、終了コードが 0xFFFFFFFFCとなります。
③このコマンドをバッチファイルで使用する場合は、コマンドの前にJCMDを付加する必要があります。

第6章 メッセージ形式

ここでは、JMSS を使用中に表示するメッセージの形式について説明します。
表示するメッセージ番号の詳細は、オンラインヘルプを参照してください。

●JMSSメッセージ表示形式

メッセージの表示形式は、次のとおりです。



第7章 起動エラーコード

●起動エラーコード

JMSS では、ジョブが起動エラーとなった場合、エラーの原因別に終了コードをセットしています。

セットされるエラーコードと原因については、オンラインヘルプを参照してください。

●終了コード

プログラム実行後の終了コードの説明は、プログラムの説明書を参照してください。

Win32API のエラーコードが終了コードとなっている場合は、「net helpmsg」でエラー内容を確認することができます。コマンドプロンプトから

```
prompt>net helpmsg <エラーコード(10進)>
```

を実行してください。

第8章 諸元

JMSS の諸元は、次の通りです。

諸元項目	標準版	Enterprise Edition
稼働マシン数(含 JMSS サーバ)	26 台	52 台
同時実行可能なジョブ数	100 個	200 個
1 ジョブネットワークに登録できるジョブボックス数	128 個	256 個
分岐ボックスの最大数	16 個	32 個
ジョブキュー数	26 個	52 個
1 ジョブキュー最大登録数	100 ジョブ	200 ジョブ
マシン多重度	100	200
スケジュール最大登録数	200 件	400 件
スケジュール実行履歴保存期間	10 日	←
イベント起動最大登録数	200 件	←
設定できるカレンダー	2037 年まで	←
カレンダー最大登録数	50 個	←
カレンダー休止日最大登録数(日指定)*	100 日/カレンダー	←
休日ルール最大設定数(日指定+曜日指定+解除日)	400 個	←
最大監視ジョブ件数	10,000 件	50,000 件
ジョブ番号の上限	2,147,483,647	←
1 メニュー最大登録業務ボタン数	40 個	←

*祝日は含まれません

第9章 注意事項

●旧バージョンの開発キット JAPI との互換

JMSS Ver 2.0 ～ 4.0 開発キット JAPI を使用して作成したユーザアプリケーションは、ジョブキュー参照 API を除き、そのまま JMSS Ver7.2 上で使用することができます。ただし、JMSS Ver7.2 の JAPI.DLL を使用してください。

ジョブキュー参照 API を使用するには、JMSS Ver7.2 開発キット JAPI の開発環境で再ビルドを行う必要があります。

JMSS Ver 5.0～ 7.1 開発キット JAPI を使用して作成したユーザアプリケーションは、そのまま JMSS Ver7.2 上で使用することができます。

ただし、JMSS Ver7.2 の JAPI.DLL を使用してください。

JMSS Ver 6.0～ 7.1 開発キット JAPI を使用して作成した、Visual Basic .NET/Visual C# .NET ユーザアプリケーションを利用するには、JMSS Ver7.2 の JapiDotNet.Interop.dll を使用してください。

JAPI.DLL、JapiDotNet.Interop.dll は、JMSS インストール CD-ROM 内にあります。

●Windows Server 2008 にてジョブを実行する場合

Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2 上で、管理者権限の必要なジョブ（起動時にユーザーアカウント制御ダイアログが表示されるようなジョブ）をデスクトップで実行する場合、JMSS によるジョブの自動実行が行えない可能性があります。

その場合、JMSS/JD の起動方法を変更する必要があります。

詳細は、「1.4.9 JMSS/JD とは」「1.4.10 ジョブの実行ユーザ・実行場所」をご参照ください。

●Windows Server 2008 にて対話型サービスダイアログの検出ダイアログが表示される場合

Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2 にて対話型サービス検出サービス「Interactive Services Detection」を起動し、デスクトップと対話をするプログラムを「サービスアカウントで起動」した際、「対話型サービス ダイアログの検出」ダイアログが表示される場合があります。

その場合は、プログラムの終了を待つか強制終了し、次回以降は「ログオンユーザアカウントで起動」するようにしてください。

●システム時刻の変更

JMSS 稼働中に、マシンのシステム時刻を変更しないでください。

どうしても変更しなければいけない場合に限り、以下の手順で日付を変更してください。

- ①JMSS から投入したジョブをすべて終了させます。
- ②ESMPRO/JMSS JLook サービス、ESMPRO/JMSS JSchedule サービスを停止します。
- ③システム時刻を変更します。
- ④ESMPRO/JMSS JLook サービス、ESMPRO/JMSS JSchedule サービスを起動します。

付録1 関連製品

付録 1-1 ESMPRO/JMSS 開発キット JAPI

開発キット JAPI では、JMSS で提供する多彩なジョブ制御機能をユーザアプリケーションから利用できるライブラリを提供しています。

提供物件一覧

開発キットを利用すると、COBOL 85、Visual Basic、Visual C++、Visual C#.NET Visual Basic.NET から JMSS 機能を利用することが可能です。

- ・インポートライブラリとダイナミックリンクライブラリ
- ・インクルードファイル
- ・サンプルソース
- ・オンラインヘルプ
- ・ホスト連携機能(ファイルの生成をトリガとするジョブ起動)

提供API一覧

提供 API	説明
ジョブ投入	ユーザアプリケーションから直接ジョブキューにジョブを投入できます。
ジョブ終了待ち	特定のジョブが終了するまで待ち合わせを行います。
ジョブ状態取得	特定のジョブの状態を取得します。
ジョブ強制終了	特定のジョブを強制終了します。
派生ジョブ一覧問合せ	特定のジョブの派生ジョブ一覧を問い合わせます。
現ジョブ番号取得	現在のジョブのジョブ番号(JMSS がジョブに付加した一意の番号)を取得します。
errorlevel 設定 (VisualBasic のみ)	現在のジョブの errorlevel を設定します。
イベント送信	指定されたドメインの JMSS サーバが管理しているジョブキューにイベントを送信します。
イベント受信	指定されたイベントを受信します。
ジョブキュー参照	ジョブキュー参照ダイアログを表示します。
アラート通報	イベントログや ESMPRO/ServerManager、ページャへアラート通報します。

付録 1-2 ESMPRO/JMSS ユーティリティ

ユーティリティでは、業務構築に便利なコマンド群を提供しています。

提供コマンド(抜粋)

分類	コマンド名	概要	おもな利用用途
B A T 強化	スリープコマンド	指定時間、スリープする	並列実行するプログラムの起動タイミングの微調整を行う場合
	終了コード指定コマンド	指定された値を終了コードとして終了する	ジョブネットの異常終了分岐処理の評価等に利用
	指定時間待ちコマンド	指定された時間まで、待ち合わせる	連携ジョブの起動タイミングの同期をとる場合
	シャットダウンコマンド	指定時間後、シャットダウンする	一日の業務の最後にシャットダウンを行う場合
	VB 終了コード指定コマンド	VB で作成したプログラムの終了コードを取得	VB で作成したプログラムの終了コードを取得する場合
	日付・曜日返却コマンド	今日の日付・曜日を取得	曜日によって実行するジョブを変更する場合
	メッセージダイアログ表示コマンド	メッセージダイアログを表示	ジョブの実行中にオペレータの確認をとりたい場合
サ ー ビ ス	サービス制御コマンド	指定されたマシンのサービスを開始、停止する。(稼働マシンも含む)。インストール、アンインストールもサポートする	サービスの制御を JMSS で行う場合
	サービス状態取得コマンド	指定されたサービスの状態を取得	サービスの状態により実行するジョブを変更する場合
J M S S 環 境	標準出力保存先ディレクトリ変更コマンド	標準出力先を変更 ログファイル内の関連情報変更	標準出力ディスクが溢れた場合に動的に変更する場合
	ジョブキュー情報表示/設定コマンド	ジョブキューの開閉、一覧参照	ジョブキューを指定時間に開閉する場合
	ジョブキュー・稼働マシン追加・削除コマンド	ジョブキュー・稼働マシンの追加および削除	稼働マシンをリモートから追加する場合
ジ ョ ブ 情 報	ログクリアコマンド	ジョブ監視ログおよびジョブ番号を初期化する	本番運用時にジョブ監視ログおよびジョブ番号をクリアする場合
	標準出力内容表示コマンド	指定ジョブの標準出力内容を表示	コマンドラインで標準出力の内容を確認する場合

分類	コマンド名	概要	おもな利用用途
スケジュール	スケジュールデータ表示コマンド	指定日時のスケジュールデータを表示する	コマンドラインでスケジュールデータの内容確認を行う場合
	スケジュールデータ一時変更コマンド	指定日時のスケジュールデータを一時変更する	コマンドラインでスケジュールデータの一時変更を行う場合
	カレンダー表示コマンド	指定の名前のカレンダー情報を表示する	コマンドラインでカレンダーの内容確認を行う場合
	イベント起動データ表示コマンド	指定されたイベントで起動されるジョブのデータを表示する	コマンドラインでイベント起動の内容確認を行う場合
	イベント起動有効フラグ設定コマンド	指定されたイベントの有効/無効フラグを設定する	コマンドラインでイベント起動の設定を変更する場合
メニュー	JMenu データ一括置換コマンド	メニューデータ内の文字列を一括置換する(置換項目は選択可とする)	サーバ移行時、メニュー内のデータを一括して置換する場合
	JMenu 環境設定コマンド	JMenu のユーザ毎の環境を設定できる	サーバ移行時、ユーザ環境を設定する場合
ジョブネット	ジョブネットファイル内データ一括置換コマンド	ジョブネットファイル内の文字列を一括置換する	サーバ移行時、マシン名やキュー名変更時、ジョブネット内のデータを一括して置換する場合

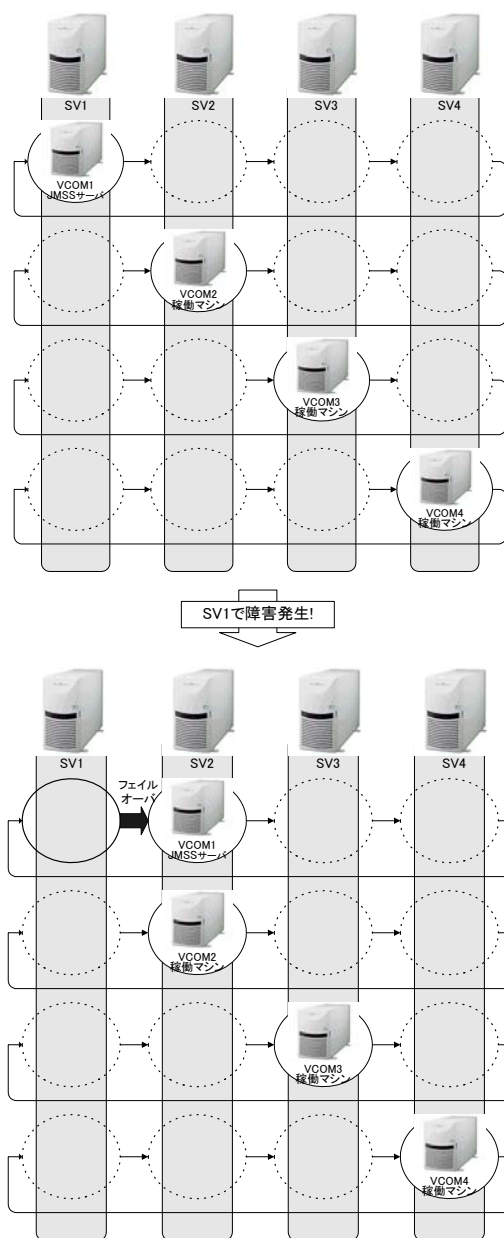
付録 1-3 ESMPRO/JMSS クラスタ連携オプション

クラスタシステムで ESMPRO/JMSS を利用するためのオプションです。
クラスタ連携オプションは、次の場合に必要となります。

(CLUSTERPRO にてクラスタ化する場合のみ)

- ・ JMSS サーバを双方向(Active-Active)クラスタで運用する場合
- ・ JMSS サーバを片方向(Active-Standby)クラスタで運用し、稼働マシンを追加する場合

詳細は「ESMPRO/JMSS クラスタ連携オプション」のマニュアルを参照してください。



付録 1-4 ESMPRO/JMSS EventManager

EventManager は、イベント (事象) の発生をトリガとしてジョブを実行(アクション)するためのオプションです。

ファイルの更新、データのコピー、イベントログへの出力など、事象の変化に合わせたジョブの実行が可能となります。

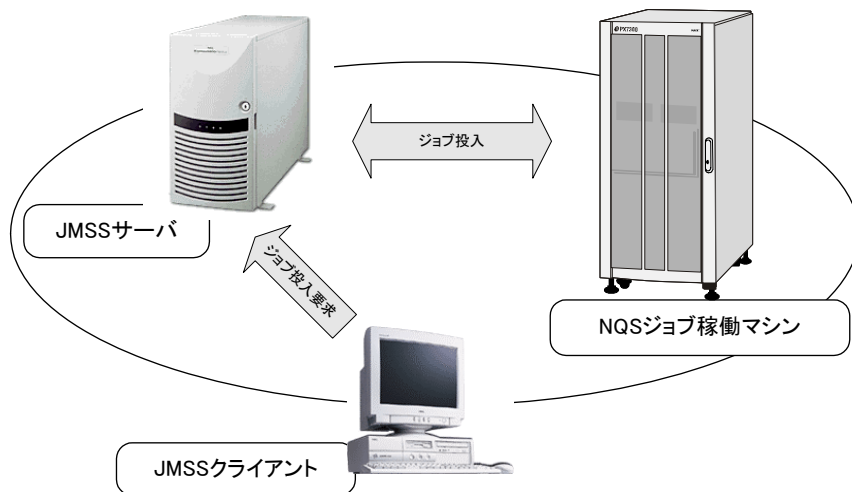
詳細は「ESMPRO/JMSS EventManager」のマニュアルを参照してください。



付録 1-5 ESMPRO/JMSS ジョブ連携オプション

NQSをサポートしているジョブ運用管理ソフトと連携するためのオプションです。

詳細は「ESMPRO/JMSS ジョブ連携オプション」のマニュアルを参照してください。



付録2 Q&A集

JMSS の Q&A 集です。

1. JMSS 全般

	Q	A	章
1-1	必要なライセンス数はどう数えるのですか？	ジョブを実行させるサーバ台数分 JMSS 本体を購入してください。	1.4.2
1-2	JMSS が動作する Windows のバージョンは？	製品通知を参照してください。	-
1-3	JMSS/ジョブ運用管理と、ESMPRO/JMSS との違いは？	ESMPRO/JMSS は、JMSS/ジョブ運用管理の全機能に加え、他の ESMPRO 製品との連携が可能です。 他の ESMPRO 製品との連携によって、ドメインを超えた広範囲な業務運用、障害情報の通報、安全な電源停止が可能なので、大規模なシステムに適しています。	4
1-4	JMSS/JD とは何ですか？	JMSS のジョブ起動デーモンです。GUI ジョブを実行するときには常駐していなければなりません。	1.4.9
1-5	JLook、JSchedule、JMenu、JEnv 起動時「JMSS 利用権がありません」のメッセージが表示されるのですが？	ログオンユーザに JMSS 利用権がありません。JEnv で JMSS セキュリティの設定を行ってください。デフォルト以外の JMSS サーバに接続する場合には他 JMSS サーバの JMSS セキュリティ設定を行ってください。	6.10 2.6.11
1-6	セットアップが異常終了するのですが？	①ワークグループかどうかを確認してください。ワークグループで運用する場合には、セットアップカードを参照し、セットアップしてください。 ②Administrators グループのユーザでセットアップしてください。 ③ディレクトリ、レジストリのアクセス権を確認してください。	-
1-7	アンインストールに失敗するのですが？	①エクスプローラが JMSS のファイルを使用していないかどうかを確認してください。 ②他のアプリケーションが JMSS のファイルを使用していないか確認してください。 ③ディレクトリ、レジストリのアクセス権を確認してください。 ④ウイルス対策ソフトが動作している場合は、停止させてからアンインストールを実施してください。	-
1-8	JAPI とは何ですか？	ユーザアプリケーションから JMSS で提供するジョブ制御機能が利用できる関数ライブラリ製品です。	付録 1-1

	Q	A	章
1-9	サーバから他のサーバにジョブの起動／強制終了を行うことは可能ですか？	同一ドメインのサーバならば可能です。 ただし、同一ドメイン内に複数の JMSS サーバが存在する場合は、1-22 を参照してください。	2.2 2.2.4
1-10	標準出力登録ディレクトリは定期的にファイルを削除する必要がありますか？	最大ジョブ件数を超えてログが削除されるときに関連付けられているファイルが削除されますので不要です。ただし、ユーザ指定の標準出力ファイルは削除対象にはなりません。	-
1-11	インストール後、マシン名の変更をする場合には、どうしたら良いでしょうか？	①マシン名を変更後、再度インストール(上書きインストール)を行ってください。 ②ESMPRO/JMSS ユーティリティで提供している JMSS サーバ名変更コマンドを利用してください。	2.6.7
1-12	1つのドメインに JMSS サーバを2 つ以上混在させることはできますか？	可能です。ただし、JMSS サーバを、別の JMSS サーバの稼働マシンとすることはできません。	-
1-13	ジョブの運用に関して、特定の人しか扱えないようにガードはかけられますか？	JMSS セキュリティでガードがかけられます。	4.8 6.10 2.6.11
1-14	ジョブの運用を行う際に使う便利なコマンドはありませんか？	JMSS 関連製品の ESMPRO/JMSS ユーティリティでジョブの運用を行う際に使う便利なコマンド集を提供しています。	付録 1-2
1-15	JMSS 関連製品にはどのようなものがありますか？	API を集めた JAPI、便利なコマンドを集めたユーティリティ、NQS マシンと連携することが可能なジョブ連携オプション、クラスタ運用が可能となるクラスタ連携オプション、イベント(事象)の発生をトリガとしてジョブの起動が可能となる EventManager があります。	付録 1
1-16	administrator のパスワードを変更したら JMSS が起動できなくなったのですが？	ESMPRO/JMSS JLook Service のプロパティのパスワードを変更してください。 セキュリティ等の関係で定期的に administrator のパスワードを変更している場合は、JMSS 用のユーザを作成して運用することをおすすめします。	-
1-17	標準出力ファイル作成ディレクトリが変更されてしまったのですが？	JMSS のサービス起動時に、標準出力ファイル作成ディレクトリの存在チェックをしています。 その際、指定されたディレクトリが存在しなかった場合(ディレクトリが削除された、共有が解除された等)は、出力先を JMSS インストールディレクトリに変更します。	-
1-18	JMSS サーバのコンピュータ名を変更したのですが、JMSS はどうすればいいですか？	JMSS に保存されている JMSS サーバ名を変更する必要があります。コンピュータ名変更後、上書きインストールを行うか、ESMPRO/JMSS ユーティリティの JMSS サーバ名変更コマンドを利用してください。	-
1-19	ドメイン名を変更したのですが、JMSS はどうすればいいですか？	上書きインストールを行ってください。	

	Q	A	章
1-20	イベントログに、イベント ID : 1708 が出力されたのですが？	このメッセージは、ESMPRO/AutomaticRunning Controller との初期接続でタイムアウトが発生した場合に出力されます。 UPS に接続している拡張ボードの枚数や、システムに登録されているサービスの数により初期接続でタイムアウトが発生することがあります。 JMSS インストールディレクトリにある jmsslksv.ini に下記の 3 行を追加してください。 <pre>[ESMPC] Retry=60 Interval=1000</pre> ※Retry はリトライ回数、Interval はリトライ間隔(ms) を意味します。 ※ESMPRO/AutomaticRunningController のインストールのみで利用していない場合は、このメッセージは無視してください。設定変更も不要です。	4.3
1-21	他のドメインの JMSS サーバを監視したいのですが？	ESMPRO/ServerManager の統合ビューアから JMSS を利用してください。	4.1
1-22	同一ドメインに複数の JMSS サーバがあるのですが、何か注意することはありますか？	1 ドメイン内に存在する複数の JMSS サーバを、他の JMSS サーバの稼働マシンとして定義しないでください。 また、1 台の稼働マシンを複数の JMSS サーバの稼働マシンとして定義しないでください。 複数の JMSS サーバ間で同期しながらジョブの実行を行うときは、イベント機能をご利用ください。 1 台のクライアントから複数の JMSS サーバを監視する場合は、ESMPRO/ServerManager の統合ビューアから JMSS を起動してください。	
1-23	バージョンの違う JMSS での連携稼働は可能でしょうか？	構成が JMSS サーバと稼働マシンの構成になっている場合は、すべて同じバージョン・同じ製品(標準版 or EnterpriseEdition)にする必要があります。 それぞれ独立した JMSS サーバの場合は、異なるバージョン間でもイベント送受信機能を利用することで JMSS サーバ間で同期が可能です。	-
1-24	インストールされている JMSS が標準版か EnterpriseEdition が見分ける方法がありますか？	コマンドプロンプトで JVer コマンドを実行して表示される「製品種別」で見分けられます。 また、JEnv のサービス・JMSS モジュール環境の JLook 選択時、「設定 3」タブが選択可能である場合には EnterpriseEdition となります。	-

2. ジョブ関係

	Q	A	章
2-1	ジョブを実行すると下記のメッセージが出力されて起動できません。 「????.Dll の初期化に失敗しました」 「MS-IME の初期化に失敗しました」	①JMSS/JD が起動されているかどうか確認してください。 ②JMSS/JD が起動されていても表示される場合は、JEnv のサービス・JMSS モジュール環境のジョブ起動方式を"ログオンユーザアカウントで起動"に変更してください。	1.4.3
2-2	バッチファイル内の画面系アプリケーションが異常終了や DLL の初期化に失敗するのですが？	バッチファイル内に画面系アプリケーションを記述する場合には、その先頭に「JCMD」を付けてください。	1.4.4
2-3	投入したジョブがファイルが見つからないエラーになるのですが？	①ジョブの存在するディレクトリのアクセス権を確認してください。 ②ジョブの存在するディレクトリの共有ディレクトリのアクセス権を確認してください。	1.4.9
2-4	ユーザアプリケーションから起動したジョブを監視することは可能ですか？	別製品の JAPI の投入 API を使用すれば可能です。	付録 1-1
2-5	Visual Basic で作成したアプリケーションが ERRORLEVEL を返さないのですが？	Visual Basic の場合には ERRORLEVEL を返却する関数がありません。JMSS では次の回避方法を提供しています。 ①以下のような C プログラムを作成する。 C プログラムから Visual Basic アプリケーションを呼び出し、Visual Basic アプリケーションのエラーを C のプログラムに何らかの手段(ファイル出力等)を使用して通知し、C プログラムは exit()等を使用し ERRORLEVEL を返す。 ②ESMPRO/JMSS ユーティリティで提供されている VB 終了コード指定コマンドを利用する。 ③ESMPRO/JMSS 開発キット JAPI で提供されている errorlevel 設定 API を利用する。	付録 1-1 付録 1-2
2-6	JMSS から起動したバッチファイルの戻り値が 0xFF となるが？	CMD.EXE の内部エラーです。	第 7 章
2-7	ACOS からファイル転送した直後にジョブを起動することはできますか？	JAPI で提供しているホスト連携機能を利用すれば可能です。	付録 1-1
2-8	DDE クライアントのアプリケーションが動作しないのですが？	JEnv のサービス・JMSS モジュール環境のジョブ起動方式をログオンユーザアカウントにして投入してください。	2.6.8
2-9	JMSS からプログラムを実行すると、環境変数が見えなくなるのですが。	JMSS は、システム環境変数のみ参照可能です。ユーザ環境変数は参照できません。ユーザ環境変数を参照したい場合には、バッチファイルに環境変数をセットするか、システム環境変数に追加してください。	1.4.9

	Q	A	章
2-10	ジョブが 0x00000070 で終了しているのですが？	①プログラムの戻り値は、実行したプログラムの仕様に依ります。 ②Win32API のエラーコードをそのままプログラムの戻り値としているのであれば、net helpmsg 112 でエラー内容を確認できます。 上記の場合、 prompt> net helpmsg 112 ディスクに十分な空き容量がありません。 というエラー内容になります。	-
2-11	ジョブが 0xc000013a で終了しているのですが？	実行中のジョブがバッチファイルの場合、ウィンドウを強制終了するとこのエラーコードになります。	-
2-12	同一ドメイン間でないとジョブは実行できないのですか？	ドメインをまたいでジョブを実行したい場合には、イベント送受信機能を使用してください。	-
2-13	クライアント OS のマシンにジョブを投入できますか？	サーバ OS でなければジョブ稼働マシンにはできません。	-
2-14	マシン多重度 1 のマシンにジョブネットを投入したら、実行中のまま終了しないのですか？	JMSS ではジョブネット自体も 1 ジョブと認識しています。シリアルに実行したい場合は、ジョブネット自体とジョブボックスのジョブキューを別々にしてください。	-
2-15	ユーザアプリケーションで終了コードの指定方法について教えてください。	①Visual C++ ExitProcess 関数(プログラムの終了を行う)の引数に指定した値、もしくは main 関数のリターンコード、exit()関数で指定した値がそのジョブ(プログラム)の終了コードとなります。 (詳しくは Win32API のヘルプを参照してください) ②COBOL COMPLETION-CODE 特殊レジスタに設定後、STOP RUN 命令を実行するとその設定値がジョブの終了コードとなります。 (詳しくは COBOL の言語説明書を参照してください) ③Visual Basic ESMPRO/JMSS 開発キット JAPI で提供している API を利用します。 ④BAT ファイル 最後に終了したコマンドの終了コードが BAT コマンドの終了コードとなります。 EXIT コマンドにて設定することも可能です。	-
2-16	ARCserve のバックアップ作業と連携したいのですが？	ARCserve のバックアップ作業を起動するコマンドをジョブとして登録することで可能です。	3.1
2-17	ジョブが 0x40010001 で終了しているのですが？	OS が Windows Server 2003 で実行中のジョブが GUI プログラムの場合、ログオフするとこのエラーコードになります。	-

3. JLook

	Q	A	章
3-1	JLook の監視画面上は実行中となっているのにジョブの画面が表示されないのですが？	JMSS/JD が起動されているかどうか確認してください。 実行マシンがログインされているかどうかご確認ください。	1.4.9
3-2	JLook の終了コードとは何ですか？	プログラムが返すコード(バッチファイルにおける ERRORLEVEL)、または JMSS のシステムが返すコードです。	-
3-3	JLook のログで、最大件数分表示されていないのですが？	派生ジョブにもジョブ番号が割り当てられ、ジョブ件数にカウントされるのですが、TOP ウィンドウには表示されないため、最大件数未満しか表示されません。	-
3-4	JLook のログファイルは大きくなり続けるのですか？	古いジョブ情報を削除するタイミングで、対応するログ情報がファイルから削除されます。	-

4. JSchedule

	Q	A	章
4-1	登録したスケジュールの削除ができないのですが？	カレンダーウィンドウの指定日一覧チェックボックスが■(ON)になっていませんか？チェックボックスを□(OFF)にしてスケジュール全登録一覧から削除してください。	2.3.4
4-2	スケジュールデータを他のアプリケーションで参照できますか？	JMSS/JSchedule ではスケジュールデータを CSV 形式で保存できますので、保存後にエディタや表計算ソフトで加工することができます。	2.3.6

5. 諸元

	Q	A	章
5-1	同時実行可能なジョブ数は？	MAX100 ジョブ(1 台) × 26 台 = 2600 ジョブ/システムです。(EnterpriseEdition では、MAX200 ジョブ(1 台) × 52 台 = 10400 ジョブ/システム)	第 8 章
5-2	監視できるジョブ数の上限は？	1 万件(EnterpriseEdition では 5 万件)です。上限を超えると古いジョブから削除されます。	第 8 章
5-3	ジョブ番号の上限は？	2,147,483,647 です。上限を超えると 1 に戻ります。	第 8 章
5-4	1 つのジョブネットワーク内のジョブボックスの上限は？	128 個(EnterpriseEdition では 256 個)です。	第 8 章
5-5	1 ジョブキューに何ジョブまでキューイングできますか？	100 ジョブ/ジョブキュー(EnterpriseEdition では 200 ジョブ/ジョブキュー)です。	第 8 章
5-6	ジョブキュー数はいくつまで定義可能ですか？	デフォルト/ユーザジョブキューあわせて 26 個までです。	第 8 章
5-7	最大登録カレンダー数は？	50 カレンダーです(デフォルトカレンダー含む)。	第 8 章
5-8	多重度の数え方を教えてください。	例えば、次のようなバッチファイルを JLook から投入した場合、①と②が監視対象となり、多重度 2 を消費します。 <pre> a.bat ... ① ----- JCMD NOTEPAD.EXE ... ② NOTEPAD.EXE </pre> ジョブネットの場合は、ジョブネット自身と同時に実行しているジョブボックスの数だけ多重度を消費します。	1.4.5

ESMPRO®/JMSS®
Ver7.2
ユーザーズマニュアル

2012年 9月 初版

2012年 12月 2版

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

開発 NECソフト株式会社

東京都江東区新木場1-18-7
TEL (03) 5534-2222 (大代表)

(C) NEC Corporation 1995-2012

日本電気株式会社の許可なく複製・改編などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。